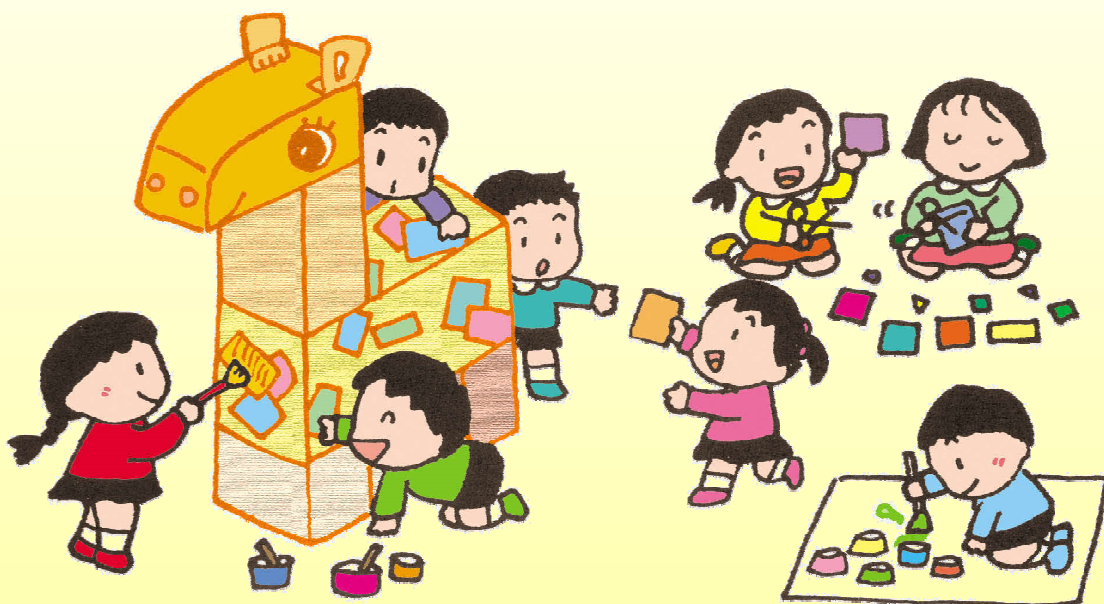


# 浦安市就学前「保育・教育」指針

## 改訂 いきいき☆浦安っ子

「乳児・幼児期にふさわしい生活の展開と  
学びの芽を育み、そして就学へ」



令和8年2月  
浦安市

# 目 次

## 第Ⅰ部 指針の改訂にあたって

1	子どもを取り巻く環境	1
2	浦安市の現状	2
3	指針策定の目的	3
4	育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	5

## 第Ⅱ部 浦安市の育てたい子ども像

1	浦安市の育てたい子ども像	6
2	発達の特徴と育ちの連続性	9

## 第Ⅲ部 保育・教育課程

1	保育・教育課程の実践	13
2	保育・教育課程の見方	14
3	年齢ごとの期分け	14
4	特色のある保育	15
	（1）地域との連携について	15
	（2）食育について	16
	（3）特別支援教育について	17
	（4）特別な配慮が必要な家庭への支援について	18
5	浦安市の保育・教育課程	19

## 第Ⅳ部 保育・教育の具体的な取り組み

1	0歳児の事例	47
2	1歳児の事例	51
3	2歳児の事例	55
4	3歳児の事例	59
5	4歳児の事例	64
6	5歳児の事例	69

## 第Ⅴ部 保育園・幼稚園・認定こども園と小学校との連携

1	子どもの発達と学びをつなぐ園と小の連携	74
2	浦安市の幼保小連携教育の考え方	75
3	子どもの発達と学びをつなぐ「4つのポイント」	76
4	幼児教育から小学校教育の「学び」のつながり	81
	具体的な取り組み	82
5	幼児教育と小学校教育のつながりと違い	90
6	浦安市園・小連携5歳児の学びのカリキュラム・スタートカリキュラム	94
7	架け橋期のカリキュラム	102

## 第Ⅵ部 職員の研修について

1	研修内容	104
2	研修の実施方法	105

## 資料編

・研修について .....	106
・評価について .....	108
・保育園の一日の生活 .....	109
・幼稚園・認定こども園の一日の生活 .....	110
・小学校の一日の生活 .....	111
・関係機関 .....	112
・策定・改訂メンバー .....	113

索引

あとがき



# 第 I 部 指針の改訂にあたって

## 1 子どもを取り巻く環境

### (1) 社会的背景

少子高齢化の進行、核家族化、都市化、情報化、グローバル化など、社会の急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化する一方で、人間関係の希薄化や、地域社会のコミュニティ意識の衰退が進み、社会全体として経済性や効率性を重視する傾向が強まっている。このような効率性重視の風潮の中で、「大人優先の社会風潮」が指摘されており、近年、国においては「こども家庭庁」を設置し、「こどもまんなか社会」の実現に向けた政策を推進している。

このように、子どもを取り巻く環境は、昨今の社会的背景によって大きく変化してきている。

### (2) 子どもの育ちの現状

子どもが成長し自立する上で、自己実現や成功などの体験はもとより、葛藤や挫折などの体験も含め、子ども自身が多様な体験を経験することが不可欠である。しかしながら、少子化や核家族化の進行により、子ども同士が集団で遊びに熱中し、互いに影響し合って活動する機会が減少するなど、様々な体験の機会が失われつつある。また、近年では、情報化やデジタル化の進展により、インターネットや SNS、オンラインゲームなどの体験が増え、他者とのかかわりが苦手、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない、運動能力の低下などの課題が指摘されている。加えて、子どもたちは、多くの情報に囲まれた環境にいるため、社会全体の知識は増えているものの、その知識は断片的で受け身的なものが多く、学びに対する意欲や関心が低いとの指摘もある。

### (3) 国の動向

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が平成 30 年 4 月に施行され、要領、指針内容の一層の整合性が確保され、国においては、「幼保小の架け橋プログラム」の全国的な推進も進められている。

令和 6 年 10 月文部科学省「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者会議」最終報告では、「1. 社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方」、「2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育活動の成果と課題」、「3. 必要な条件整備」が示された。また、令和 6 年 12 月こども家庭庁「保育政策の新たな方向性」では、「1. 地域のニーズに対応した質の高い保育の確保・充実」が示された。さらに、令和 7 年 9 月文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の論点整理では、「1. 直接的・具体的な体験の一層の充実」、「2. 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の推進」が示され、このうち幼児教育の質の向上・幼保小連携の円滑な接続を支える体制作りに関しては、「3. 地方自治体における支援体制の充実強化」が示された。

## 2 浦安市の現状

本市の総人口は、平成 27 年からの 10 年間に於いて増加傾向にあるが、子ども人口（0 歳から 17 歳）については、平成 27 年の 29,547 人と比較すると、令和 6 年では 4,804 人減の 24,743 人となり、減少傾向が続いている。

また、本市の合計特殊出生率は、令和 5 年 4 月時点で 0.86 となっており、全国（1.20）や千葉県（1.14）と比較すると、低い数値となっている。

子どもの減少は、地域活力の低下、生産年齢人口の減少、社会保障における費用負担の増加など、社会的、経済的に大きな問題となり、憂慮すべき事態である。

今後は、本市の未来を担うすべての子どもがすこやかに成長できるよう、安心して子を産み育てることができる環境づくり、幼児期が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であることから、質の高い幼児期の保育・教育を総合的に提供する環境づくりの充実が必要である。

### （1）保育園・幼稚園・認定こども園の現状

本市には、市立保育園 7 園、私立認可保育園 35 園、簡易保育所 4 園、市立幼稚園 3 園、幼稚園型認定こども園 10 園、私立幼稚園 5 園、私立幼保連携型認定こども園 1 園が存在している。令和 3 年以降、待機児童は発生していないが、共働き世帯の増加等の影響により、保育園の需要が高まり、幼稚園・認定こども園の園児数が減少している状況である。

多様化する保護者の就労形態や、家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児については、保育園、幼稚園等での延長保育や、一時預かり事業などを実施している。また、市立幼稚園では、理由を問わない一時預かり施設が併設され、市内在住の就学前の子どもがいる家庭や、在園児が必要に応じて利用することができる。加えて、幼稚園型認定こども園においては、在園児を対象とした一時預かり事業を実施している。

### （2）幼・保連携の取り組み

市では、市立保育園、市立幼稚園・認定こども園への計画訪問を実施し、保育士と幼稚園教諭それぞれが保育・教育を参観し、意見交換を行っている。

市立保育園、市立幼稚園・認定こども園による合同会議や、保育士研修会や幼稚園教諭研修会への相互参加なども行っている。就学前施設として共通する課題に向けて取り組み、質の高い保育と教育が提供できるよう、就学前「保育・教育」指針の改訂を行っている。併せて、市立・私立・簡易問わず市内の就学前保育・教育施設の長が一堂に会し、「就学前保育・教育施設連携会議」を開催し、今後の就学前保育・教育の方向性に向けて、意見交換、情報共有を行っている。

### 3 指針策定の目的

#### (1) 本市の特質

本市は、千葉県の北西部にあり、地形は東京湾の奥湾に位置し、市域の三方を海と河川に囲まれている。首都圏のベッドタウンとして海面埋め立てによる急激な宅地開発を行ってきた歴史の中で、保育・教育の推進を重点施策の1つと捉えてきた。現在は、市として、市立保育園7園、幼稚園3園、幼稚園型認定こども園10園を整備しており、それぞれの地域性を生かした保育・教育活動が展開されている。また、11の市立幼稚園・認定こども園は、市立小学校と隣接しており、幼児期から小学校の育ちと学びをつなぐため、中学校区の園小連携の中心的な役割を担っている。

#### (2) これまでの策定・改訂の経緯と目的

市内のすべての保育・教育施設において、同じように質の高い保育・教育が実践され、就学前の子どもたちが、等しく豊かな教育環境で成長できるよう、平成21年9月に、就学前「保育・教育」指針を策定した。

また、本指針については、保育・教育を取り巻く様々な環境の変化を踏まえ、策定から3年間を実施期間とし、実践の成果・課題を踏まえて4年目に改訂することとした。これに則り、平成25年3月に第1回改訂、平成29年2月には第2回改訂、令和4年2月に第3回改訂を行った。各改訂の主なポイントについては、以下のとおりである。

##### 【第1回改訂（平成25年3月）のポイント】

- 「浦安市教育ビジョン」（平成22年策定）と指針とのつながりを明確化。
- 「第Ⅳ部保育・教育の具体的な取り組みの事例」において、発達の連続性を具体化した事例を作成。
- 「第Ⅴ部保育園・幼稚園と小学校との連携」の内容の充実。

##### 【第2回改訂（平成29年2月）のポイント】

- 子ども・子育て支援新制度の開始（平成27年4月）に伴う内容の追記。
- 「浦安市子ども・子育て支援総合計画」策定（平成27年4月）に伴う内容の追記。
- 「第Ⅴ部保育園・幼稚園と小学校との連携」の内容の充実。
- 保育所保育指針・幼稚園教育要領の改定（改訂）を視野に入れた保育内容の検討。

### 【第3回改訂（令和4年2月）のポイント】

- 保育所保育指針・幼稚園教育要領（平成29年3月告示）の改定（改訂）に伴う内容の追記。
- 浦安市教育振興基本計画及び浦安市学校教育推進計画（令和2年3月）改訂に伴う追記。
- 「第Ⅳ部 保育・教育の具体的な取り組み事例」の見直し。
- 「第Ⅴ部 保育園・幼稚園と小学校との連携」の内容の充実。

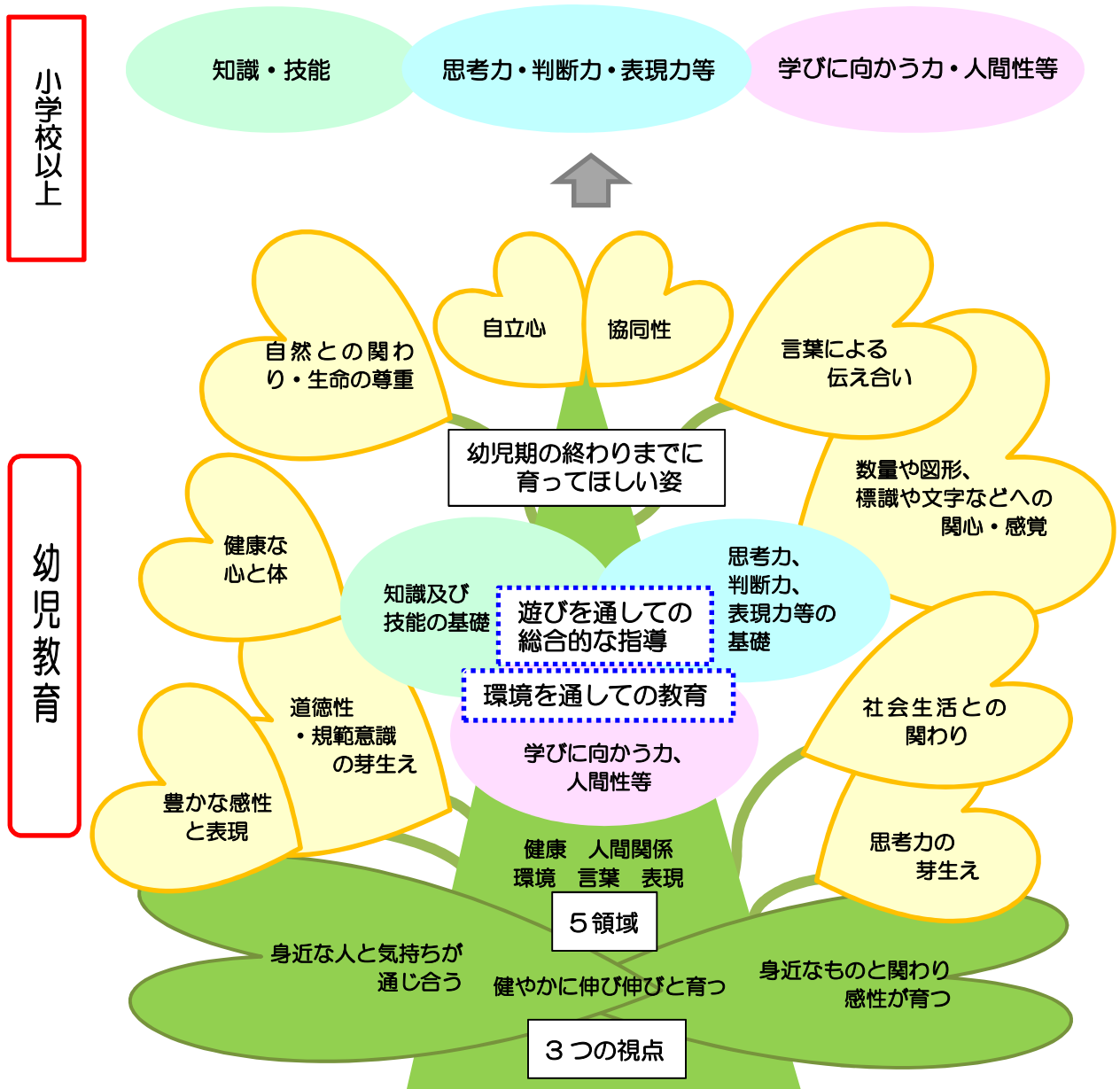
### （3） 今回の改訂（令和8年2月）のポイントについて

今回の改訂のポイントについては以下のとおりである。

- 「第Ⅲ部 保育・教育課程」1 保育教育課程の実践 図の見直し
  - ・就学前「保育・教育」指針 いきいき☆浦安っ子の位置づけについて表記を見直し、記載した。
- 「第Ⅲ部 保育・教育課程」に、地域との連携を追記
  - ・4 特色ある保育について、「浦安市学校教育推進計画」に示される目指すことにも像にある「豊かなかかわり」を踏まえ、園での実践を具体的に記載した。
- 「第Ⅲ部 保育・教育課程」の見直し
  - ・5 浦安市の保育・教育課程について、現状と照らし合わせ見直しを図り、記載した。
- 「第Ⅴ部 保育園・幼稚園・認定こども園と小学校との連携」の内容の充実
  - ・幼児教育と小学校教育の接続について、乳幼児期の学びの芽生えや、幼児期の遊びを通した学びと小学校の各教科等の学習のつながりが見えるようにし、幼保小の相互理解に生かされるよう事例を記載した。
- 「第Ⅴ部 保育園・幼稚園・認定こども園と小学校との連携」に、架け橋期のカリキュラムを記載
  - ・幼児教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児教育施設と、小学校の両者が連携の意識をもち、相互の共通理解を図ることを目的とし、「架け橋期のカリキュラム」を作成し、各中学校区にて活用できるようにした。
- 「第Ⅵ部 保育者の研修」に研修体系を記載
  - ・本市の就学前「保育・教育」環境の充実を図るための研修体系を記載した。

#### 4 育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領・保育所保育指針等で示しているねらい及び内容に基づいて、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、「育みたい資質、能力」が育まれている子どもの具体的な姿である。これらは、到達すべき目標ではなく、このように「育ってほしい」と保育者が願いながら保育するための観点であり、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくり、必要な援助をするなど、指導を行う際に考慮することが保育者に求められる。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに小学校と子どもの姿を共有することで、小学校への円滑な接続を図ることが必要としている。





第Ⅱ部

浦安市の育てたい子ども像

## 第Ⅱ部 浦安市の育てたい子ども像

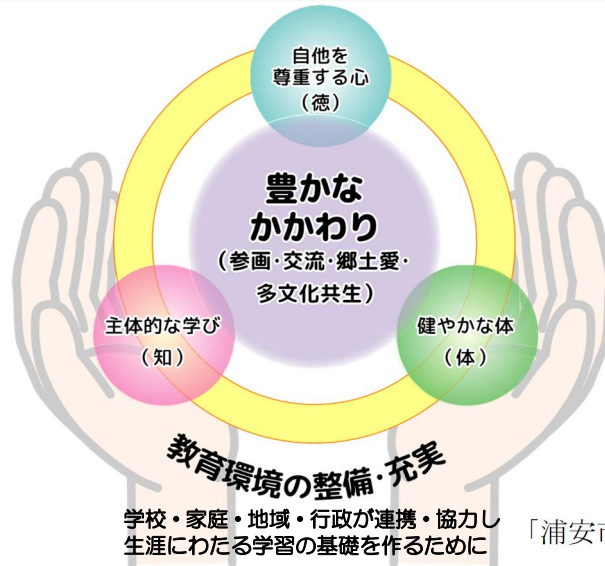
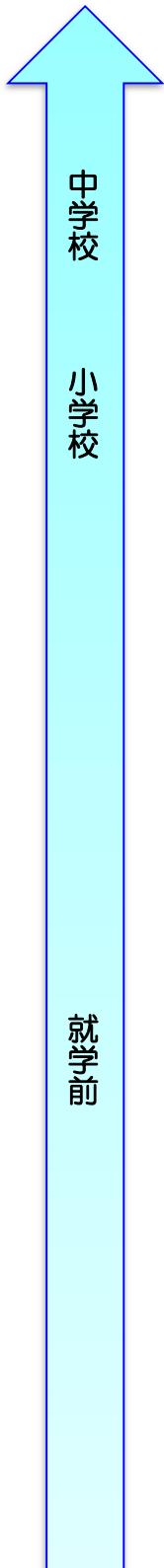
### 1 浦安市の育てたい子ども像

#### 浦安市教育振興基本計画

<基本理念> 学び 育み 認め合い 『未来を創造する』人づくり

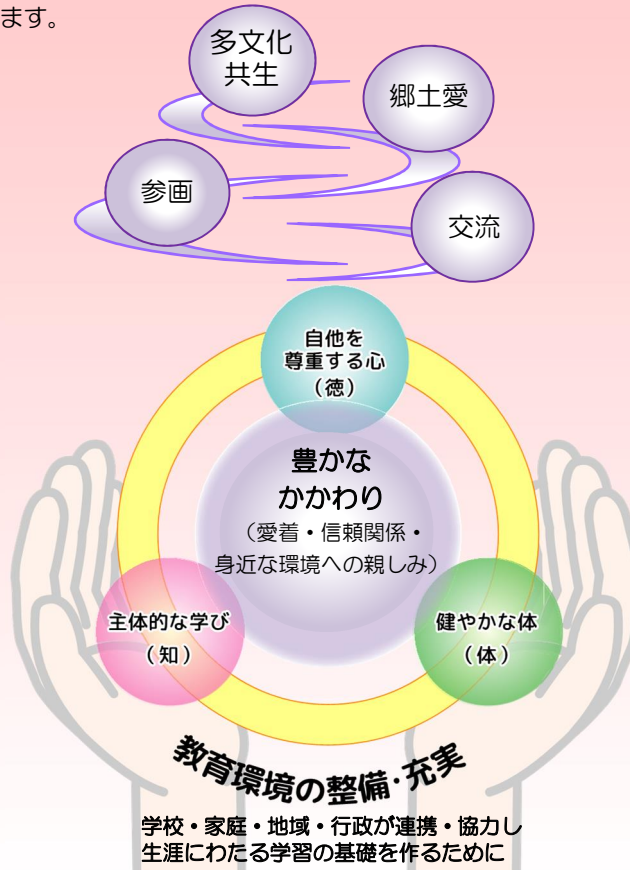
<基本目標> 自ら学び 自他を尊重する心と 新しい時代を切り拓き

しなやかに生きる力を育みます【学校教育】



「浦安市学校教育推進計画」より

就学前の段階では、まず、身近な人に愛着をもち、信頼関係を築きながら、身近な環境に親しむ中で、3つの視点「主体的な学び」(知)、「自他を尊重する心」(徳)、「健やかな体」(体)を育みます。そして、それらが育まれていく中で「参画・交流・郷土愛・多文化共生」という意識が芽生えていくと捉えています。



## 【浦安市学校教育推進計画における目指す子ども像】

浦安市学校教育推進計画では、4つの観点からなる「目指す子ども像」と、それぞれにつながる具体的な子どもの姿について次のとおり定めています。

### <4つの観点>

### 目指す子ども像

・具体的な子どもの姿

#### 主体的な学び (知)

#### 自ら学び、身に付けた知識や技能を活用する子ども

- ・学ぶことの楽しさや喜びを実感し、自ら学び続けている。
- ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている。
- ・学んだことを活用し、考え、判断し、表現している。
- ・自ら課題を見つけ、積極的、創造的に挑戦している。

#### 自他を 尊重する心 (徳)

#### 自分や他人のよさを認め、互いに尊重し合う子ども

- ・自分や他人のよさがわかり、他人を思いやる心を持っている。
- ・自他の違いを認め、生命や人権を尊重する心を持っている。
- ・美しいものや気高いものに感動する心を持っている。
- ・礼儀正しく、正義感や公正さを重んじて判断し、行動している。

#### 健やかな体 (体)

#### 命を大切にし、健康でたくましい子ども

- ・自他の命を大切にしている。
- ・望ましい生活習慣・食習慣を身に付けている。
- ・運動する楽しさや喜びを知り、親しんでいる。
- ・健康で安全に生きていくための知識や能力、実践力を身に付けている。

#### 豊かなかわり (参画・交流・ 郷土愛・ 多文化共生)

#### 適切に表現する力を身に付け、人や社会に積極的に関わるとともに、我が国やふるさと浦安に誇りを持ち、多様な文化を大切にする子ども

- ・適切に表現する力やコミュニケーション能力を身に付け、様々な人と積極的に交流している。
- ・社会の動きやあり方に関心を持ち、積極的に社会に関わり貢献しようとしている。
- ・人と協力して取り組む資質や能力を身に付けている。
- ・我が国や浦安の歴史・文化を理解し、誇りを持つとともに、地域社会の一員としての自覚を持っている。
- ・ふるさと浦安の未来や自己の生き方を考える力を身に付けている。
- ・外国などの多様な文化や習慣を理解し、尊重する態度を身に付けている。

## 【浦安市就学前「保育・教育」指針における育てたい子ども像】

本指針では、学校教育推進計画における目指す子ども像の実現に向けて、就学前における保育者が共有すべき4つの観点からなる「育てたい子ども像」と具体的な子どもの姿について、次のとおり決めました。

<4つの観点>

育てたい子ども像

・具体的な子どもの姿

主体的な学び  
(知)

### 自分で考え行動する子ども

- ・好きなことややりたいことをみつけ、じっくりと取り組む。
- ・いろいろなことに興味や関心を持ち、感じたり、気づいたりする。
- ・考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすることを楽しむ。

自他を  
尊重する心  
(徳)

### 自分や人、ものを大切にできる子ども

- ・身近な人とともに過ごす楽しさを感じる。
- ・自分も相手も大切に思い、互いの良さを認め合う。
- ・自分の気持ちを調整し、折り合いをつけながら、気持ちよく生活する。

健やかな体  
(体)

### 心と体を動かして夢中になれる子ども

- ・安定した生活の中で、思い切り体を動かし、のびのびと過ごす。
- ・何でもやってみようとし、諦めずに頑張る。
- ・遊びや生活に見通しをもって行動する。
- ・基本的な生活習慣の大切さがわかり、進んで取り組む。

豊かなかわり  
(愛着・信頼関係・身近な環境への親しみ)

### 様々な人や事柄と出会う中で、心通わせ、成長する子ども

- ・身近な人や環境に親しみをもつ。
- ・地域の人や施設などを通じて、ふるさと浦安を感じる。
- ・一人一人が大切な存在であることを感じる。

## 2 発達の特徴と育ちの連続性

保育内容の中から、その時期の特徴的な姿を取り上げたものです。

心が育つ・体が育つ

- 動く  
全身運動  
手指の運動  
生活習慣
- 出会う  
自己の発見  
対人関係
- 伝える  
ことば
- 感じる  
表現
- わかる  
も の 環 境

### 0歳児

- 首のすわり、寝返り、おすわり、はいはい、つかまり立ち、伝い歩き
- 手、指に触れたものを握る
- 指先で物をつまむ
- 食事、睡眠、遊びのリズムが安定してくる
- ぐずったり泣いたりして、眠り、空腹、排泄など、生理的欲求を伝える

- 親しみをもっている人を目で追う
- あやすと笑い、語りかけに喃語やしぐさで応答する
- 特定の大人との愛着関係が育まれ、人見知りをする



- 「うーうー」「ウクンウクン」など、口を動かして声を出すことを楽しむ
- 「マンマン」「ダダダダ」などのようにまとまりのある音声を発する
- 「マンマ」「ワンワン」など、音声と対象が結びつく

- 快、不快を笑ったり泣いたりすることで表現する
- 身振り手振りで感情表現をする



- 音のするものに興味を示す
- 人や物など、動くものを目で追う
- 身の回りのものに手を伸ばし、触れたりなめたりする

### 1歳児

- 歩行し始める
- 手で投げる、足で蹴るなどの動きが可能になる
- 立ったり座ったり自由に体勢を変えることができる
- 指先が自由に動かせるようになり、つまむ、たたく、引っ張る、ちぎるができるようになる
- 身の回りのことを自分でしてみたいという気持ちが出てくる

- 自己主張が始まる
- 身近な人に興味や関心をもち、関わろうとする
- 身近な人と同じことをして喜ぶ
- 自分の思いを指さし、身振りなどで伝えようとする

- 単語や「ワンワンねんね」などの二語文を話す
- 「これなあに」と繰り返し聞く



- クレヨンなどで、なぐり描きをする
- 歌や曲を聴いて、気に入った場面を声や体の動きで表現する

- ボールを転がしたり、投げたり、捨ったりすることを楽しむ
- 積木を並べたり、積んだり、崩したりする
- 水、砂、落ち葉、布など、身近なものに触れ、感触を楽しむ

### 2歳児

- 小走り、跳ぶ、登り降り、押す、引くなど、体のバランスを保ちながら動く
- 地面に両手をつき片足を上げたり股覗きをしたりする
- 指先に力が入り、押さえたり、引っ張ったり、ねじったりする
- スプーン、フォークを使って食事をする
- ボタンをかけるなど、技術を要することに挑戦する
- 大人に手助けされながら、着脱、排泄を自分でしようとする

- 自己主張が強くなる
- 一方的な指示に「やだ」と言い、「じぶんでじぶんで」と言う
- 自分と相手との関係の強弱が分かる
- 男の子と女の子の違いに興味を示し、相手の性別も分かり始める
- 自分の思いを受け止めてもらうことを喜ぶ

- 「いや」「もっと」「どうして」「なんで」など、自分の気持ちを表現する
- したいこと、してほしいことを身近な相手に簡単な言葉で伝える

- クレヨンでぐるぐる描きをしたり、同じ形のものを次々と描いたりして、意味をつけ始める
- 「～つもり」と意図をもって動いたり、描いたものを「～みたい」と見立てたりし始める



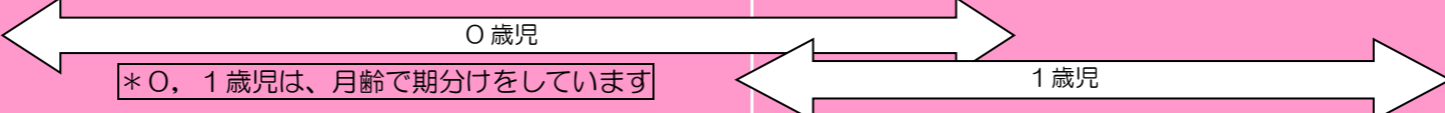
- 積木を動かして「バス」と言うなど、物や行為そのものからイメージを広げる
- 身近にある物を見たてて走らせるなど、見立て、つもり遊びをする
- 形、大小、色などに関心をもつ

保育・教育課程との  
リンク（関連）

- 0歳児の保育内容
- I 誕生の頃（～56日）
  - II ねんねの頃（～3ヶ月）
  - III 首がすわる頃（3か月～）
  - IV おすわりの頃（6ヶ月～）
  - V はいはいの頃（9か月～）

- 0～1歳児の保育内容
- I 1歳～1歳6ヶ月未満
  - II 1歳6ヶ月～2歳未満
- 1歳児の保育内容
- III 2歳～2歳6か月未満
  - IV 2歳6か月～3歳未満

- 2歳児の保育内容
- I 4月～6月上旬
  - II 6月上旬～9月上旬
  - III 9月上旬～12月
  - IV 1月～3月



## 3歳児

### 動く

- 自分の体の動きをコントロールする  
鉄棒にぶらさがったり、ジャングルジムを登ったりするようになる  
両手に持ったボールを頭上から投げる
- 簡単な折り紙を折る
- 食事、排泄、衣服の着脱など、自分からしようと、できることで自信につながる

### 出会う

- 自分の思い通りにしたがる
- 友達に興味や関心を示す
- 自分の好きな遊びの場にいる友達と関わって遊ぶ
- 簡単なルールのある遊びを身近な大人と楽しむ
- できたことを褒められて喜ぶ

### 伝える

- 「おはよう」「ありがとう」など、人と関わるあいさつの言葉を自分から使うようになる
- 「なぜ」「どうして」といった質問を盛んにするようになる
- 思いのままに感じたことを言う

### 感じる

- 少しずつ形のある絵を描く
- 「顔」から手足が出て、「頭足人」の絵を描き始める
- 自分なりに感じたことや思ったことを表現して遊ぶ

### わかる

- 身近な素材や用具を使って、自由に描いたり作ったりすることを楽しむ
- 身近な物の大小、色、形、多い、少ないなどの違いに気付く



#### 3歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月中旬
- IV 10月中旬～12月
- V 1月～3月

## 4歳児

- ケンケン、スキップをする
- 両手を別々に用いて一つのことをする  
はさみを使い、紙に描かれた線に沿って切る  
茶碗に手を添え、箸を使って食事をする
- 衣服の着脱やささまざまな身の回りのことを順序だててやろうとする

- 身近な人の気持ちを察し、少しずつ自分の気持ちをコントロールできるようになる
- 一緒に遊びたい友達ができ、自分から関わっていく
- 「貸し借り」「順番」「交代」が見られるようになる
- 人の求めていること、好きなことが分かって、一緒にしようとする

- 「ぼく」「わたし」を代名詞として使える
- 「だって」を使い、はっきりと自分の理由をもった主張になる
- ふざけて乱暴な言葉やきたない言葉を使うことが楽しくなる



- 天地（太陽や地面）のある絵を描くようになる
- 自分なりのイメージをもち、遊びの場を作ったり見立てたりして遊ぶ

- 身近な素材を使って、遊びに必要な物を作る
- 生活の中で必要に応じて数を数えたり、量の大小を比べたりする
- 身近な自然環境に興味を示し、関わろうとする（水、砂、土、草花、虫、樹木）

#### 4歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月中旬
- IV 10月中旬～12月
- V 1月～3月

## 5歳児

- 上手投げでボールを投げる
- 小さな物をつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るといった動作ができるようになる
- 安全に気を付けて遊具や用具を使う
- 一日の予定を理解することができる

- 約束を守ろうとしたり、相手の気持ちを察したりすることができ始める
- 役割分担や協力してやり遂げる喜びを感じる
- 互いの思いを言い合える友達関係がもてるようになる
- 周囲の状況に目を向け、自分の行動を考えられるようになる
- 自己肯定感をもつ

- 文字を読んだり書いたり、数を数えたりすることに興味をもつ
- 体験したり感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ
- 相手に分かるように話す

- 全身画を描くようになる
- イメージをもちながら、作ったり描いたりすることができる
- 曲の雰囲気を感じながら歌ったり、友達と気持ちを合わせて歌ったりする



- いろいろな材料を使って、自分なりに工夫して表現する
- 左右対称、上下対象、配色を意識して作る
- 生活の中で、数量、図形、文字、時間に関心をもつ
- 身近な動植物に興味や関心をもつ

#### 5歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月下旬
- IV 10月下旬～12月
- V 1月～3月

## 小学校就学期

- ルールのあるゲームの中で、素早く動いたり止まったりすることができる
- いろいろな運動が巧みになる  
跳び箱の開脚跳び  
ボールをつきながら走る、蹴る、キャッチする

- 見通しをもって段取りを立てる力が付いてくる
- 社会の規範意識が身に付き、行動する  
公共のマナー、交通ルール
- 自己を客観視し、多面的な見方ができる
- 互いに教え合い、助け合う力が付いてくる
- 子ども同士でルールに基づく役割交代、勝ち負けのチーム遊びを楽しむことができる
- 自分の主張を一步譲って、仲間と協調したり意見を調整したりする

- 目の前にいない人にも気持ちを伝えようと「書きこことば」を身に付け、使い始める
- 自作のストーリーを作って演じる
- 経験したことや考えたことを話し、伝え合うことができる

- 自分のイメージしたように描いたり、細かな制作をしたりする
- 完成をイメージしながら作り上げる
- 歌詞の意味を理解しながら、声をそろえて歌う

- 自分のイメージしたことを、いろいろな素材や用具を選んで描いたり作ったりする
- 文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分達の遊びや生活に取り入れていく
- 身近な動植物の世話をすることで、その成長や生態に興味や関心をもつ

#### \*保育園・幼稚園・認定こども園と小学校の連携

保育園や幼稚園・認定こども園での遊びを通じた学びが、小学校の学習につながることを図式化して紹介しています。



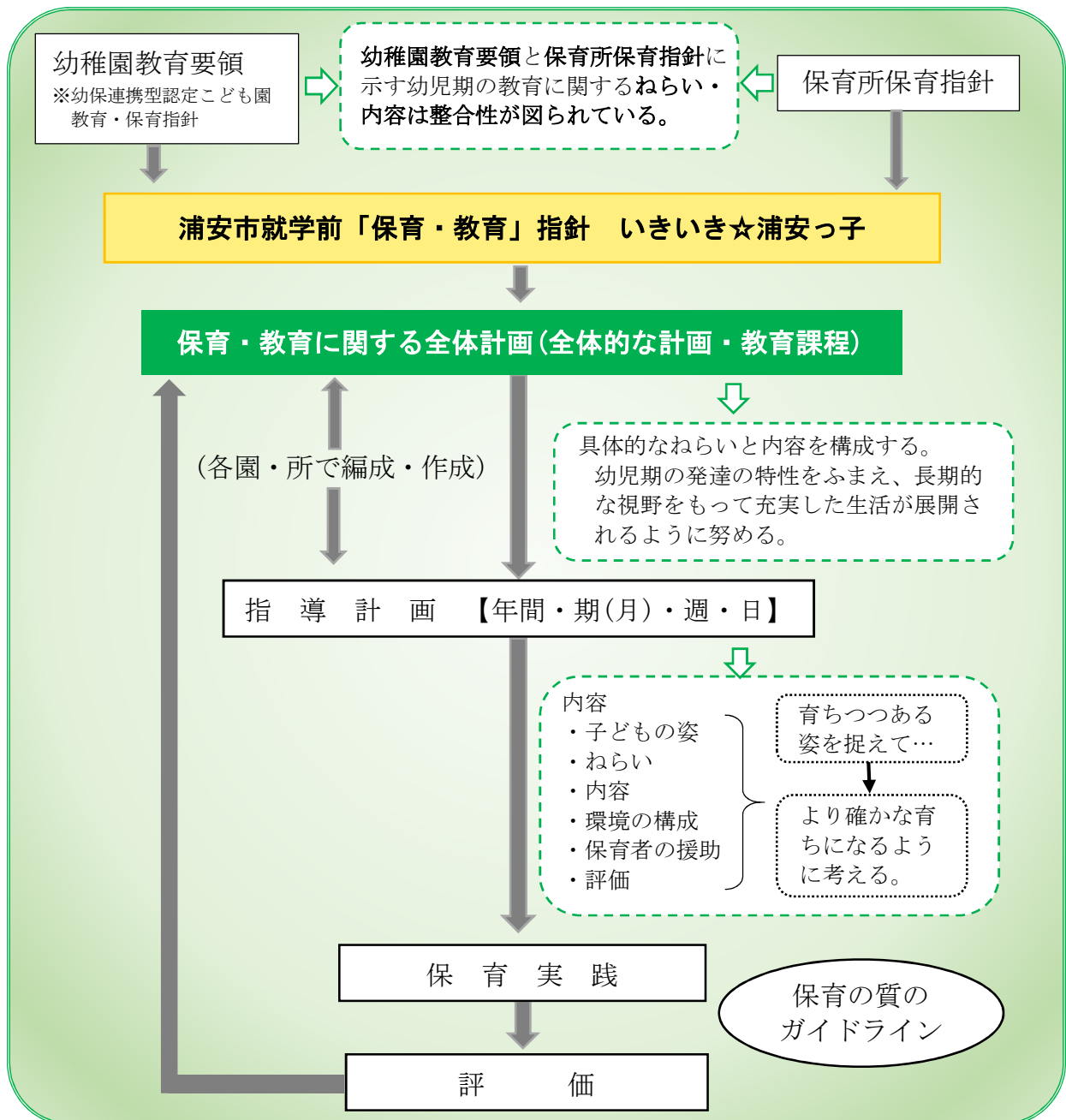
第Ⅲ部  
保育・教育課程

# 第Ⅲ部 保育・教育課程

## 1 保育・教育課程の実践

保育所保育指針・幼稚園教育要領は、保育園・幼稚園・認定こども園の教育（保育）の基本と保育内容を示したものです。これをもとに各園が全体的な計画・教育課程を構成し、さらに具体的な指導計画を作成します。

それに基づいて保育を実践・評価して次の計画に反映させ改善を図ります。



※ 保育・教育の実践を支え、本市の就学前「保育・教育」環境の充実を図るため、保育者に対する研修に積極的に取り組んでいます。

今後も引き続き研修に取り組むとともに、本指針の内容の実現に必要な能力を育成するため、保育士、幼稚園教諭、保育教諭を問わず、広い視野や就学前保育・教育の専門性を高める研修プログラムの構築を目指します。

## 2 保育・教育課程の見方

保育・教育課程の項目の見方は次のとおりです。

**浦安市の育てたい子ども像の視点**

- \* 【4つの観点からなる子ども像】の視点から
  - ・主体的な学び（知）
  - ・自他を尊重する心（徳）
  - ・健やかな体（体）
  - ・豊かなかかわり（愛着・信頼関係・身近な環境への親しみ）
- \* 【0～2歳児】の視点から
  - ・生活（主に養護の部分から・・・）
  - ・体（手、指、体の発達から・・・）
  - ・知的（体の発達から連動して・・・）
- \* 【3～5歳児】の視点から
  - ・心情（充実感、満足感を味わう・・・）
  - ・意欲（「～しようとする」・・・）
  - ・態度（物事への積極的な取り組み姿勢・・・）

**5歳児 発達過程 I期**

<b>子どもの姿</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あげようという姿勢</li> <li>・気の合う友達や保育者</li> <li>・新しい生活のルールを</li> </ul>	
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい環境に自分から</li> <li>○自分のやりたい遊びを</li> <li>○年長児としての生活の</li> </ul>	
<b>経験する内容</b>	<b>心身の健康</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で体を動かして十分</li> <li>・安全に道具や用具を使</li> <li>・園生活での決まりを確</li> </ul>
	<b>人とのかかわり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい保育者や友達に</li> <li>・異年齢の子どもに親</li> </ul>
	<b>身近な環境とのかかわり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合う友達と一緒に</li> <li>・鬼ごっこやゲームなど</li> </ul>
	<b>言葉の獲得</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な動植物に親しみ、触れ</li> <li>・身近な自然の変化に興味や関心をも</li> <li>・自然物を遊びに取り入れて遊ぶ。</li> </ul>
	<b>感性と表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で目にするマークや表示の意味が分かり、文字や数に興味をもつ。</li> <li>・自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の話を聞こうとする。</li> <li>・友達と一緒に歌を取ったり、曲に合わせて踊ったりすることを楽しむ。</li> <li>・いろいろな材料を使って、自分のイメージに合わせて作る。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと共に生活の場を作り、新しい約束事を作っていこうにする。</li> <li>・道具や生活に必要なものの置き場は分かりやすく表示する。</li> <li>・自分のしたい遊びが、十分にできる時間と場所を保障していく。</li> <li>・友達と一緒にする楽しさが感じられるよう、クラス全体で活動する時間や</li> <li>・園内外の安全衛生に十分配慮し、快適に過ごせるよう、生活の中で繰り返し</li> <li>・園庭や近隣の公園の自然に触れる機会をもち、植物などにも興味や関心が向け</li> </ul> <p>【保育者のかかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級した喜びに共感するとともに、緊張や戸惑いの気持ちも十分受け止め、もって過ごせるようにする。</li> <li>・個人差を考慮し、一人一人の様子を把握して個々の情緒の安定を図り、好きな遊</li> <li>り組めるようにする。</li> <li>・友達を意識できるような言葉かけをし、保育者が仲立ちとなって言葉を補ったりして、友</li> <li>達との遊びが十分楽しめるようにする。</li> <li>・他クラスと連携をとりながら、異年齢の子どもとのかかわりをもてるようにする。</li> </ul>	
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーに、子どもが自分で気づいたり、正そうとしたりしている姿を認めながら、食事の楽しさを味わえるようにする。</li> <li>・子どもが自分で野菜を栽培する経験ができるよう、土や肥料・種・苗などを用意する。</li> <li>・植えた野菜に水やりをしたり、成長の様子を観察し、それを図鑑で調べたりできるよ</li> <li>うな環境を整え、収穫を期待して大切に育てられるようにする。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のねらいや方針を懇談会やおたより等で家庭に伝え、理解を求め、園と家庭が同</li> <li>じ気持ちで子どもにかかわってもらえるようにする。</li> <li>・子どもの様子を連絡帳や送迎時に伝え合い、保護者との信頼関係を築いていく。</li> <li>・進級することには、喜びだけでなく、戸惑いや不安を感じることもあることを伝え、共</li> <li>感したり、励ましたりして、子どもの気持ちを支え合っているようにする。</li> </ul>	

「できる」「できない」「やる」「やらない」等の到達目標ではなく、内面に育つものです

領域からの視点も意識します

場の設定の工夫や遊び・教材の工夫

直接的な関わりや間接的な関わり

「経験する内容」「保育者の援助」は、次の視点から取り上げています。  
 「全身・手指の動き」「基本的生活習慣」「食育」「安全保健教育」「規範意識」「人の話を聞く」「地域との連携」等

「食育」についての援助・配慮点

## 3 年齢ごとの期分け

0歳～2歳			3歳～5歳		
年齢・学年	期		年齢・学年	期	
0歳	I	～56日「誕生の頃」	3歳	I	4月～6月上旬
	II	～3ヶ月「ねんねの頃」		II	6月上旬～9月上旬
	III	3ヶ月～「首がすわる頃」		III	9月上旬～10月下旬
	IV	6ヶ月～「おすわりの頃」		IV	10月下旬～12月
	V	9ヶ月～「はいはいの頃」		V	1月～3月
1歳	I	1歳～1歳6ヶ月未満	4歳	I	4月～6月上旬
	II	1歳6ヶ月～2歳未満		II	6月上旬～9月中旬
	III	2歳～2歳6ヶ月未満		III	9月中旬～10月中旬
	IV	2歳6ヶ月～3歳未満		IV	10月中旬～12月
				V	1月～3月
2歳	I	4月～6月上旬	5歳	I	4月～6月上旬
	II	6月上旬～9月上旬		II	6月上旬～9月中旬
	III	9月上旬～12月		III	9月中旬～10月下旬
	IV	1月～3月		IV	10月下旬～12月
				V	1月～3月

## 4 特色のある保育

### (1) 地域との連携について

子どもたちが様々な人や事柄と出会う中で、身近な人や環境に親しみをもち、『ふるさと浦安』を感じることができるよう、各園で周辺の地域資源を活用し、近隣施設と連携した活動の充実を図り、地域の人たちとの交流活動を通して地域への愛着を育むことが大切です。

### 《社会に開かれた教育課程》

#### 地域の方との交流

近隣にお住まいの方との関わりを通して  
社会性を育む

- ・ 地域自治会、高齢者施設  
(伝承遊び、野菜栽培、花植え、餅つき、  
纏見学、神輿、祭参加 獅子舞 等)
- ・ スポーツ体験 (サッカー、運動公園) 等

＜神輿・纏（まとい）見学＞



#### 近隣施設の活用

地域資源の活用と歴史、文化への理解を育む

- ・ 郷土博物館 (昔遊び、浦安の歴史体験)
- ・ 公民館、図書館  
(作品展、館内利用、読み聞かせ)
- ・ 商業施設 (買い物体験) 等

＜図書館内利用＞



#### 地域の中の園

計画的に交流を積み重ね、  
関わる人・施設・園とで  
ねらいを共有し、連携して  
いく

#### 園種を越えたつながり

同じ地域で育つ子どもたちが、人間関係を  
スムーズに構築できるようにする  
(保育園・幼稚園・こども園)

- ・ 園訪問 (園庭での戸外遊び・水遊び、  
室内遊び、ホール遊び 等)
- ・ 園内行事への参加、行事後の再現
- ・ リズムやゲーム等を行う交流会 等

＜保育園・幼稚園の交流＞



#### 学校とのつながり

異校種間での連携による、乳幼児期から  
学童期への学びの連続性の保証

- 小学校とのつながり
  - ・ 交流活動 ・ 学校探検 ・ 校庭の利用
  - ・ 生活発表会 ・ 模擬授業 ・ 給食体験
- 中学校・高等学校とのつながり  
(職場体験・家庭科保育学習) 等

＜小学校への二次避難訓練＞



＜中学生の職場体験＞



その他の取り組み；施設長連絡会、小学校教諭の講話、授業や保育の相互参観、園庭開放  
子育てサロン、防犯教室、交通安全教室、公園の活用、消防署見学 等

## (2) 食育について

食は、子どもが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくために、また、子どもの健康増進のために重要です。各園では、食育の基本となる「知育・徳育・体育」の食育基本法を踏まえ、乳幼児期における望ましい食に関する取り組みを、積極的に進めることが求められています。

### 食育の推進

#### 体験的な食育と食の巡回

食材に触れたり調理をしたりする機会や食物の栽培を通して、命を大切にしている気持ちや調理をしてくれる人への感謝の思いが育まれるようにしていく。



<栽培した野菜でカレー作り>

#### 栄養士の専門性と食育計画

栄養士等の専門性を生かし、乳幼児期にふさわしい食習慣や態度が育まれるよう、食事の提供を含む食育計画を、全体的な計画(教育課程)に基づいて作成し、評価、改善に努める。

#### 食事を楽しむ

友達や保育者と一諸に和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさが感じられるようにすると共に、食への興味や関心が得られようにしていく。食欲がわくように、活動のバランスを考える。



<調理員と交流>

#### 配慮が必要な子ども等の個別援助

嘱託医やかかりつけ医、専門職の指示と協力の下、一人一人の子どもの状態に応じて適切に対応する。  
全職員が、目標や内容、食物アレルギー等配慮すべき事項を共通理解し、誤食、誤飲の事故防止及び対応に努める。

#### 保護者や地域との連携

保護者との情報共有や関係機関からの情報収集等、日頃から連携を重ね、様々な協力が得られるように努める。  
主体的かつ多様に連携、協働した取り組みを推進していく。

<幼稚園教育要領・保育所保育指針より一部引用>

#### 参考：「食に関する制度」

- 児童福祉施設等における食事の提供ガイド (令和7年策定)
- 楽しく食べる子どもに (平成16年策定)
- 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン (平成31年策定)
- 浦安市食育推進計画の推進 健康うらやす21 (平成31年策定)

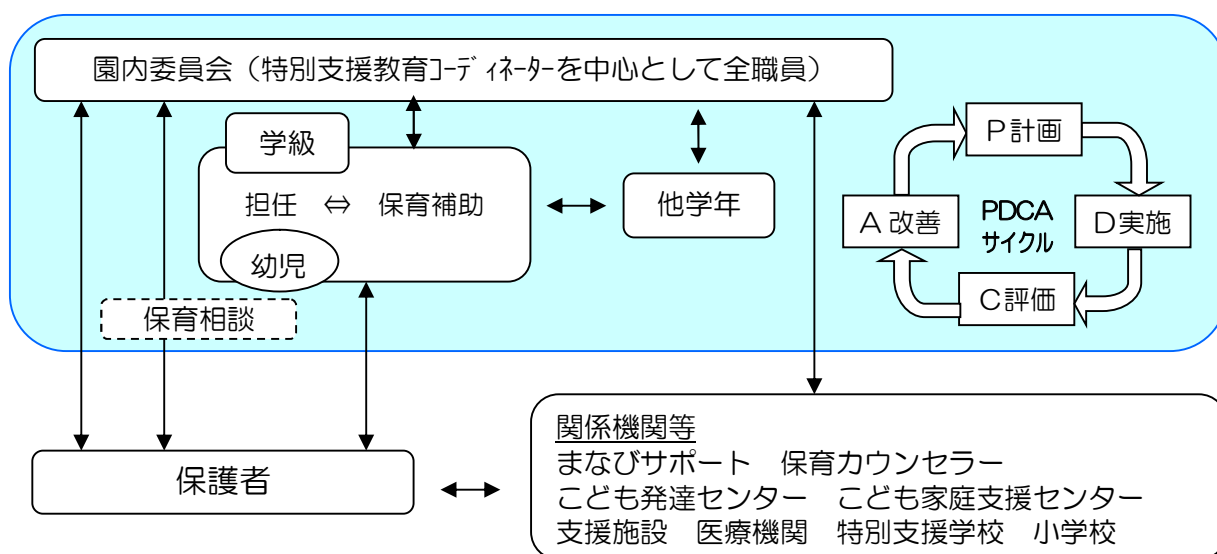
### (3) 特別支援教育について

特別な支援を必要とする子ども<sup>※</sup>の可能性を最大限に伸ばし、生活するために必要な生きる力の基礎を培うために、保護者や関係機関との連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズを正確に把握・対応し、よりきめ細やかな保育・教育を行うことが大切です。そのためには、発達や支援を必要とする状況を把握し、子どもにとって最善は何かを追求し、集団生活を通して成長することができるよう個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成することが必要です。計画の作成は、保護者と信頼関係を築きながら、保護者の子どもへの思いや願いを受け止め、支援方法を園と共通理解して作成していきます。

※特別な支援を必要とする子どもとは、「発達に課題がある」「障がいがある」「医療的ケアが必要である」等の乳幼児をさす。

#### <支援体制> (保育園・幼稚園・認定こども園)

- 全職員の共通理解を図るとともに、関係機関等と連携しながら「特別支援教育」を行う。
- 一人一人の教育的ニーズへの対応と連続性のある「多様な学びの場」の構築を行う。



☆人的配置については、担任の補助として、保育園には**加配保育士**、幼稚園・こども園には**補助教員**を配置し、特別な支援を必要とする子どもの保育活動や生活面での支援を行っています。他にも、各園に配置されている**保育カウンセラー**と保育者や保護者が相談できる体制も整えています。また、就学期については、教育センターの**まなびサポート**との連携のもと、小学校入学に向けてのスムーズな移行を支援しています。

市立保育園・市立幼稚園・認定こども園では、副園長や主任教諭などを**特別支援教育コーディネーター**として位置づけ、園内や関係機関との連携協力を図っています。

#### <特別支援教育コーディネーターの役割>

- (1) 園内の関係者や医療・福祉などの関係機関との連絡・調整、保護者との関係づくりを行う。
- (2) 保護者に対する園の相談窓口となり、保護者を支援する。
- (3) 担任に対して、相談に応じたり、助言したりするなどの支援を行う。
- (4) 園内での適切な教育的支援につながるように、こども発達センターや教育センター(まなびサポート)などの専門の関係機関との連携を図る。
- (5) 園内体制の整備と、園内委員会が適切で円滑な運営がなされるよう推進役を担う。
- (6) 多様な教育的ニーズに応じた保育者の専門性を高める研修会などの企画や運営を行う。

#### (4) 特別な配慮が必要な家庭への支援について

##### ① 外国にルーツをもつ幼児等の園生活への適応

国際化の進展に伴い、海外から帰国した子どもや外国籍の子どもに加え、国際結婚など、多様な文化や外国にルーツをもつ子ども一人一人に寄り添う援助が必要です。

(留意すべき事項)

- 海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児については、安心して自己を発揮できるように配慮するなど個々の子どもの実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行います。
- 子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにします。

(保育の中で配慮する点等)

- ・異文化における生活経験、在留国や母国の言語的・文化的背景、さらには家庭の保育・教育方針の違いなど、一人一人の実態を把握します。
- ・指導方法や指導内容の工夫を組織的かつ計画的に行うとともに、全職員で共通理解を深め、子どもと保護者に関わる体制を整えます。
- ・保育者は、その子どもが暮らしていた国を理解しようとする姿勢を保ち、簡単な挨拶等母国語を使用したり、スキンシップをとったりしながら信頼関係を築き、子どもの安心感につなげていきます。
- ・保育者は、子どもや家庭の多様性を積極的に認め、子ども同士が互いに尊重し合える雰囲気作りに努める中で、一人一人がかけがえのない存在であるということに気付くよう促していきます。

##### ② 虐待が疑われる家庭および貧困家庭への支援

虐待等が疑われる場合には、園は速やかに関係機関に通告し、適切な対応を図ることが必要となります。また、子どもの貧困については、子ども自身の自己肯定感が低くなることを防ぐためにも、早期に気づき対応する必要があります。

(留意すべき事項)

- 虐待が疑われる場合には、園と保護者との間で子育てに関する意向や気持ちにずれや対立が生じうる恐れがあることに留意します。貧困家庭への対応については、関係機関とつなぐ際に、子どもと保護者の自尊心を傷つけない等の配慮が必要です。

(保育の中で配慮する点等)

- ・日頃から保護者との接触を十分に行い、保護者と子どもとの関係に気を配り、気づきの目を養います。さらに、市や関係機関との連携の下に、子どもの最善の利益を重視して支援を行います。
- ・貧困については、外見だけでは判断できないことが多いので、保育者はこのことを正しく理解し、目の前の事実だけに目を向けるのではなく、子どもや保護者の気になる姿の背景にあるものを読み取ろうとする視点をもつことが大切です。

## 5 浦安市の保育・教育課程

0歳児 発達の過程

I期「誕生の頃」( ~ 56日 )

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・眠っている時間が長い。眠りの間隔は短く、昼と夜の区別がはっきりしない。</li> <li>・泣きの理由は眠り、空腹、排泄等生理的なものがほとんどである。</li> <li>・へその緒は生後1～4週間でとれる。</li> <li>・生後2、3日頃から新生児黄疸が見られる場合がある。</li> <li>・体温調節機能がまだ上手くいかず、周りの温度に左右される。</li> <li>・動きが活発になり、裸にすると手足をよく動かす。</li> <li>・握ったものを少しの間持つことができる。</li> <li>・音は聞こえている。(大人が話しかける言葉を聴いている)</li> <li>・明るい、暗いは分かり、明るい方を見ようとする。</li> <li>・物の輪郭はぼんやり見え、特に人の顔はよく見える。</li> <li>・生理的な微笑が見られる。</li> <li>・機嫌のよい時は「あーあー」「うっくん」等の声を出すようになる。</li> </ul>
<p>室内環境のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔で静かで、安心して眠れる環境を用意する。</li> <li>・ベッドの周りに物を置かないようにする。また、赤ちゃんの顔に被るような物を近くに置かないようにし、安全に気をつける。</li> <li>・常に眠っている子どもの様子が見えるようにする。</li> <li>・体温調節が未熟で筋肉や皮下脂肪が薄く、汗腺の発達が不十分であるため、室温、湿度、寝具、衣服等、快適な環境に配慮する。 *冬は20～23℃、夏は26～28℃、湿度は60%前後。</li> </ul>

### 家庭へのアドバイス

- ・泣きの理由は「眠り」「空腹」「排泄」「暑い」「寒い」など生理的なものがほとんどです。声をかけたり抱っこしたりしてあげることによって安心します。
- ・母乳やミルクをあげる時は、ゆったりした気持ちであげるようにしましょう。
- ・生後1か月前後くらいから、天候のよいときや赤ちゃんの機嫌のよいときには外気にふれさせることで、体温調節機能や免疫力の向上に繋がります。
- ・SIDS(乳幼児突然死症候群)の予防のために、以下のことを心がけましょう。
  - \* 仰向けで寝かせる。
  - \* 赤ちゃんを一人にしない。
  - \* 赤ちゃんの近くで喫煙しない。
- ・乳幼児揺さぶられ症候群の予防のために、激しく揺さぶったり大きな衝撃を与えたりしないようにしましょう。
- ・眠っている時間が長い時期です。機嫌よく目覚めている時は赤ちゃんとも目を合わせて微笑みかけたり話しかけたりしましょう。

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お腹が空くと泣く。</li> <li>・オムツが濡れると泣く。</li> <li>・うつぶせにするとあごを上げる。</li> <li>・体重、身長が増加が大きい。</li> <li>・自分の手を見つめる。</li> <li>・物を目で追う。</li> <li>・音のする方を向く。</li> <li>・見つめ合い（アイコンタクト）が成立する。</li> <li>・目が合うと笑みを浮かべる。（社会的微笑）</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の生活リズムで、安定して気持ちよく過ごす。</li> <li>○保育者との関わりの中で心地よさを感じ、親しみと安心感を味わう。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>健やかにのびのびと育つ</li> <li>身近な人と気持ちが通じ合う</li> <li>身近なものに関わり感性が育つ</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・抱かれてミルクを飲む。飲んだ後、ゲップをする。</li> <li>・オムツを替えてもらい、気持ちよく過ごす。</li> <li>・安心して寝入ったり、目覚めたりする。</li> <li>・外気に触れる心地よさを味わう。</li> <li>・うつぶせで頭を持ち上げる。</li> <li>・手に触れたものを握ろうとする。</li> <li>・動くものを目で追ったり、音のする方に顔を向けたりする。</li> <li>・あやされると声を出したり、微笑んだりし、四肢を動かす。</li> <li>・目の前にいる人の顔をじっと見る。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>		<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の生活のリズムに合わせて安心して眠れる環境を整える。（室温・湿度・換気・採光）</li> <li>・明るく、心地よさと安らぎのある空間を整えるとともに、身近な環境の中に、見たり聞いたり、触ったりできる玩具を取り入れる。</li> <li>・うつぶせ寝は避け、顔の周りに布団や物（スタイ等）がなく、正常に呼吸ができる状態をつくる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 40%;"> <p style="text-align: center;"><b>目で追って楽しめる遊び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オルゴールメリー・モビール</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 40%;"> <p style="text-align: center;"><b>情緒の安定を図る遊び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子守唄・あやし遊び（いないいないばあ）</li> </ul> </div> </div>
		<p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体機能が未熟で病気にかかりやすく、生命の危機に陥りやすいため、体の急激な変化に対応できるように、一人一人の子どもの状態を十分に観察する。</li> <li>・優しく微笑みかけたり、静かな声で語りかけたり等、視覚、聴覚に働きかけ、一人一人に合わせた表情や言葉、動きで相手をし、愛着関係を築く。</li> </ul>
<b>食育</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆったりとした雰囲気の中で、目と目を合わせ、優しく言葉をかけながら授乳し、安心して飲めるようにする。</li> <li>・授乳後は、ゲップが出るまで抱いて過ごす。出ないときはベビーラック等で様子を見る。</li> </ul>
<b>家庭との連携</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や送迎時に子どもの様子を伝え合い、相互理解を深めるとともに保護者の不安を取り除き、信頼関係を築いていけるようにする。</li> <li>・SIDS（乳幼児突然死症候群）や乳幼児揺さぶられ症候群について正しい知識を知らせる。</li> </ul>

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼と夜の区別がはっきりしてきて、睡眠と授乳、遊びのリズムが少しずつ安定期へ移行していく。</li> <li>・首がすわる。</li> <li>・寝返りをする。</li> <li>・見た物に手を伸ばす。</li> <li>・物や人の動きを目で盛んに追う。</li> <li>・口を動かして声を出す。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の心地よい生活リズムで安心して過ごす。</li> <li>○寝返りや腹ばいの姿勢等で、それぞれの発達にあった活動を十分に行う。</li> <li>○盛んに喃語を発し、声を出すことを楽しむ。</li> <li>○安心できる環境のもとで聞いたり、見たり、触ったりできる玩具で遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>
経験する内容	生命の保持・情緒の安定 健やかにのびのびと育つ 身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼と夜の区別がはっきりしてきて一定の時間眠る。</li> <li>・外気浴、ベビーマッサージで心地よさを感じる。</li> <li>・腹ばいの姿勢で手足を動かして遊ぶ。</li> <li>・動くものを目で追い、手を伸ばして握ろうとする。</li> <li>・指を口に入れたり、手に触れたものを見たりなめたりして確認する。</li> <li>・声や泣き声で要求を表す。</li> <li>・慣れた大人には自分から微笑みかけ、喃語で話そうとする。</li> <li>・あやされたり声をかけられたり、優しい語りかけや喃語に答えてもらうことで、保育者に親しみ、安心感をもつ。</li> </ul>
	保育者の援助	<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝返り、腹ばいの姿勢等で、全身運動が安全にできるように環境を整える。</li> <li>・遊具等は子どもの発達に適したものを選び、触ったりなめたりしても安全なものを用意する。</li> <li>・清潔で安心して眠りにつけるような環境を整える。（室温、換気、採光、湿度、寝具等）</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>手や指、体の機能の発達を促す玩具</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレイジム・握り玩具・がらがら・歯固め</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>情緒の安定を図る遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子守唄・あやし遊び（じいじいばあ）</li> </ul> </div> </div> <p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心地よい姿勢で遊ばせながら、寝返りや腹ばいの機会をできるだけ多くつくるようにする。</li> <li>・笑ったり泣いたりする子どもの状態に優しく応え、発声に応答しながら喃語を育む。</li> <li>・一人一人の健康状態を十分に観察し、異常のある場合には適切に対応する。</li> <li>・優しくあやされたり、目を見て語りかけられたりする心地よさを味わえるように、1対1の関わりを大切にする。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6か月を迎える頃には、離乳食開始前の準備や夏場の水分補給等として白湯や麦茶を口にしてみることで、母乳やミルク以外の味に親しめるようにする。</li> <li>・授乳を通して空腹に対する欲求が満たされる経験を重ね、食への関心につなげていく。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SIDS（乳幼児突然死症候群）について注意を促し、事故が起きないように知らせる。</li> <li>・微笑や言葉かけ等、大好きな大人との関わりや、スキンシップ等の日々の心地よい体験が、子どもの心の安定や安心感につながることを伝える。</li> <li>・育児に対する不安や戸惑いを受け止め、保護者の話を聞くことでコミュニケーションを図る。</li> <li>・安定した生活リズムで過ごすことの大切さを伝える。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠時間が定まってきて、食事、睡眠、遊びのリズムが安定する。</li> <li>・おすわりができるようになる。寝返り、腹ばいの姿勢で移動する。</li> <li>・手でおもちゃを持つ、振る、持ち替える。</li> <li>・慣れない人に、人見知りをする。</li> <li>・「マンマンマン」「ダダダ」等の喃語を話す。</li> <li>・離乳食を食べ始める。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢を変えたり移動したり、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>○保育者と十分に関わり、欲求を受け止めてもらうことで、親しみをもち安定して過ごす。</li> <li>○離乳食を食べ始め、スプーンに慣れる。</li> </ul>
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の生活リズムで安定して眠る。</li> <li>・離乳が進み、少しずつ食べる量が増え、いろいろな食品の味や形態に慣れる。</li> <li>・腹ばいで後ずさりをしたりお腹を軸に回ったり、おすわりをしたりする等、いろいろな姿勢になる。</li> <li>・おもちゃを振ったり落としたり、たたく等して遊ぶ。</li> <li>・親指と人差し指で小さなものをつまむ。</li> <li>・手に触れたものをなめて、確認する。</li> <li>・機嫌のよい時は、さかんに喃語で話し、遠くにいる人を呼ぶように声を出す。</li> <li>・不快な時は泣いて欲求を訴える。</li> <li>・人見知りをしたり、親しみをもっている人の後を追ったりする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>健やかにのびのびと育つ</li> <li>身近な人と気持ちが通じ合う</li> <li>身近なものに関わり感性が育つ</li> </ul>	
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を変えたり移動したりと様々な身体活動を十分行えるように、安全で活動しやすい環境を整える。周りにマット等を置き、転倒時の安全を考慮する。</li> <li>・周囲への関心が広がり、触れる、なめる、たたく等、物への関心が高まるような環境をつくる。</li> <li>・なめた玩具は水洗い等して清潔に保つ。</li> <li>・子どもの手の届くところに危険な物を置かないようにする。</li> <li>・誤飲等を避けるために、口や鼻に入らないよう玩具の大きさ等に配慮する。</li> </ul>
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>手や指、体の機能の発達を促す玩具</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガラガラ・ビジーボード</li> <li>・クルクルサウンド</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <p><b>情緒の安定を図る遊び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうた・ふれあい遊び（うまはとしとし）</li> </ul> </div>	
食育	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症にかかりやすい時期なので一人一人の健康状態を十分に観察し、適切に対応する。</li> <li>・喃語に込められている要求や気持ちをしっかりと受け止めて応じるようにする。</li> <li>・保育者との関わりを多くもち、不安、甘え等の気持ちを受け止め、優しく対応し、愛着関係を築けるようにする。</li> </ul>
	必要に応じて、水分補給として白湯や麦茶を飲ませる。	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンを下唇にのせ、上唇で食べ物を自分で取り込めるようにする。食べ物を口に入れたら、唇を閉じたまま顎を上下に動かすことを保育者が見せ、食べ方を知らせる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離乳食は家庭との連携を大切にアレルギーに配慮しながら無理なく進め、食べようとする気持ちが育つようにする。</li> <li>・母体からの免疫がなくなり、病気にかかりやすくなるので、食欲、睡眠、排泄等、子どもの健康状態に変化が見られた時は丁寧に伝える。</li> <li>・予防接種、感染症等の情報を知らせる。</li> <li>・人見知りは、成長過程であり、愛情関係ができてからこそのことなので、十分受け止めるように伝える。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・離乳食を手づかみで食べる。</li> <li>・はいはい、つかまり立ち、伝い歩きをする。</li> <li>・指先で物をつまむ。</li> <li>・手差し、指差しをして声を出す。</li> <li>・模倣をする。</li> <li>・自分の名前や「マンマ」「バイバイ」等、音声と対象が結びつく。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○はいはい、つかまり立ち等、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>○身の回りのものに興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。</li> <li>○大人と一緒に遊びながら、簡単な動作や言葉のやり取りを楽しむ。</li> </ul>
経験する内容	生命の保持・情緒の安定 健やかにのびのびと育つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定時間安定して眠る。</li> <li>・離乳が進み、食べるものの種類が増え、自分から食べようとする。</li> <li>・天気のよい日は戸外で過ごす。</li> <li>・おすわり、つかまり立ち、伝い歩き、立つ、歩く等、一人一人の発達に合った動きをする。</li> <li>・つまむ、たたく、引っ張る等、手や指を使って遊ぶ。</li> <li>・生活や遊びの中で、身近な保育者のすることに興味をもち、模倣することを楽しむ。</li> <li>・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育者とのやり取りを楽しむ。</li> <li>・保育者と一緒に砂や水の感触を楽しむ。</li> <li>・他児の様子をじっと見つめたり、動きを目で追ったりする。</li> <li>・身の回りの生活用具に興味をもち、触ったり遊んだりする。</li> </ul>
	身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものに関わり感性が育つ	
保育者の援助	<b>【環境の構成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長い距離をたくさん動けるようになり行動範囲が広がるので、危険のないように環境整備をする。（不安定な物や角のある物は置かない）</li> <li>・自分から「行ってみたい」「触れてみたい」と感じるように、玩具類に変化をもたせたり、工夫したりする。</li> <li>・誤飲、誤食を避けるため、口に入れて危険な物は手の届く場所に置かない。</li> <li>・生活の流れに合わせて、少しずつ時間差をつけて活動する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>手や指、体の機能の発達を促す玩具</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェーン落とし・ソフト積木</li> <li>・カラートンネルなど</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>情緒の安定を図る遊び</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうた・ふれあい遊び （一本橋こちょこちょ）</li> </ul> </div> </div>	
	<b>【保育者の関わり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが表現したことを受け止め、優しく、ゆっくり、はっきりと応えたり、話しかけたりする。</li> <li>・ボール転がしやリズム遊び等、1対1のやり取りを楽しめるようにする。また、安定している時は見守る。</li> <li>・伝い歩きが始まるが、ほうことも十分に経験できるようにする。</li> <li>・子どものやりたい気持ちを大切にして、安全な環境を整え、すぐに対応できるよう近くで見守る。</li> </ul>	
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手づかみ食べを認め、自分で食べる意欲を育てる。</li> <li>・遊び食べも1つの過程とし、ゆったりと関わるようにする。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離乳食の進め方や献立、味付け等の工夫の仕方を伝える。</li> <li>・行動範囲が広がるので、手の届く場所に危険な物を置かないことを知らせる。</li> <li>・はいはいを十分に経験することの大切さを伝える。</li> <li>・はいはい、つかまり立ち、立つ、歩く等、めざましい発達をする時期なので、小さな変化も保護者に伝え、成長の喜びを共感し合う。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・離乳が完了し、幼児食を食べる。</li> <li>・保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを持って食べる。</li> <li>・一定時間眠る。</li> <li>・伝い歩きから一人歩きをする。</li> <li>・つまむ、たたく、引っ張る等、手や指を使う。</li> <li>・欲しいものを指差しする。</li> <li>・保育者の言うことが分かるようになる。</li> <li>・片言を言う。</li> <li>・自分から人やものに関わろうとする。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事、睡眠等生活のリズムが安定する。</li> <li>○安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。</li> <li>○身の回りの様々なものを触って遊び、好奇心や関心をもつ。</li> <li>○保育者との信頼関係が深まる中で、自分の気持ちを安心して表す。</li> </ul>
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で十分に遊ぶ。</li> <li>・保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを持って食べようとする。</li> <li>・保育者と一緒に手洗いをしようとする。</li> <li>・保育者の近くで安心して眠る。</li> <li>・シールを貼る等、つまんだり握ったりする。</li> <li>・保育者に気持ちを受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。</li> <li>・保育者の行動に関心をもち、生活や遊びの中で簡単な模倣をする。</li> </ul>
	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な環境との関わり</li> <li>・普段使用している場所や自分のものが分かる。</li> <li>・欲しいものを指差しや身振りで伝えようとする。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を呼ばれると返事をする。</li> <li>・保育者と一緒に水、砂、紙等身近な素材に触れる。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くにいる友達や保育者と一緒に、歌やリズムに合わせて体を動かすことを喜ぶ。</li> <li>・絵本を読んでもらうことを喜ぶ。</li> </ul>
	言葉の獲得	
感性と表現		
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくりと一人遊びができるよう、空間を工夫する。</li> <li>・いろいろな感触のもので遊べるよう、素材を用意する。</li> <li>・探索活動が十分にできるよう、安全に配慮する。</li> <li>・室内の玩具や用具を清潔に保つ。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自分からしてみようという姿を大切に、温かく見守る。</li> <li>・模倣する時期を意識し、動作をゆっくりと大きく分かりやすくする。</li> <li>・一人一人の子どもとの関わりを十分にもち、信頼関係を築く。</li> <li>・子どもが発する言葉に丁寧に応答し、やり取りを楽しめるようにする。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で食べようとする姿を見守りながら、食べやすい量をスプーンに乗せたり、様子を見て食べさせたりする。</li> <li>・「おいしいね」と笑顔で言葉をかけ、楽しく食事ができるようにする。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲にあるものへの興味、関心の広がりから「いたずら」と見える行動が増えるので、身の回りの安全には十分に気を配り、危険な行動をしたときには、「いけないよ」等と分かりやすく話すことが大切であると伝える。</li> <li>・子どもの発見や喜びに共感したり、思いを汲み取って言葉に代えたりすることが大切であると伝える。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を添えながらスプーンを使って食べる。</li> <li>・手伝ってもらいながら簡単な衣類を脱ぐ。</li> <li>・歩行が安定する。</li> <li>・積み木を並べたり積んだりする。</li> <li>・単語や2語文を話す。</li> <li>・友達や保育者のやっていることを真似て遊ぶ。</li> <li>・自己主張が強くなる。</li> </ul>	
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心できる保育者のもと、簡単な身の回りのことをやろうとする。</li> <li>○探索活動を楽しみながら、いろいろなものに触れて興味関心を示す。</li> <li>○保育者とのやり取りを通して、言葉を使うことを楽しむ。</li> <li>○保育者や友達の真似をして遊ぶ。</li> </ul>	
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンを使って自分で食べようとする。</li> <li>・簡単な衣類を自分で脱ごうとする。</li> <li>・歩く、登る、下りる等、体を使って遊ぶ。</li> <li>・ページをめくったり紙を破いたりする。</li> <li>・クレヨン等で、なぐり描きをする。</li> <li>・友達や保育者のしていることを真似て遊ぶ。</li> <li>・保育者との関わりの中で、自分の気持ちを安心して表す。</li> <li>・玩具を出して遊んだり、保育者と一緒に片付けたりする。</li> <li>・保育者の言葉かけが分かり、行動しようとする。</li> <li>・保育者と一緒に簡単な挨拶をする。</li> <li>・絵本やお話を見たり聞いたりして、繰り返しのある言葉を楽しむ。</li> <li>・保育者と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたりする。</li> <li>・歌や音楽に合わせて、体を動かして表現することを楽しむ。</li> </ul>	
	心身の健康		
	人との関わり		
	身近な環境との関わり		
	言葉の獲得		
感性と表現			
<b>保育者の援助</b>	<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが思うままに動きたい気持ちを満たせるように、探索活動がたくさんできるような室内外の環境を整える。</li> <li>・いろいろな動きができるような遊具を用意する。</li> <li>・危険物を点検し、安全な環境を整える。</li> </ul>	<p><b>手指の機能の発達のために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・型はめ</li> <li>・パズル</li> </ul>	<p><b>つもり遊びのために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茶碗 ・皿</li> <li>・エプロン</li> </ul>
	<p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士のトラブルが多くなるが、一人一人の気持ちを受け入れ、優しく語りかけて対応することにより、互いの存在に気付くようにする。</li> <li>・子どもの発見や驚きを受け止め、好奇心や興味を満たし、共有できるようにする。</li> <li>・子どもの言おうとしている言葉を察し、受け入れ、代弁していく。</li> </ul>		
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと一緒に手洗いをし、「きれいになったね」と声をかけ、清潔にする気持ちよさを知らせる。</li> <li>・食べようとする意欲を大切にしながら、そばについてスプーンやフォークの持ち方を知らせていく。</li> </ul>		
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差の大きい時期なので、一人一人の発育、発達状況に合わせて対応していくことの大切さを伝える。</li> <li>・片言の話に応答したり会話したりすることが、言葉の獲得につながっていくことを伝える。</li> <li>・子どもの成長の表れとして、「いやだ、いやだ」と言うことが多くなることもあるが、子ども自身が選んで決められるように「どうしたいの?」「どっちがいいの?」と聞くことが大切であることを伝える。</li> </ul>		

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・こぼしながらもスプーンを使って一人で食べる。</li> <li>・尿が出た時に知らせることがある。</li> <li>・簡単な衣類を自分で脱ぐ。</li> <li>・クレヨン等でなぐり描きをする。</li> <li>・つま先立ち、走る、よじ登る、跳ぶことができる。</li> <li>・ちぎったり、ねじったりする。</li> <li>・「これ、なあに？」等の質問をする。</li> <li>・一方的な要求には「いや」という。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者に手伝ってもらいながら、身の回りのことを自分でしようとする。</li> <li>○体を十分に動かして遊ぶ。</li> <li>○自分の要求を言葉で伝えようとする。</li> <li>○身近な自然に触れ、興味関心をもつ。</li> </ul>
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンを使って一人で食べようとする。</li> <li>・オムツが汚れていたら知らせようとしたり、濡れていない時は保育者と一緒にトイレに行き、便器に座ってみたりする。</li> <li>・簡単な衣類は、保育者に手伝ってもらいながら自分で着脱しようとする。</li> <li>・走ったり跳んだりしながら戸外で遊ぶ。</li> <li>・粘土をちぎったり丸めたりする等、手先を使う遊びを楽しむ。</li> <li>・見立て遊びやつもり遊びをする。</li> <li>・生活や遊びの中で色や形に興味をもつ。</li> <li>・身近な小動物や自然物に興味をもつ。</li> <li>・保育者や友達の名前を言おうとする。</li> <li>・自分の気持ちを言おうとする。</li> <li>・簡単な歌やリズム遊びを楽しむ。</li> <li>・生活や遊びの中で経験したことを再現する。</li> </ul>
	心身の健康	
	人との関わり	
	身近な環境との関わり	
	言葉の獲得	
感性と表現		
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走ったり跳んだりできる遊びや場所を用意する。</li> <li>・一人一人が好きな遊びを見つけられるように、いろいろな遊びの種類やコーナーを用意する。</li> <li>・見立て遊びに必要な用具を用意する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>手指の機能の発達のために</b>            ・小麦粉粘土・のり・ひも通し         </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>見立て遊びのために</b>            ・ブロック・木製電車         </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>体を動かして遊ぶために</b>            ・追いかけっこ・巧技台         </div> </div>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えは取りかかりやすいよう途中まで手伝ったり、衣服を広げたりしておく。</li> <li>・衝動的な動きが多くなるので、子どもから目を離さないようにする。</li> <li>・自分の思いを通そうとしてトラブルになった時には、お互いの気持ちを受け止め、分かりやすい言葉で仲立ちをして、友だちとの関わり方を知らせていく。</li> <li>・子どもの話は優しく受け止め、自分から話したいという気持ちを大切にし、楽しんで言葉を使うことができるようにする。</li> <li>・身の回りの自然に気付けるよう知らせたり、子どもの発見と一緒に喜んだりする。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者と食前食後にしぐさや言葉で挨拶をする習慣を身に付けていく。</li> <li>・スプーンやフォークを使って、こぼしながらも自分で食べようとする姿を認めていく。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に運動遊びが出来るように、活動しやすい衣服や靴の用意をお願いする。</li> <li>・食事のマナーを伝え始める時期であることを知らせていく。</li> <li>・子どもは何でも自分でやりたがったり自己主張したりする一方で、まだ自己コントロールが難しいため、大人を困らせることが多くなる。しかし、そのような姿は発達の過程であり、子どもの成長として受け止められるよう伝える。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンを使ってほとんど一人で食べる。</li> <li>・トイレに行き排泄することが増える。</li> <li>・保育者に手伝ってもらいながら衣類を着脱する。</li> <li>・片足で立ったり、両足をそろえて跳んだりする。</li> <li>・積み木で形のあるものを作る。</li> <li>・「どうして？」等の質問をする。</li> <li>・何でも自分でやろうとするが、思い通りにならずイライラする。</li> <li>・見立て遊び、つもり遊びをする。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者の声かけにより、身の回りのことを自分でしようとする。</li> <li>○全身や手指を使った遊びを楽しむ。</li> <li>○保育者や友達と簡単なやり取りや模倣遊びをする。</li> </ul>
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食器に手を添えて一人で食べようとする。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の声かけでトイレに行き、見守りの中で排泄しようとする。</li> <li>・簡単な衣類は自分で着脱する。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身を使って遊ぶ。</li> <li>・見立て遊び、つもり遊び等を保育者と一緒に楽しむ。</li> <li>・生活や遊びの中で色や形に興味をもったり、物の大小に気付いたりする。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な言葉のやり取りを楽しむ。</li> <li>・簡単な繰り返しのある絵本を楽しむ。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。</li> </ul>
保育者の援助	<b>【環境の構成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見立て遊びが楽しくなるような用具を用意する。</li> <li>・体を使った遊びを十分に楽しめるように、危険物を点検し安全な環境を整える。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <b>手指の機能の発達のために</b>            ・のり・粘土・ボタンはめ         </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <b>見立て遊びのために</b>            ・ままごと道具・バッグ・積み木         </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <b>体を使った遊びのために</b>            ・ボール・追いかっこ         </div> </div>	
	<b>【保育者の関わり】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのことは自分で行えるよう、時間を十分にとる。</li> <li>・周りの子どもとの触れ合いが多くなり、自我のぶつかり合いも見られるようになるため、相手の気持ちや関わり方を知らせていく。</li> <li>・つもり遊びの中に保育者も入り、子どもたちのイメージが合うようにしていき、子ども同士の関わりを上手くもてるように促していく。</li> </ul>	
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「これなあに？」等の子どもの言葉に応答したり、「これおいしいよ」と保育者が食べる姿を見せたりして、いろいろな食べ物に興味をもてるようにしていく。</li> <li>・正しい姿勢で食事ができるよう、声をかけたり見守ったりしていく。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが何でもやりたがったり、自己主張が強くなったりして、保護者は子育てに悩む時期であるので、保護者の気持ちに共感し、寄り添った働きかけをする。</li> </ul>	

2歳児 発達の過程 I期 ( 4月 ~ 6月上旬 )

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーン、フォークを使って食事をしようとする。</li> <li>・着脱や排泄等、身の回りのことを、保育者に手伝ってもらいながら行う。</li> <li>・全身を使って遊ぶ。</li> <li>・クレヨンでぐるぐる描きをする。</li> <li>・思い通りにできないことがあるが、自分でやってみようとする。</li> <li>・保育者と一緒に、見立て遊びやつもり遊びをする。</li> <li>・新しい環境に不安になることもある。</li> </ul>	
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者に不安や欲求を受け止めてもらい、安心して生活する。</li> <li>○保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。</li> <li>○簡単な身の回りのことを、保育者と一緒にしようとする。</li> </ul>	
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者のそばで安心して過ごす。</li> <li>・保育者を仲立ちとして、友達と一緒に食べることを喜ぶ。</li> <li>・声かけでトイレに行き、見守られながら排泄しようとする。</li> <li>・手伝ってもらいながら、衣服や靴を着脱しようとする。</li> <li>・保育者にそばについてもらいながら、安心して眠る。</li> <li>・園庭で体を動かして遊ぶ。(走る、登る、下りる)</li> <li>・新しい場所や人に慣れ、好きな遊具や玩具を見つけて遊ぶ。</li> <li>・友達のしている遊びと同じことをしようとする。</li> <li>・保育者を仲立ちとして友達と関わって遊ぶ。</li> <li>・園庭で身近な草花、植物に興味をもち、見たり触れたりする。</li> <li>・生活の中での必要な言葉が分かり、簡単な挨拶や返事をする。</li> <li>・絵本を読んでもらったり、手遊びや歌を歌ったりして楽しむ。</li> <li>・土、砂、虫等、様々なものに興味をもって触れる。</li> </ul>	
	心身の健康		
	人との関わり		
	身近な環境との関わり		
	言葉の獲得		
感性と表現			
保育者の援助	【環境構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロッカーや靴箱等の場所が分かるように個人マークをつける。</li> <li>・遊具の出し入れがしやすいように写真やイラストをつける。</li> <li>・好きな遊びを選べるように、いろいろな遊具やコーナーを用意する。</li> </ul>	
	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>手指の機能を使った遊びのため</b>                      ・小麦粉粘土・クレヨン                      ・のり・ボタンはめ                      ・ひも通し                 </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>見立て遊びのために</b>                      ・ブロック・積木                      ・人形・ままごと                 </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>体を使った遊びのために</b>                      ・追いかっこ・三輪車                 </td> </tr> </table>	<b>手指の機能を使った遊びのため</b> ・小麦粉粘土・クレヨン ・のり・ボタンはめ ・ひも通し	<b>見立て遊びのために</b> ・ブロック・積木 ・人形・ままごと
<b>手指の機能を使った遊びのため</b> ・小麦粉粘土・クレヨン ・のり・ボタンはめ ・ひも通し	<b>見立て遊びのために</b> ・ブロック・積木 ・人形・ままごと	<b>体を使った遊びのために</b> ・追いかっこ・三輪車	
食育	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、排泄、午睡等を安心してできるように、保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気心を心がける。</li> <li>・一人一人の甘え、不安、欲求を丁寧に受け止めて信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。</li> <li>・遊具の使い方を知らせ、安全に遊べるように配慮する。</li> <li>・否定的な言葉ではなく「できるかな」「～しようね」と自らやってみようという意欲がもてるような言葉かけをする。また、できた時にはできて当たり前と思わず、見逃さないようにほめてその子の自信につなげていく。</li> </ul>	
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンやフォークを使って食べられるよう一人一人に合わせた声かけをしていく。</li> <li>・保育者も一緒に食べる中で「〇〇おいしいね」等、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食べられるようにしていく。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登降園の際の声かけや連絡ノートでのやり取りの中で、子どもの姿を伝え合い、保護者の気持ちに寄り添い共感していく。</li> <li>・自我が芽生え何でもやりたがるが、上手くいかず失敗する時期だということを伝える。</li> <li>・やりたいという気持ちを大切に、失敗しても自分でやったという満足感を得られるような経験をさせることで意欲が育つことを伝える。</li> </ul>		

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンやフォークを使って食事をする。</li> <li>・尿意を知らせ、トイレで排泄しようとする。</li> <li>・登る、押す、引っ張る等、全身を使って遊ぶ。</li> <li>・トラックや家等、積み木で形あるものを作って遊ぶ。</li> <li>・自我が芽生え、自分の欲求や要求を言葉で伝えようとし、「どうして」等の質問をする。</li> <li>・保育者と一緒に見立て遊びやつもり遊びをする。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○やりたい気持ちを受け止めてもらいながら、簡単な身の回りのことをやろうとする。</li> <li>○保育者や友達と一緒に、戸外で十分に体を動かして遊んだり、水、砂、土に触れて解放的な遊びを楽しんだりする。</li> <li>○生活に必要な言葉が少しずつ分かり、したいことやしてほしいことを言葉で表現しようとする。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の健康</li> <li>人との関わり</li> <li>身近な環境との関わり</li> <li>言葉の獲得</li> <li>感性と表現</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の声かけでトイレに行き、見守られながら排泄する。</li> <li>・保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。</li> <li>・保育者や友達との関わりを深めながら、自分の気持ちを安心して表す。</li> <li>・保育者と一緒に模倣をしながら、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。</li> <li>・生活や遊びの中で順番等の決まりがあることを知る。</li> <li>・自分のしたいことやしてほしいことを言葉やしぐさで伝える。</li> <li>・絵本の中の簡単な言葉を繰り返して楽しむ。</li> <li>・保育者と一緒に水、砂、土に触れて遊ぶ。</li> <li>・クレヨンや絵の具等で思いのままに塗ったり描いたりする。</li> <li>・積み木を並べたり積んだりすることを楽しむ。</li> <li>・小麦粉粘土等を丸めたり伸ばしたりして楽しむ。</li> </ul>
	<b>保育者の援助</b>	<p>【環境の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見立て遊びが楽しくなるような物を用意する。</li> <li>・水、砂、土等に触れる環境を用意する。</li> <li>・水遊びでは必ず監視役をおき、転倒防止のため周りに滑りにくい物を敷く等して安全面に十分配慮する。</li> <li>・プライバシー保護の為、タープやパーテーションを利用する。</li> <li>・着替えや持ち物等、自分で出し入れしやすいように工夫する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>手指の機能を使った遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦粉粘土・のり・ボタンはめ</li> <li>・ひも通し・クレヨン</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>見立て遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積み木・ままごと道具</li> <li>・人形</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>体を動かす遊びのために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巧技台・スクーター</li> <li>・三輪車</li> </ul> </div> </div> <p>【保育者の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのことを自分でやろうとする気持ちを大切に、ゆとりをもって見守ったり、励ましたりしながら意欲につなげていく。</li> <li>・一人一人の健康状態を把握し、水分補給や休息に配慮していく。</li> <li>・友達とのトラブルの場面では、一人一人の思いを受け止めながら、相手の気持ちに気付けるように伝えていく。</li> <li>・やっていいことといけないことを言葉で繰り返し伝えていく。</li> </ul>
	<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食器に手を添えて食べられるように声をかけていく。</li> <li>・保育室で給食員と交流する機会をもつ。(例えばスイカを切ってもらったり、おにぎりを目の前で作ってもらったりする等)</li> <li>・食材を見たり触れたりして興味をもつ。</li> </ul>
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何でも自分でやりたがり、自己主張をして感情のコントロールができないことがあるが、発達の過程に見られる姿であることを伝える。</li> <li>・子どもの気持ちを受け止めるために、抱きしめたりスキンシップ(絵本の読み聞かせや親子の会話等)をとったりすることで子どもが愛情を感じ、情緒が安定することを伝える。</li> <li>・衣類等は、子どもが自分で出し入れしやすいように整理しておく必要性を知らせる。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンやフォークを使ってほとんど一人で食べる。</li> <li>・走ったり、跳んだりして遊ぶ。</li> <li>・上手くできなくても、身の回りのことを自分でする。</li> <li>・自己主張が強くなり、友達とぶつかり合う。</li> <li>・保育者や友達と一緒に見立て遊びやつもり遊びをする。</li> </ul>		
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者に見守られながら、身の回りのことを少しずつ自分でやろうとする。</li> <li>○生活や遊びの中で、保育者や友達と関わり、簡単な言葉のやり取りを楽しむ。</li> <li>○全身を使った活動的な遊びを楽しむ。</li> </ul>		
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うがいの仕方を知る。</li> <li>・鼻水を自分で拭いたり、かもうとしたりする。</li> </ul>		
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外遊びを十分にすることで、全身を動かして遊びを楽しむ。</li> <li>・巧技台等で段差のある遊びを楽しむ。(腕力、背筋、腹筋、脚力)</li> <li>・保育者が仲立ちとなり、友達と見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。</li> </ul>		
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との玩具の取り合いでトラブルになった時等、保育者を仲立ちとして相手も同じ思いをしていることを知る。</li> </ul>		
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かして」「いれて」等の自分の思いを少しずつ言葉にして、保育者や友達に伝えようとする。</li> </ul>		
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な物語の絵本や紙芝居を繰り返し読んでもらったり、好きな歌を歌ったりすることを楽しむ。</li> <li>・リズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ。</li> </ul>		
<b>保育者の援助</b>	<p><b>【環境の構成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きが活発になるので安全に配慮しながら、子どもたちがやりたいことを伸び伸びできるような環境を整えていく。</li> <li>・見立て遊びやつもり遊びが楽しくなるように、布、紙、お手玉、容器、キャップ、自然物(どんぐり、まつぼっくり)等を用意しておく。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> <b>手指の機能を使った遊びのために</b>                      ・粘土・のり・はさみ                      ・パズル                 </td> <td style="padding: 5px;"> <b>見立て遊びのために</b>                      ・積み木・ブロック・布・紙                      ・お手玉・容器・キャップ                 </td> <td style="padding: 5px;"> <b>体を動かす遊びのために</b>                      ・ボール・三輪車・巧技台                      ・マット                 </td> </tr> </table> <p><b>【保育者の関わり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身ともに成長する時期なので、生活や遊びをともにやってみようとする気持ちをもてるように言葉のかけ方を工夫し、遊びの内容を充実させていく。</li> <li>・できたことをほめたり認めたりすることで自信へとつなげていく。</li> <li>・トラブルの際は、互いの気持ちを十分に受け止めたうえで、相手の気持ちを代弁して伝え、友達との関わり方を知らせていく。</li> </ul>	<b>手指の機能を使った遊びのために</b> ・粘土・のり・はさみ ・パズル	<b>見立て遊びのために</b> ・積み木・ブロック・布・紙 ・お手玉・容器・キャップ	<b>体を動かす遊びのために</b> ・ボール・三輪車・巧技台 ・マット
<b>手指の機能を使った遊びのために</b> ・粘土・のり・はさみ ・パズル	<b>見立て遊びのために</b> ・積み木・ブロック・布・紙 ・お手玉・容器・キャップ	<b>体を動かす遊びのために</b> ・ボール・三輪車・巧技台 ・マット		
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者が手を添えたり、やってみせたりして正しい食具の持ち方を知らせていく。</li> <li>・食後のブクブクうがいは、実際に保育者がやってみせたり、やり方を知らせたりしていく。</li> </ul>			
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とのトラブルの際は、状況を詳しく伝える。</li> <li>・手洗いやうがい等、清潔について、習慣づけることの大切さを伝える。</li> <li>・散歩や園庭遊び等戸外での活動が多くなってくるので、動きやすい衣服や足に合った靴を用意してもらう。</li> </ul>			

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食器を持ってスプーンやフォークを使って食べる。</li> <li>・着脱や身の回りのことが、ほぼ自分でできる。</li> <li>・ズボン、パンツを下げて排泄する。</li> <li>・体が自由に動かせるようになり、全身を使って遊ぶ。</li> <li>・手すりにつかまりながら、スムーズに階段の上り下りをする。</li> <li>・丸を描く。(円が閉じる)</li> <li>・少しずつ形のある絵を描く。</li> <li>・友達との関わりが多くなり、トラブルになることもある。</li> <li>・少人数で見立て遊びをする。</li> <li>・したいことやしてほしいことを身近な相手に簡単な言葉で伝える。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者に見守られながら、身の周りのことを自分でやろうとする。</li> <li>○手先や全身を使って、いろいろな遊びを楽しむ。</li> <li>○生活や遊びの中で、言葉のやり取りを楽しむ。</li> <li>○興味のあることや経験したことを思い浮かべながら、自分なりに表現したり、見立て遊びやつもり遊びをしたりすることを楽しむ。</li> <li>○進級することに期待をもつ。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片手で食器を持って食具を使い、最後まで一人で食べようとする。</li> <li>・手洗い、うがいをする。(ブクブクうがい・ガラガラうがい)</li> <li>・尿意、便意を知らせ、自分からトイレに行って排泄しようとする。</li> <li>・ズボン、パンツを下げて排泄する。</li> <li>・功技台を使って全身運動をする。</li> <li>・友達と同じ遊びをして楽しむ。</li> <li>・友達との関わりを通して、自分の思いを簡単な言葉で相手に伝えようとしたり、我慢したり待ったりしようとする。</li> <li>・形、大小、色等に関心をもつ。</li> <li>・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとする。</li> <li>・物語の登場人物や動物等、好きなものになりきり、保育者や友達と一緒に遊んだり、動いたりする楽しさに気付く。</li> <li>・粘土、絵の具、折り紙、のり、はさみ等の材料や用具を使い、作ることを楽しむ。</li> </ul>
	心身の健康	
	人との関わり	
	身近な環境との関わり	
<b>保育者の援助</b>		<p><b>【環境の構成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近に経験したことを真似て、遊びを楽しめるような道具を用意する。</li> <li>・異年齢(3歳以上児)と交流したり、次年度使用するクラスで遊んだりして、進級することに安心と期待をもてるようにする。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>手指の機能を使った遊びのために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土・はさみ・ボタンはめ</li> <li>・ひも通し・絵カード探し</li> <li>・ジグソーパズル・シール貼り</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>見立て遊びのために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ままごと・人形</li> <li>・積み木・ブロック</li> <li>・チェーリング</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>体を使った遊びのために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三輪車・かくれんぼ</li> <li>・しっぽ取り・巧技台</li> <li>・フルーツバスケット等</li> </ul> </div> </div> <p><b>【保育者の関わり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自分でできた喜びを味わい、満足感や自信をもてるように、一人一人に合わせたきめ細やかな配慮をしていく。</li> <li>・トラブルの場面では、相手の気持ちや友達とのかかわり方を分かりやすく丁寧に話していく。</li> <li>・寒くても食事前の手洗いやうがいを進んでしようとする姿を認めたり励ましたりして、習慣が崩れないようにする。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものペースで食べ進められるように見守りながら、苦手な食べ物も食べてみようと思えるように声かけをする。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着脱等身の回りのことが自分でできるようになるので、脱ぎ着しやすいものを準備してもらおう。</li> <li>・おたよりや懇談会を通して、これまでの子どもの成長を喜び合ったり、次年度の見通しについて話したりして、安心して進級できるようにする。</li> </ul>	

3歳児 発達の過程 I期 ( 4月 ~ 6月上旬 )

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級や入園に伴う環境の変化により、不安や戸惑いを感じる子どもがいる。</li> <li>・好きな遊具や場を見つけ、自分のペースや思いで動く。</li> <li>・保育者や友達に興味関心を示す。</li> <li>・困ったことや嫌なこと等を言葉で伝えることが難しい。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の好きな遊びや場を見つけ、遊ぼうとする。</li> <li>○保育者や友達と触れ合い、共に遊ぶ中で親しみをもつ。</li> <li>○新しい環境に慣れ、安心して過ごす。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境に慣れ、基本的な生活の仕方を知る。(食事、排泄、手洗い、身支度の仕方等)</li> <li>・保育者や友達と一緒に食事をする。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の約束事、遊具や用具の使い方等を知る。</li> <li>・保育者や友達と、話したり触れ合ったりして遊ぶ。</li> <li>・自分のクラスや担任、友達の顔や名前を知る。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な小動物や草花を見たり触れたりして、親しみをもつ。</li> <li>・ままごと、電車、積み木、ブロック等に興味をもち遊ぶ。</li> <li>・挨拶や返事等、生活に必要な言葉を知る。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や紙芝居を読んでもらうことを楽しむ。</li> <li>・保育者と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたり、音楽に合わせて体を動かしたりすることを楽しむ。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂、粘土等の素材に触れて、感触を楽しみながら遊ぶ。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活する場所や物が分かるように、個別のマークを付け、安心して生活ができるようにする。</li> <li>・遊具を置く場所は、出し入れや片付けをしやすいようにしたり、分かりやすく表示をつけたりする。</li> <li>・興味をもった遊びを一人一人が十分にできるように、遊具の数や置き方に配慮する。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差に配慮しながら一人一人の気持ちをしっかりと受け止め、声をかけながらスキンシップを図り、安心して園生活を送れるように子どもとの信頼関係を築く。</li> <li>・保育者も一緒に遊び、楽しさに共感する。</li> <li>・いろいろな遊具や場を知らせたり、遊びに誘いかけたりして、やりたいことを見つけられるようにする。</li> <li>・絵本や紙芝居、リズム、手遊び、ペープサートや指人形等の教材を準備し、保育者のそばに集まると楽しいことがあるという体験を積み重ねていく。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や保育者と一緒に食事をする喜びや楽しさを味わえるようにする。</li> <li>・昼食時の活動や流れを分かりやすく伝える。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子を聞いて家庭の生活を理解したり、園での様子を伝えたりして、コミュニケーションを図り、信頼関係を築く。</li> <li>・身の回りのことや身支度の仕方等を知らせ、自分でしようとする力につながるように、見守ることの大切さを懇談会やクラスだより等で伝える。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな遊びを見つける。</li> <li>・自分の好きな遊びの場にいる友達と関わろうとする。</li> <li>・自分の思い通りにしたが、物の取り合い等のトラブルが出てくる。</li> <li>・園生活の流れが少しずつ分かってくる。</li> <li>・身の回りのことを、保育者の声かけや援助により自分でしようとする子どもや、気分によって取り組むのが難しかったり甘えたりする子どもがいる。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の好きな遊びを見つけて楽しむ。</li> <li>○保育者や身近にいる友達と同じ場や物で遊んだり、同じように動いたりすることを楽しむ。</li> <li>○保育者と一緒に、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走ったり遊具を使ったりして、体を動かして遊ぶ。</li> <li>・好きな食べ物を喜んで食べる。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事や排泄、手洗い、身支度等を、保育者の声かけや援助により自分でしようとする。</li> <li>・保育者や自分の近くで遊んでいる友達に興味や関心をもつ。</li> <li>・友達がしていることを見たり、真似したりして遊ぶ。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の物や、他の人の物、みんなで使う物の違いが分かり、大切にすることを覚える。</li> <li>・身近な小動物や草花、野菜等を見たり触れたりして、興味や関心をもつ。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「貸して」「入れて」「ありがとう」「順番ね」等、遊びに必要な言葉を知る。</li> <li>・困ったことやしてほしいことを、自分なりの言葉やしぐさ、表情等で、保育者に表現する。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂、泥、水、シャボン玉等で遊び、感触を楽しんだり解放感を味わったりする。</li> <li>・曲の感じやリズムに合わせて、体を動かしたり、簡単な身体表現等を楽しんだりする。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の着替えや身の回りの片付けについて、手順や場が分かりやすいように、表示をしたり入れ物を用意したりして、環境を整える。</li> <li>・水の心地よさやいろいろな素材の感触を味わえるよう、環境を工夫する。</li> <li>・水を使った活動の際には、安全面や衛生面に十分配慮するとともに、個人差に応じて無理なく水に親しめるような環境をつくる。</li> <li>・自分なりの遊びを楽しみながらも、友達が遊んでいる様子が分かるような空間や場づくりをする。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の発達を丁寧に捉え、必要に応じて手助けしたり励ましたりし、自分でしようとする気持ちを育てる。</li> <li>・遊びへの興味をもてるように、保育者も一緒に遊びを楽しみながら、友達の様子を見せたり誘いかけたりする。</li> <li>・子どもの思いや感情を受け止め共感し、自分らしさを発揮できるようにする。</li> <li>・こまめな水分補給や休息をとれるようにし、一人一人の体調に留意する。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で食べることに、楽しみや自信を感じられるような言葉かけをする。</li> <li>・プランターの置き場を工夫する等して、身近な植物や野菜の育ちに目を向け、収穫を楽しめるようにする。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の中で、身の回りのことを自分でしている姿を個人面談やクラスだより等で知らせ、子どもの成長を喜び合うとともに、家庭でも丁寧に取り組んでもらえるように伝える。</li> <li>・食事、睡眠、休息等の生活リズムの安定を図れるように知らせる。</li> <li>・友達とのトラブルが発生した時は、人との関わりを学ぶための大切な体験であることを伝える。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな遊びを繰り返す。</li> <li>・一緒に遊びたい友達ができ、自分から関わっていく。</li> <li>・4、5歳児の遊びをじっと見たり真似したりする。</li> <li>・身の回りのことを自分でしようとする。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者や友達がすることに興味をもち、自分もしてみようとする。</li> <li>○気の合う友達と関わって遊ぶことを楽しむ。</li> <li>○園での過ごし方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	
	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の着脱等、身の回りのことを自分でしようとする。</li> <li>・かけっこやいろいろな用具を使った遊びを楽しみ、思いきり体を動かして遊ぶ。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や生活の中で、異年齢児との関わりをもつ。</li> <li>・気の合う友達や関心を寄せる友達と一緒に、触れ合って遊ぶ。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の変化を感じながら、落ち葉や木の実等を集め、触れて遊ぶ中で、身近な自然に興味や関心をもつ。</li> <li>・保育者と一緒に、身近な動植物の世話をしたり遊んだりする中で、興味を広げる。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちやして欲しいこと等を、保育者に自分なりの動きや言葉で伝えようとする。</li> <li>・絵本や紙芝居等、みんなで見たり聞いたりすることを楽しむ。</li> <li>・保育者や友達と、音楽に合わせて体を動かしたり、いろいろな動きを真似したりして、表現する。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にあるものを使い、好きなように描いたり作ったりして表現する楽しさを感じる。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等を通して4、5歳児の活動を見たり真似をしたりするので、真似をして遊べることを繰り返し楽しめるように、遊具や用具を身近に用意する。</li> <li>・身近な自然事象に興味をもてるように、園外に出かけたり動植物に触れたりする機会をもつ。</li> <li>・友達と同じようなことをして、一緒にいることを楽しめるように、身近な用具や材料、場を用意する。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのこと等を自分からしようとする姿を見守ったり、できるようになった姿を認めたりして励ます。</li> <li>・保育者が子どもと一緒に体を動かして遊ぶ姿を見せながら、その楽しさを伝える。</li> <li>・トラブルや思い通りにならない時は、個々の思いを受け止める。また互いの思いを代弁して伝えたり、気分を切り替えたりできるようにする。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事が終わるまで席を立たない等、簡単なマナーを知らせながら、一緒に食事をする。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会等の取り組みは個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。</li> <li>・自分の思いが叶わないことに、泣いたり怒ったりすることが増えてくるが、成長の過程と捉え、見守ったり気持ちを受け止めたりすることの大切さを伝える。</li> </ul>	

3歳児 発達の過程 IV期 ( 10月下旬 ~ 12月 )

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合う友達と一緒に、同じ遊びを楽しめるようになる。</li> <li>・簡単なルールのある遊びを楽しむようになる。</li> <li>・おしゃべりが活発になる。</li> <li>・生活の中でのきまりが分かるようになる。(交替で使う、順番に並ぶ等)</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな活動に興味をもち、楽しむ。</li> <li>○みんなと一緒に遊ぶ楽しさを感じる。</li> <li>○生活や遊びの中にきまりがあることが分かり、守ろうとする。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	
	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのことに自分から取り組み、できた喜びを感じる。</li> <li>・保育者や友達と、簡単なルールのある遊びをする。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と同じ活動に参加し、みんなと一緒にすることを喜ぶ。</li> <li>・友達との関わりの中で、楽しく遊ぶためにきまりやルールがあることを知る。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の話をみんなと一緒に聞こうとする。</li> <li>・身近な物の大小、色、形、多い少ない等の違いに気付く。</li> <li>・いろいろな材料や用具を使って、遊びに必要なものを作る。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや生活の中で、必要な言葉を使おうとする。</li> <li>・保育者や友達と、言葉のやりとりをすることを喜ぶ。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなリズム楽器に触れたり、鳴らしたりすることに楽しさを感じる。</li> <li>・見立てたり何かのつもりになったりして、自分なりに表現して遊ぶ。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見立てたり、なりきったりして遊ぶことができるような材料や用具を用意し、自分なりに作ったり使ったりできるようにする。</li> <li>・友達と一緒に遊ぶを十分に楽しめるような材料や用具、遊びの場を用意する。</li> <li>・日頃使い慣れている遊具を使いやすいように置いたり、場を広げて遊べるような物を用意したりする。</li> <li>・季節の変化に応じ、室内の温度や湿度、換気に配慮する。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後までやり遂げようとする気持ちが芽生えているので、保育者は見守り、子どもの気持ちを受け止める。様子によっては手助けをし「できた」という満足感を味わえるようにする。</li> <li>・遊びや場に応じた簡単な言葉を知らせ、言葉で伝える喜びを感じられるようにする。</li> <li>・トラブルが起きた時は、それぞれの思いを受け止め、相手の気持ちにも気付けるように仲立ちをする。(分かりやすく代弁して伝えたり、気分転換を図ったりする)</li> <li>・生活や遊びの中に、きまりがあることを繰り返し伝える。</li> <li>・子どもの興味や集中時間を考慮し、分かりやすく話をする。</li> <li>・手洗いやうがいには保育者も一緒に行い、大切さを知らせる。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れない食べ物や苦手な食べ物も、食べてみようという気持ちを促す。</li> <li>・芋掘りや焼き芋等の活動を通して、秋の食材に触れたり味わったりすることができるようにする。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒さに向けての健康管理の方法と必要性を知らせる。</li> <li>・好きな物を食べるだけでなく、いろいろな食材を食べることの大切さを知らせる。</li> <li>・保育参加等を通して、子どもの成長や具体的な姿を共有したり、親子の触れ合いの楽しさを感じ取ったりしてもらう。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に遊ぶ楽しさが分かってくる。</li> <li>・自分の思いを、言葉や動きで表現することが多くなる。</li> <li>・一日のおおまかな生活の流れが分かり、自分で行動しようとする。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びの中で作ったり動いたりして、自分なりに表現することを楽しむ。</li> <li>○友達と遊んだり話したりすることを楽しみ、一緒に活動しようとする。</li> <li>○基本的な生活習慣が身に付き、自分のことは自分でしようとする。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防寒着の着脱、手洗いやうがい等、身の回りのことを自分でしようとする。</li> <li>・保育者や友達と集団遊びを楽しみ、体を動かして遊ぶ。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスみんなで、同じ遊びを楽しむ。</li> <li>・保育者や友達との関わりの中で、会話を楽しみながら一緒に遊ぶ。</li> <li>・友達が困ったり泣いたりしている時に、心配し助けようという気持ちを持ち、友道をなぐさめたり保育者に知らせたりする。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の自然に興味を持ち、見たり触れたりして感じる。</li> <li>・身近な材料を使って自分が欲しい物を作ったり、できた物を遊びに使ったりする。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを、自分なりに言葉に表して伝える。</li> <li>・絵本や紙芝居等を見たり聞いたりしながら、言葉への興味を広げていく。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごっこ遊びや簡単な劇遊びで、好きな登場人物になりきって遊ぶ。</li> <li>・音楽に合わせてリズム楽器を鳴らしたり、身体表現を楽しんだりする。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	<b>【環境の構成】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びが発展できるような材料や、遊びたい友達と一緒にいられる場等を用意し、友達や保育者と十分に触れ合って遊べるようにする。</li> <li>・簡単なルールや繰り返しのある遊びを友達と一緒に楽しめるよう、遊具や用具を用意する。</li> <li>・身近な自然事象に興味をもって関われるよう、環境を工夫する。</li> </ul>
	<b>【保育者の関わり】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことは自分でする姿に共感し、認めたり褒めたりすることで自信をもたせ、大きくなった喜びを感じ取れるようにする。</li> <li>・友達と一緒に遊ぶ姿を見守ったり楽しさに共感したりし、さらにつながりを感じられるようにする。</li> <li>・一人一人の動きを受け止めながら、保育者もアイデアやヒントを出し、より遊びが楽しくなるようにする。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で準備や片付けをする姿を認め、自信につなげていく。</li> <li>・異年齢の友達や担任以外の保育者と食事をする機会を設け、周りの人に親しみを感じながら会食する楽しさを味わえるようにする。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己主張や自立心が強くなるが、まだ甘えたい気持ちもあるので、温かく受け止めるように伝える。</li> <li>・懇談会や個人面談等で話し合う中で、進級に向けて子どもの成長を振り返ったり、喜んだりする機会を設ける。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境に期待を抱いている子どもや、不安な気持ちをもっている子どもがいる。</li> <li>・保育者の仲立ちにより、自分のやりたい遊びを見つけ遊ぼうとする。</li> <li>・新しい環境での園生活の流れや過ごし方が分かり、保育者の言葉かけにより、身の回りのことをしようとする。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者に親しみをもったり、園が楽しいところであると感じたりする。</li> <li>○好きな遊びを通して、友達や保育者と触れ合うことを楽しむ。</li> <li>○園生活の流れが分かり、安心して過ごす。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の場でのきまりがあることを知る。</li> <li>・保育者や友達と一緒に楽しく食事をする。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で体を動かして遊ぶ気持ちよさを感じる。</li> <li>・保育者や友達との触れ合いを楽しむ。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や友達に親しみをもち、好きな遊びをする。</li> <li>・困っていることや、してほしいこと等を保育者に伝えようとする。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春の花や虫に触れ、いろいろな自然に親しむ。</li> <li>・挨拶や返事等、生活に必要な言葉を使おうとする。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や紙芝居等を、見たり聞いたりすることを楽しむ。</li> <li>・保育者と一緒に歌を歌ったり、曲に合わせて体を動かしたりする。</li> <li>・身近な素材や用具を使って、描いたり作ったりすることを楽しむ。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな遊びが十分にできる時間や場所を保障する。</li> <li>・遊具は子どもが欲求を満たせる程度の量や種類を準備する。また、片付けやすいよう場所を工夫する。</li> <li>・生活をスムーズに送れるよう、保育室を整えるときにも表示をつける等して、遊具や用具を置く場所を分かりやすくする。</li> <li>・園庭での場の構成は、遊びの特徴や安全面に考慮して行う。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体の職員が、様々な場面で子どもを援助できるよう連携を図る。</li> <li>・個人差を考慮して子ども一人一人に呼びかけたり、触れ合いを多くしたりして情緒の安定を図る。</li> <li>・保育者が積極的に遊びに加わり、遊びの楽しさを味わえるようにする。</li> <li>・同じ場にいる友達の存在に気付くような言葉かけをする。</li> <li>・遊具や用具の使い方を知らせ、一人一人を見守りながら、安全な使い方を伝える。</li> <li>・個人差を考慮し、生活の流れが分かるように言葉をかけたり、必要に応じて手助けをしたりする。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園での食事の仕方や流れを理解し、保育者や友達と一緒に食事をする楽しさを感じられるようにする。</li> <li>・季節に応じた植物や、保育に活用できるような植物を選び、育てる。</li> <li>・植物の観察や水やり等を子どもと一緒にしながら、生長の喜びを感じられるようにする。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談や懇談会、おたより等で園の方針やクラス運営の方針について伝え、園と家庭とが同じ思いで、子どもに関われるようにする。</li> <li>・園や家庭での子どもの様子を連絡帳や送迎時に伝え合い、保護者の不安な気持ちを受け止めながら、信頼関係を築いていく。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな活動への興味が広がり、体を十分に動かすようになる。</li> <li>・周りの友達の動きに目が向くようになり、相手と同じことをして関わる。</li> <li>・友達とのトラブルが見られ、自分の思いにも気付いてほしいという働きかけが増える。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな活動に興味をもち、自分のやりたい遊びを見つけて楽しむ。</li> <li>○友達と関わりをもち、一緒に活動することを楽しむ。</li> <li>○自分でできることに喜びを感じながら、生活に必要な習慣を身に付ける。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で体を十分に動かして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>・安全な遊具や用具の扱い方等、園での生活の仕方が分かり進んで行く。</li> </ul> </li> <li>・人との関わり <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもった遊びをする中で、友達とのつながりを感じる。</li> <li>・友達と同じ物を持ったり、同じ動きをしたりし、イメージを共有してごっこ遊びを楽しむ。</li> </ul> </li> <li>・身近な環境との関わり <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な動植物や自然事象に興味や関心をもつ。</li> <li>・砂や泥等の感触を味わう。</li> </ul> </li> <li>・言葉の獲得 <ul style="list-style-type: none"> <li>・色水遊びやシャボン玉遊び等で、試したり発見したりし、できたことを喜ぶ。</li> <li>・自分の思ったことを言葉や動きで表現し、相手に伝えようとする。</li> </ul> </li> <li>・感性と表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や返事等、生活に必要な言葉を使う。</li> <li>・水遊びを通し、水の冷たさや気持ちよさを味わう。</li> <li>・友達と一緒に歌ったり、音楽を聞きながら体を動かしたりして楽しむ。</li> <li>・身近な素材や用具を使って自由にかいたりつくったりすることを楽しむ。</li> </ul> </li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの作りたい物が実現できるよう、材料や用具を用意する。素材は子どもが扱いやすい大きさや種類を用意し、自由に使えるようコーナー等に分類しておく。</li> <li>・解放感を味わう水遊びや砂遊びは、進んで遊びに取り組むことができるように、子どもが興味をもてる素材や用具を十分に用意する。</li> <li>・気の合う友達との遊びを楽しめるように、遊具や場を用意する。</li> <li>・身の回りのことに進んで取り組めるように、子どもと一緒にいたり、分かりやすく表示をしたりする。</li> <li>・梅雨時や水遊びの時期の衛生管理及び安全面に、十分留意する。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士の間関係性を把握し、友達との関わりや触れ合いを楽しめるようにする。</li> <li>・作ることの楽しさや作ったもので遊ぶ楽しさを味わえるよう、保育者が子どもと一緒に遊び、楽しさに共感していく。</li> <li>・遊びの中でいろいろなことに気付く、感じる、試す等している姿を受け止め、認めたり共感したりして、満足感を味わえるようにする。</li> <li>・水遊びは個人差を把握し、一人一人が無理なく水に親しめるようにしていく。また、着替えは慣れるまで不安な子どもがいる際には、温かく励まし安心して取り組めるよう援助する。</li> <li>・友達の遊びの様子や、楽しんでいること等を周りの子どもに伝え、触れ合えるようにする。</li> <li>・暑い日は日陰で遊んだり、水分補給をしたりと、子どもの体調に十分配慮する。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の栽培や水やりを通して、生長の様子や変化を楽しみながら、気付いたこと等を伝え合える場面を設ける。</li> <li>・枝豆やとうもろこしの皮むきを通して食材に興味をもてるようにする。</li> <li>・自分たちで育てた野菜の収穫を喜び、味わえるようにする。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談では、4月からの成長を知らせて保護者に安心してもらい、家庭と共に成長を見守っていけるようにする。</li> <li>・運動会等についての事前説明を行い、目的や取り組み方を明確にして保護者に理解や協力をお願いするとともに、子どもたちの成長を喜び合えるようにする。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのイメージをもち、遊びの場をつくったり、見立てたりして遊ぶ。</li> <li>・友達とのつながりを感じ、同じものを作ったり、遊びの中で同じような動きをしたりする。</li> <li>・クラス全体で集まった時に、保育者の話を聞こうとする姿が見られるようになってくる。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と触れ合いながら、感じたことを自分なりに表現して楽しむ。</li> <li>○気の合う友達の中で、自分の思いを出しながら遊ぶ。</li> <li>○保育者や友達の話の聞いたり、会話を楽しんだりする。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温や活動に応じて、衣類の調節を自分でする。</li> <li>・運動的な遊びを自分からやってみようとする。</li> <li>・簡単なルールのある遊びを友達と一緒に楽しむ。</li> <li>・みんなで行う活動に喜んで参加し、自分なりの力を出す。</li> <li>・友達の態度や表情から、相手の思いに気付く。</li> <li>・夏から秋への自然の移り変わりに気付く。</li> <li>・草花を遊びに取り入れたり、虫探しや観察をしたりし、身近な動植物に親しみをもって関わる。</li> <li>・思ったことや考えたことを保育者や気の合う友達と伝え合う。</li> <li>・様々な素材や用具を使って遊びに必要なものを作る。</li> <li>・いろいろな遊びや活動を経験する中で、イメージを豊かにする。</li> <li>・音楽に合わせて歌ったり踊ったりし、体を動かすことを楽しむ。</li> </ul>
	心身の健康	
	人との関わり	
	身近な環境との関わり	
	言葉の獲得	
	感性と表現	
<b>保育者の援助</b>	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びが充実し楽しめるよう、子どもたちの興味に合わせた玩具、用具、素材を十分に用意する。</li> <li>・友達との関わりが広がるよう、自分たちで遊びの場を作れるようにしたり、遊びに関わる人数によって場を広げたりする。</li> <li>・活動に必要な遊具や用具を準備、点検しておく。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で思い切り体を動かして遊べるよう保育者も遊びに加わり、楽しい雰囲気づくりをしたり、意欲を高めたりする。</li> <li>・トラブルを見守り、子ども同士で解決できない時は保育者が入ったり、代弁し必要な言葉を伝えたりする。</li> <li>・自分の思い通りにならない気持ちを受け止めながら、相手の思いにも気付くようにする。</li> <li>・自分の話や思ったことを聞いてもらう喜びを感じることができるよう、相槌を打ったり言葉を補ったりするとともに、相手の話を聞くことの大切さを伝えていく。</li> <li>・気温や活動に応じて衣服の調節が必要なことに気付くよう、言葉をかけ知らせていく。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事をしっかり摂ることや清潔にすることが、健康にとって大切であることを伝える。</li> <li>・箸の持ち方や使い方の見本を見せたり、絵や写真を貼ったりして、分かりやすく知らせる。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会に向けて取り組む様子を伝え、子どもの成長している姿を共に喜び合う。</li> <li>・園で自然物を取り入れて遊ぶ様子を伝え、親子で秋の自然に興味や関心をもてるようにする。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合う友達の中で思いを出し合いながら、遊びを持続させるようになる。</li> <li>・友達への関心が高まり、相手を理解しようとする気持ちが芽生え始める。</li> <li>・危険な場所や遊び方に気付き、安全な行動を意識できるようになってくる。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分なりの目的やイメージをもち、自分の力を発揮する。</li> <li>○友達と遊ぶ中で、自分の思いを表現したり、相手の言葉や動きを意識したりして遊ぶ。</li> <li>○場に応じた行動の仕方を知り、きまりを守ろうとする。</li> </ul>
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣類の調節、手洗いやうがいの大切さを知り、自分でする。</li> <li>・落ち着いた雰囲気の中で、食事のマナーを意識しながら楽しく食事をする。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで体を動かす遊びに参加する。</li> <li>・友達と一緒に遊ぶ中で、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と自分の思いや考えを伝え合い、共通の目的をもって遊びに取り組む。</li> <li>・身近な自然の変化に気付き、秋の自然物を使って遊ぶ。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年末の行事や生活に関心をもつ。</li> <li>・保育者や友達と会話を楽しみ、思ったこと、感じたこと、経験したこと等を話したり、聞いたりする。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や物語等に親しむ中で、その面白さが分かりイメージを広げる。</li> <li>・様々な素材を使って、作ったり飾ったりすることを楽しむ。</li> </ul>
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちのやりたい思いを汲み取り、実現できるように必要なものを準備する。</li> <li>・みんなの前や、いろいろな友達と話す機会をもてるようにする。</li> <li>・戸外遊びでは、体が温まるような遊びを取り入れる。</li> <li>・ルールの分かりやすい遊びを用意し、必要に応じてルールを確認し合う場を設ける。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の思いや考えに共感し、思いが伝わり合う嬉しさを感じたり、やり遂げた満足感を味わったりできるようにする。</li> <li>・子どもが自分の思いを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりできるように、一人一人の思いを受け止める。</li> <li>・自分たちの生活に必要な行動やきまりがあることに気付き、意識して行動できるよう、知らせたり一緒に考えたりする。</li> <li>・風邪の予防を進んで行う気持ちが育つよう、手洗いやうがいの大切さを知らせる。</li> <li>・秋の自然に興味をもったり、遊びの中に取り入れられたりできるような材料や場の設定をする。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養や健康の話、紙芝居等を通し、興味や「食べてみよう」という意欲をもてるようにする。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常における、子どもの取り組みや友達との関わりの中で成長した姿を伝え、保護者と共に喜び合い、保護者の子育ての自信につながるようにする。</li> </ul>	

<b>子どもの姿</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに目的意識をもち、自己発揮して遊べるようになる。</li> <li>・友達と思いを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになる。</li> <li>・自分なりに生活の見通しをもち、身の回りのことができるようになる。</li> </ul>
<b>ねらい</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分なりの目的や目標に向かって考えたり、試したりしながら遊ぶ。</li> <li>○自分の気持ちに折り合いをつけながら、クラスで活動することを楽しむ。</li> <li>○もうすぐ年長組になる期待をもち、自分のことは自分でやろうとする。</li> </ul>
<b>経験する内容</b>	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要な習慣が身に付き、自分から進んで身の回りのことをする。</li> <li>・寒さに負けず、思い切り体を動かして遊ぶ。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と共通の目的をもち、互いに動きや言葉を受け止め合って遊ぶ楽しさを知る。</li> <li>・友達と気持ちを受け止め合って遊ぶ。</li> <li>・いろいろなごっこ遊びの中で、必要なものを友達と一緒に考えたり工夫したりして作り、遊びに生かす。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の身近な自然(霜柱、氷、雪)に興味をもち、見たり触れたりする。</li> <li>・生活の中で、必要に応じて数を数えたり、量の多少を比べたりする。</li> <li>・遊びの中で絵本やカルタ等を楽しむ。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や友達の話に親しみをもって聞き、自分の思っていることを話す。</li> <li>・自分の成長を喜び、年長組になることに期待する気持ちをもつ。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花壇の様子や日差し、風の暖かさ等、小さな自然の変化に気づき、春の訪れを感じ取る。</li> <li>・年長組からいろいろな当番活動を引き継ぎ、年長組になることに期待をもちながら喜んで取り組む。</li> </ul>
<b>保育者の援助</b>	<b>【環境の構成】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その子なりの目的意識をもてるような活動をクラス全体で取り入れ、その中で友達の姿も意識していくことができるようにする。</li> <li>・遊びの中で自然な形で文字や数量に親しめるよう、場を設定したり教材を準備したりする。</li> <li>・保育者や友達の話落ち着いた聞きやすい雰囲気づくりをしていく。</li> </ul>
	<b>【保育者の関わり】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたり、試したりしている姿を大切に、それぞれの状況に応じて援助し、満足感をもてるようにする。</li> <li>・トラブルが起きたときは、保育者も子どもと一緒に考え、互いの思いを出し合えるようにする。</li> <li>・冬の身近な自然に触れながら、発見や疑問等に共感する。</li> <li>・年長児にしてもらったことや教えてもらったこと、一緒に遊んだこと等を話し合い、修了・卒園を祝う気持ちや感謝の気持ちをもてるようにする。</li> <li>・当番活動を年長児から教わりながら、自分たちの役割として喜んで取り組めるようにする。</li> </ul>
<b>食育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や姿勢等の食事に必要なマナーの大切さが分かり、自ら進んで取り組めるようになる。</li> <li>・クッキングや会食等、食を通して感動することを体験し、食べる楽しさや感謝の気持ちをもてるようにしていく。</li> </ul>	
<b>家庭との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の子どもの成長について保護者に伝え、保護者も子育てが楽しいと感じられるようにする。また、次年度も園に通うことを親子共々楽しみにできるようにする。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級した喜びや期待をもちながら、新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。</li> <li>・異年齢の子どもに対して優しさや思いやりをもち、手助けしようという気持ちをもつようになる。</li> <li>・気の合う友達や保育者と、好きな遊びを一緒に楽しむようになる。</li> <li>・新しい生活の仕方を知り、自分なりに考えて動くようになる。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。</li> <li>○自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者との関わりを楽しんだりしながら、クラスのつながりを感じる。</li> <li>○年長児としての生活の仕方が分かり、進んで行く。</li> </ul>
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で体を十分に動かして遊ぶ。</li> <li>・遊具や用具を安全に使って遊ぶ。</li> </ul> </li> <li>・人との関わり <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活でのきまりを確認し、進んで守る。</li> <li>・新しい保育者や友達に親しみをもつ。</li> <li>・異年齢の子どもに親しみをもって接する。</li> </ul> </li> <li>・身近な環境との関わり <ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合う友達と一緒に好きな遊びをする。</li> <li>・鬼ごっこやゲーム等を友達と一緒に楽しむ。</li> <li>・身近な動植物に親しみ、触れたり世話をしたりする。</li> <li>・身近な自然の変化に、興味や関心をもつ。</li> </ul> </li> <li>・言葉の獲得 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然物を遊びに取り入れる。</li> <li>・日常生活の中で目にするマークや表示の意味が分かり、文字や数に興味をもつ。</li> </ul> </li> <li>・感性と表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の話を聞こうとしたりする。</li> <li>・友達と一緒に歌を歌ったり、曲に合わせて踊ったりすることを楽しむ。</li> <li>・いろいろな材料を使って、自分のイメージに合わせて作ろうとする。</li> </ul> </li> </ul>
	環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと共に生活の場をつくり、必要な約束事を考えていくようにする。</li> <li>・遊具や生活に必要な物の置き場を、分かりやすく表示する。</li> <li>・自分のしたい遊びを、十分にできる時間と場所を保障する。</li> <li>・友達と一緒に活動する楽しさを感じられるよう、クラス全体で活動する時間や場を設ける。</li> <li>・園内外の安全衛生に十分配慮し、快適に過ごせるよう、生活の中で繰り返し確認する。</li> <li>・園庭や近隣の公園の自然に触れる機会をもち、植物等にも興味や関心を向けられるようにする。</li> </ul>
	保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【保育者の関わり】</li> <li>・進級した喜びに共感するとともに、緊張や戸惑いの気持ちも十分に受け止め、自信や安心感をもって過ごせるようにする。</li> <li>・個人差を考慮し、一人一人の様子を把握して個々の情緒の安定を図り、好きな遊びや生活に取り組めるようにする。</li> <li>・友達を意識できるような言葉をかけたり、保育者が仲立ちしたりして、友達との遊びが十分楽しめるようにする。</li> <li>・他クラスと連携を取りながら、異年齢の子どもとの関わりをもてるようにする。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や姿勢等、気持ちよく食事をするためのマナーに子どもが自分で気付いたり、正そうとしたりしている姿を認めながら、食事の楽しさを味わえるようにする。</li> <li>・子どもが自分で野菜を栽培する経験ができるよう、土や肥料、種、苗等を用意する。</li> <li>・植えた野菜に水やりをしたり、生長の様子を観察し、それを図鑑で調べたりできるような環境を整え、収穫を期待して大切に育てられるようにする。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のねらいや方針を懇談会やおたより等で家庭に伝え、理解を求め、園と家庭が同じ気持ちで子どもに関わることができるようになる。</li> <li>・子どもの様子を連絡帳や送迎時等に伝え合い、保護者との信頼関係を築けるようになる。</li> <li>・進級時には、喜びだけでなく戸惑いや不安もあることを伝え、共感したり、励ましたりして、子どもの気持ちを支え合っていけるようにする。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で、自分なりに試したり、工夫したりする等、やってみようとする気持ちをもって意欲的に取り組む姿が見られるようになる。</li> <li>・友達と積極的に関わりたいという気持ちが大きくなっていくが、上手に伝えられず、衝突することがある。</li> <li>・当番や係の仕事の内容が分かり、進んで取り組むようになる。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分なりの目的をもち、試したり考えたりしながら遊ぶ。</li> <li>○気の合う友達と、自分の考えを伝えながら遊ぶ。</li> <li>○役割をもつ喜びを味わい、その役割をやり遂げようとする。</li> </ul>
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで戸外の遊びに参加して十分に楽しむ。</li> <li>・自分で気付いて、汗を拭いたり衣服の調節をしたりする。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びがより楽しくなるように、考えたり工夫したりする。</li> <li>・自分の考えたことを言葉や動きで伝えたり、相手の思いに気付き、受け止めたりする。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りにいる友達と刺激を受け合いながら、好きな遊びをする。</li> <li>・自分たちなりにルールを作り、そのルールに沿って遊びを楽しむ。</li> <li>・身近な動植物の世話をすることで、その生長や生態に興味や関心をもつ。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水遊び、泥遊び、シャボン玉遊び等、季節ならではの遊びを楽しむ。</li> <li>・相手の話をよく聞き、内容を理解しようとする。</li> <li>・体験したり、感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に、曲に合わせていろいろな動きを楽しむ。</li> <li>・水遊びや泥遊びを通して、不思議に思ったり試したりすることを繰り返し楽しむ。</li> </ul>
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試したり工夫したりできる素材や場所、時間を十分に保障する。</li> <li>・グループで取り組む活動を取り入れ、少ない人数の中で、思いを伝え合う機会をもつ。</li> <li>・当番活動の内容や手順を絵や文字で分かりやすく伝え、楽しんで取り組めるようにする。</li> <li>・気候に合わせて室内の環境を整える。</li> <li>・水遊びや泥遊び等、夏ならではの遊びを十分楽しめるように、準備や環境設定を行う。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士の間人間関係を丁寧に読み取り、集団の中の一人一人を理解する。</li> <li>・自分なりの目的をもって頑張っている姿を励ましたり認めたりして、自信につながるようにする。</li> <li>・個々が伝えようとする思いをまずは保育者が十分受け止め、自分を受け止めてもらえる心地よさを感じられるようにする。</li> <li>・水を使う遊びを行う時には、子どもの状態を把握して衛生や安全に配慮する。</li> <li>・着替え、水分補給、休息等、夏期を快適に過ごす生活の仕方を知らせる。</li> <li>・当番活動は、例年の活動を参考にしながら子どもの実態や思いも取り入れ、無理や負担のない取り組みになるよう配慮する。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜を収穫するまでには様々な過程があるということを知り、収穫できる喜びを感じられるようにする。</li> <li>・食べ物への感謝の気持ちをもち、食事を残さず食べようとする気持ちを育てる。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園での出来事について丁寧に伝え、友達との関わりを通して、子どもが獲得している力について理解し合い、見守っていけるようにする。</li> <li>・夏の遊びを十分楽しめるように、体調の管理と持ち物の用意等の協力をお願いする。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす遊びに喜んで参加し、繰り返し遊ぶ姿が見られるようになる。</li> <li>・共通の課題に対して個々に目的をもち、意欲的に取り組むようになる。</li> <li>・クラスのつながりを感じ、友達を励ましたり、認めたりしながら遊びや生活を進めようとする。</li> <li>・誰かのために何かをしたいという気持ちが強くなり、園全体に関わる活動に意欲的になる。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の力を思いきり発揮することを楽しむ。</li> <li>○共通の目的に向かい、グループやクラス全体で取り組み、充実感や達成感を味わう。</li> <li>○皆のために役割をもつことに喜びを感じ、認められたことを自信につなげる。</li> </ul>
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に戸外で体を動かし、全身を使っていろいろな運動に繰り返し挑戦する。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いきり自分の力を出したり、競い合ったりすることを楽しむ。</li> <li>・友達と共通の目的に向かって、気持ちや力を合わせてやり遂げた達成感を味わう。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の子どもとの関わりの中で思いやりの気持ちをもつ。</li> <li>・季節の変化を感じ、身近な自然に興味をもって、見たり触れたりする。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の場でのルールや行動の仕方を理解し、皆で気持ちよく生活できるようにする。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事に関心をもち、自分たちで進めていこうとする気持ちをもつ。</li> <li>・自分の思いを伝えるだけでなく、相手の話も聞き、その思いを受け入れる。</li> <li>・園行事に向けての活動を通して、表現したり必要なものを製作したりする。</li> </ul>
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を十分動かして遊べるように、戸外遊びの機会を多く取り入れる。</li> <li>・いろいろな活動を、個々やグループ、クラス全体で取り組む機会をもち、子どもが自分のこととして受け止めていけるようにする。</li> <li>・行事等を通し、役割をもつ中で自己を発揮できるようにする。</li> <li>・自然に触れる機会を多くもち、季節を感じたり、遊びに取り入れたりする。</li> <li>・天候に対応した休息を取れるよう、工夫する。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のよさや力が発揮できるような場や機会を用意し、喜びや自信、友達から認められる嬉しさを感じられるようにする。</li> <li>・皆で取り組む面白さや嬉しさ、力を合わせる大切さ、役割を果たす喜びを味わえるよう、共感したり、個々の頑張りを認めたりする。</li> <li>・子ども同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、子どもが自分で乗り越えられるよう励ましたり、見守ったりして、子どもの気持ちを支える。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活の場面で、簡単な栄養素とその役割について話題にしながら、食と健康の関係に興味や関心をもてるようにする。</li> <li>・野菜の栽培や世話、収穫を通して、旬の食材があることを知らせる。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会に向けての子どもの取り組みの様子を伝え、頑張っている姿を認め、自信や次への意欲につながるような言葉をかけてもらう。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールのある遊びの中で、競い合う楽しさを感じるようになる。</li> <li>・ できるようになったことを喜び、いろいろな活動に自信をもって、意欲的に取り組むようになる。</li> <li>・ 友達との関わりの中で、思いがすれ違い、衝突が起こることもあるが、少しずつ、相手の言動を受け入れようとする。</li> <li>・ 仲間意識が深まり、友達と協力したり助け合ったりする姿が見られる。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。</li> <li>○ 皆でする活動を楽しみながら、友達とのつながりを深めたり、互いのよさに気付いたりする。</li> <li>○ 共通の目的に向かって、皆で力を合わせて取り組む。</li> </ul>
経験する内容	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊びのルールを確かめたり工夫したりしながら、友達と一緒に集団遊びを楽しむ。</li> <li>・ 病気の予防に関心を持ち、健康な生活の習慣を身に付ける。</li> </ul>
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人でできないことは、友達と力を出し合ったり助け合ったりする。</li> <li>・ よいことや悪いことに気付き、自分で考えて行動する。</li> <li>・ 友達と一緒に共通の目的に向かって、考えを出し合いながら活動を進める。</li> </ul>
	身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人との関わりを通して、様々な人とのつながりに気付く。</li> <li>・ 自然物を使い、工夫して遊ぶ。</li> </ul>
	言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活の中で、数量、図形、文字、時間に関心をもつ。</li> <li>・ 場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。</li> <li>・ 季節の変化に気付き、その不思議さや美しさを感じる。</li> </ul>
	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵本や物語、歌等を聞いて、言葉の面白さや響きに関心をもつ。</li> <li>・ 絵本や物語に親しみを持ち、イメージを豊かにし、表現する楽しさを味わう。</li> </ul>
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ できるようになったことを繰り返し楽しむ時間や場を保障する。</li> <li>・ 遊びや生活の中で、友達のよさに気付くような機会や雰囲気をつくる。</li> <li>・ 皆で力を合わせたという気持ちをもてるように活動の展開を工夫し、友達と協力してやり遂げた満足感、充実感を味わえるようにする。</li> <li>・ 季節の変化に応じて室内の温度調節、換気をする。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の力を精一杯出して諦めずに取り組む姿を受け止め、励ましたり、共感したりしながら、自信をもてるようにする。</li> <li>・ 一人一人の頑張りやよさを認め、クラス全体に知らせることで、喜び合う気持ちを育てる。</li> <li>・ 学級全体で活動の目的を理解しながら取り組めるように、提示の仕方や話し方等に配慮する。</li> <li>・ 子どもが「皆で力を合わせてできた」という実感をもてるよう、必要な時に活動を方向付けたり助言したりする。</li> <li>・ 保育者自らが季節の変化に関心を示しながら、子どもが気付けるようにする。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調理する経験ができるような機会を設け、自分たちの口に入るまでの過程を知り、食べる喜びや食べ物を粗末にはいけないという気持ちを感じられるようにする。</li> <li>・ 保護者や調理師等、自分たちのために日々調理している人への感謝の気持ちをもてるようにする。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面談や懇談会等で、個々が成長した点について伝え、子どもの成長を保護者と共に喜び合う。今後、育てていきたい点についても伝え、子どもの伸びようとする力を支え合っていけるようにする。</li> </ul>	

子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字や数を使って遊ぶことを楽しむ等、知的好奇心が高まってくる。</li> <li>・自分たちの遊びを十分楽しみ、主体的に生活する姿が見られる。</li> <li>・修了や卒園を意識したり、入学に期待したりしながら、自信をもって行動する姿が見られる。</li> <li>・小学校への入学を意識し、不安を見せる子どももいる。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>○思いや考えを様々な方法で豊かに表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。</li> <li>○友達と共に過ごす喜びを味わい、自分たちで見通しをもって遊びや生活をすすめていくことを楽しむ。</li> <li>○成長を喜び合い、入学への期待をもつ。</li> </ul>
経験する内容	生命の保持・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、皆で一緒に遊ぶ充実感を味わう。</li> <li>・健康で安全な生活に必要な態度を身に付け、自信をもって生活する。</li> <li>・自分が経験してきたことに自信をもち、当番の引継ぎをする。</li> <li>・友達のよさや頑張っていることに気付き、互いに認め合う。</li> <li>・小学校との交流の中で、親しみや憧れの気持ちをもつ。</li> <li>・冬の身近な自然（霜柱、氷、雪、風）に関心をもち、取り入れて遊んだり、春の訪れに気付いたりする。</li> <li>・生活に見通しをもち、場に応じた行動をとる。</li> <li>・互いの成長を喜び合い、自分たちで遊びや生活をつくり出す。</li> <li>・経験したことや感じたことを皆に分かるように伝える。</li> <li>・話をしている相手の思いを受け止めながら聞く。</li> <li>・文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分たちの遊びや生活に取り入れる。</li> <li>・修了や卒園に対する喜びや感謝の気持ちをもつ。</li> </ul>
	心身の健康	
	人との関わり	
	身近な環境との関わり	
	言葉の獲得	
感性と表現		
保育者の援助	【環境の構成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に、またクラス全体で、表現や創作を楽しめるような機会を設け、協同で活動する楽しさや充実感を味わえるようにする。</li> <li>・自分の目標に向かって繰り返し取り組めるような活動を提示する。</li> <li>・自分たちで遊びや生活をすすめられるように、時間を保障する。</li> <li>・見通しをもって行動できるよう、時間や生活の流れを分かりやすくするための表示や伝え方を、工夫する。</li> <li>・園生活を振り返る機会や環境を、子どもたちと一緒につくる。</li> <li>・文字や数量に触れられるような機会や活動をつくる。</li> <li>・小学校生活に期待をもてるように、小学生と一緒に遊んだり学校見学をしたりする機会をつくる。</li> </ul>
	【保育者の関わり】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試したり、発見したり、繰り返し挑戦したりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感を味わえるよう見守る。</li> <li>・集団生活の中で十分に自己を発揮している姿を認め、更なる自信につながるように関わる。</li> <li>・異年齢の子どもと一緒に活動したり遊んだりできるように保育者間で連携を図る。</li> <li>・生活習慣の自立について、一人一人の様子を確認し必要に応じて声をかけながら、自信をもって行うことができるようにする。</li> <li>・就学に向けての期待や不安を十分受け止め、個々が自信をもって入学を楽しみにできるようにする。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の中で、健康な食生活に必要な習慣や態度が身に付き、友達と楽しく食事をするができるようになった子どもたちの成長を認め、小学校の給食への期待につなげる。</li> <li>・日々行っている様々な活動が、健康な体作りにつながっていることに気付き、食と命との関わりを感じられるようにする。</li> </ul>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時期に見られる不安定な子どもの姿は、就学への不安から来るものであることを伝え、園と家庭とで様子を伝え合いながら、子どもの気持ちを支えていけるようにする。</li> <li>・保護者の不安を受け止め、子どもの成長を喜び合いながら、入学への期待につなげられるようにする。</li> </ul>	



## 第Ⅳ部 保育・教育の具体的な取り組み

第Ⅲ部 保育・教育課程

0歳児 Ⅲ期 P.21

ねらい「盛んに喃語を発し、声を出すことを楽しむ」につながる姿

0歳児  
4ヶ月  
人との  
関わり

### 見つめ合って「あのね・・・」 ～保育者との触れ合い～

#### 子どもの姿

【これまで】5月の入園当初は、睡眠が安定せずベビーベッドに寝かせてもすぐに目覚めてしまうことが多かった。産明け児ということで、担任保育者、看護師など職員間で連携を密にとり保育にあたってきた。

【今】睡眠、授乳、遊びなどのリズムが安定してきて、園生活にだいぶ慣れてきた。

寝返りができるようになり、腹這いで過ごせる時間が増えた。玩具を渡すと、舐めて確かめている。

#### <ねらい>

○安心できる環境のもと、一人一人の生活リズムで安定して過ごす。

○特定の保育者に優しく語りかけてもらったり、あやしてもらったりして、関わりを喜ぶ。

#### <エピソード>

登園してきて機嫌よくマットの上で過ごすAちゃん。仰向けで手足をさかんに動かしているうちに、スムーズに寝返りを打ち、腹這いの姿勢で周囲を眺めていた。

「Aちゃん、おはよう」と保育者が顔を近づけながら、優しく声を掛け、本児のそばに座り見守っていた。少しすると、腹這いのまま「あぁ～あぁ～・・・」と発声し始めたAちゃん。「Aちゃん、お話上手だね～」と保育者が穏やかに声を掛け、再び本児と顔を近づけ、向き合うような体勢になった。すると、Aちゃんは保育者の方にしっかりと顔を向け、視線を合わせた。「Aちゃん、楽しいね」と笑顔で語り掛ける保育者と視線を合わせ、「あっ、あっ・・・」と声を出し、ご機嫌なAちゃんだった。



#### <保育者の援助>

- ・子どもが心地よい姿勢をとりながら、寝返りや腹這いなど様々な姿勢が経験できるように、そばで見守り援助する。
- ・喃語を育めるように、子どもの状態を見守り、優しく声を掛けたり、発声に応答したりしていく。
- ・優しくあやされたり、目を見て語りかけられたりする心地よさを味わえるように、一対一の関わりを大切にする。

#### <環境の構成>

- ・寝返り、腹這いの姿勢などで全身運動が十分できるように、マットなどを敷いた安全で清潔な場を確保し環境を整える。
- ・遊具などは、子どもが舐めたり触ったりしても安全なように、子どもの発達に適した物を選び、用意する。

#### 「0歳児3つの視点」から大切にしたいポイント

健やかに伸び伸びと育つ…保育者の愛情豊かな関わりを通して、欲求を満たし心地よく生活する。  
身近な人と気持ちが通じ合う…表情や発声、喃語を優しく受け止めてもらい、保育者とのやりとりを楽しむ。

身近なものとの関わり感性が育つ…遊びの中で様々なものを見たり触れたりして、興味や好奇心をもつ。

#### 保育あるある知恵袋

Q：0歳児（主に生後6か月まで）での主活動は、どのような遊びを設定するのですか？ また、どのような経験を大切にしていけることが望ましいですか？

A：次第に睡眠、授乳、遊びと生活リズムが安定してくる時期です。一人一人の発達に合った活動（寝返り、腹這いなど）を十分に行えるようにしましょう。また、各感覚器官（目、耳、手、口など）が急速に発達する時期です。安心できる環境のもとで、聞いたり、見たり、触ったりできる玩具（プレイジム、柔らかい玩具など）で遊び、一対一の関わりを大切にしましょう。

0歳児  
8ヶ月  
運動

## 「楽しそう！やってみたい！」 ～すべり台の遊び～

第三部 保育・教育課程  
0歳児 IV期 P.22  
ねらい「姿勢を変えたり、  
移動したり体全体を動か  
して遊ぶことを楽しむ」  
につながる姿

### 子どもの姿

【これまで】腹這いになり、手のひらで上半身を支え、目を見たものに手を伸ばして握ったり、片方の手から持ち替えたりしていた。

【今】お座りからハイハイなど、姿勢を変えて遊ぶ姿が見られる。一人で座れるようになり、座った姿勢でも両手を使って遊べるようになっている。保育者の語りかけを喜び、自分でも声を出すことを楽しんでいる。

### <ねらい>

- 姿勢を変えたり、移動したりして体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 保育者と十分に関わり、欲求を受け止めてもらうことで、親しみをもち安定して過ごす。

### <エピソード>

保育室でA君が座って遊んでいると、少し離れた滑り台で保育者が他児と関わりながら「おおきなたいこ」を歌い始めた。A君はふっと顔を上げた。保育者は「ドーン」の歌詞に合わせて両手をたたいた。それを見たA君は嬉しそうに笑い、座った姿勢から両手をつきハイハイをして滑り台に向かって動き出した。滑り台に手をかけ、ひざ立ちし保育者を見て「あっ」と言うと、保育者は「おおきなたいこ」を歌いながらA君を見てにっこり笑った。A君はリズムをとるかのように嬉しそうに揺れた。その後、姿勢を変え滑り台の下からハイハイで上ろうとした。保育者が「いちに、いちに、よ」と自分の両手を交互に滑り台の斜面に置いて見せた。A君が両手をついたので、保育者は体を支え「いちに、いちに」と声をかけた。



### <保育者の援助>

- ・子どもがいろいろな体の動きを経験できるよう、保育者が一緒に動いたり、動きを擬音語で表したりして、繰り返し遊びの中で働きかける。
- ・子どもが欲求を受け止めてもらいながら安心して過ごせるよう、喃語や身振りで自分の思いを出した時には、十分に受け止め、表情豊かに言葉で返したり、微笑み返したりして応答的に関わるようにする。

### <環境の構成>

- ・子どもが這う、座るなどの動きを十分に経験できるよう、触りたくなる、動きたくなる遊具など、体の動きを促す環境を用意する。
- ・子どもが安全に動いて遊べるよう、周りにマットを敷いたり、一人一人の成長に合わせて、空間や運動遊具の位置などを変えたりしていく。

### 「0歳児3つの視点」から大切にしたいポイント

健やかに伸び伸びと育つ…寝返り、這う、お座りなど体の動きを広げる。

身近な人と気持ちが通じ合う…人見知りや後追いが始まり、要求があると声を出したり、イヤイヤバイバイなどの動作をしたりする。

身近なものに関わり感性が育つ…身の回りのものに興味をもち触ったり、口に入れたり、気に入ったことを繰り返したりする。

### 保育あるある知恵袋

Q：0歳児に対する声かけで大切なことは？

A：赤ちゃんの行為に対する声をかけます。例えば、転がるボールを追いかけると「ボールまてまてね」、ボールを手にとると「ボールとれたね」などです。また、赤ちゃんが驚いたり、発見したり、喜んだりした時に保育者を見ることがあります。その時に「○○ね」と共感的に答え、思いを十分に受け止め、意味づけをしていくことも大切です。

0歳児  
11ヶ月  
生活習慣

## 「まねっこ楽しいね！」 ～玩具を通じた保育者とのやりとり～

### 子どもの姿

【これまで】保育者との信頼関係を築きながら、思いを受け止めてもらい、安定して園生活を送れるようになった。気に入ったおもちゃを持ち、くり返し振ったり、たたいたりして遊ぶことを楽しんでいる。  
【今】保育者と簡単な動作や片言でやりとりをしたり、保育者の仕草を真似たりして楽しんでいる。保育者に手を添えてもらいコップを持って飲もうとしたり、離乳食を手づかみで食べたりしている。

### <ねらい>

- 保育者と一緒に、簡単な言葉や動きのやりとりができる遊びを楽しむ。
- 遊びの中で、保育者のしていることに興味をもち、模倣することを楽しむ。

### <エピソード>

ままごと用の食べ物おもちゃで遊ぶことが好きなAちゃん。おにぎりやコップを持って舐めてみたり、口に当ててみたりして、じっくり遊んでいた。

そばで様子を見守っていた保育者が、色々な食べ物をお皿にのせて、「Aちゃん、どうぞ」と本児のそばに置く。興味を示して、お皿を見つめ、食べ物へと手を伸ばすAちゃん。「おにぎりおいしいね」など、共感する言葉を掛けながら、視線を合わせやりとりしていった。

保育者の方を見つめ返し、次第に笑顔が増えていくAちゃん。「いただきます」と保育者が手を合わせると、Aちゃんもお辞儀をするような動きをして、やりとりを楽しんでいた。

離乳食の時間になると、保育者の挨拶と仕草を真似て、「いただきます」と嬉しそうに手を合わせるAちゃんだった。



### <保育者の援助>

- ・子どもが好きな遊びを十分楽しめるように、そばで見守りながら、必要に応じて思いを受け止めたり、優しく言葉を掛けたりしていき、一対一での関わりを大切にしていく。
- ・保育者とのやりとりを楽しめるように、一緒に遊ぶ中で、状況に合った言葉を添えながら、簡単な身振り手振りを分かりやすく行う。(どうぞ、ありがとう、いただきます など)

### <環境の構成>

- ・誤飲、誤食を避けるため、玩具の大きさや形状は適しているか確認し、危険な物は手の届く所に置かないようにする。
- ・自分から「触れてみたい」と感じるように、玩具類に変化をもたせ、工夫する。
- ・一人一人がじっくり楽しめるように、玩具は多めに用意する。

### 「0歳児3つの視点」から大切にしたいポイント

健やかに伸び伸びと育つ…ゆったりとした環境の中、一人一人の生活リズムで安心して過ごす。  
身近な人と気持ちが通じ合う…保育者との応答的な触れ合いや言葉掛けを通して、やりとりを楽しむ。

身近なものとの関わり感性が育つ…遊びの中で様々なものに触れ、手指を使って遊ぶことを楽しむ。

### 保育あるある知恵袋

Q：0歳児で起きる玩具の取り合いでは、どのように対応したらいいですか？

A：友達の行動に関心を示し、関わりをもととするようになります。例えば、友達のそばに行き顔を近づけてみたり、友達の持っている玩具に手を伸ばしてみたり、子どもなりに行動で表します。その中で、欲しい玩具が手に入らなかったり、自分の思い通りにならなかったりすると、物の取り合いになったり手が出てしまったりする場面もあります。一人一人をよく見守りながら、“〇〇したかったんだね”など気持ちを言葉にして代弁していくことが大切です。

0歳児  
10ヶ月  
環境との  
関わり

## ポトン、カチャン「もう一回」 ～チェーン入れ遊び～

### 子どもの姿

【これまで】保育者と愛着関係を築いていく中で、少しずつ周りの物へ目が向くようになり、興味・関心のある物を見つけ、触れてみようとしていた。

【今】腹這いやハイハイで好きな場所へ移動し、様々な玩具を手に取り、動かしたり、口に入れたり、音を出したりして楽しんでいる。

### <ねらい>

- 安心できる保育者のもと、身の回りの興味あるものに触れて遊ぶ。
- 保育者と関わり、思いを受け止めてもらいながら探索活動を楽しむ。

### <エピソード>

プラスチックチェーンが気に入り、口に入れて確かめていたA君。保育者が正面から「ポトン」と言いながらチェーンを容器の穴に入れて見せた。すると「カチャン」と音がした。その様子をじっと見ていたA君は、驚くような表情をした後、チェーンをつかみ、腕を持ち上げチェーンの先と穴をじっと見ながらそっと入れた。「カチャン」と音が鳴ると、A君は保育者の顔を見た。「カチャンで、落ちたね」と保育者が言うと、A君は嬉しそうな表情をしてもう一度チェーンを穴に入れた。その後、周りであったプラスチックの積木を入れようとしたが、穴より積木が大きく入らなかった。積木を床に置くと、周りを見て次にカラーボールを手を持ち、また穴に入れてみようとした。



### <保育者の援助>

- ・子どもが身近な環境に興味をもち触ったり、探索したりするよう、子どもの気付きや驚き、喜びを受け止め、意味づけする。
- ・遊具を打ち合わせたり、出し入れしたりする遊びの時は、子どもの思いにすぐに共感したり、さりげなく働きかけたりできるよう、正面に座って関わるようにする。

### <環境の構成>

- ・子どもが身近な環境に興味をもてるよう、音の大きさ、持ちやすい形、手触り、色合い、大きさや重さなど、子どもの感覚や動きに応じたものを用意する。
- ・子どもが安全に探索活動を楽しめるよう、口に入れても安全で衛生的なものにする。
- ・子どもの探索意欲を満たすために、一人一人の発達や興味に応じた玩具や空間を準備する。

### 「0歳児3つの視点」から大切にしたいポイント

健やかに伸び伸びと育つ…手、指、足腰を使いながら十分に探索活動をする。

身近な人と気持ちが通じ合う…保育者の対応的な触れ合いや言葉がけを喜び、親しみをもつ。

身近なものに関わり感性が育つ…身の回りのものに興味をもち、容器に物を入れる、かぶせる、のせる、合わせるなどをする。

### 保育あるある知恵袋

Q：0歳児が興味をもち触りたくなる遊具や、体の動きを促すものとはどのようなものですか。

A：触りたくなる遊具：布などの手触りの柔らかいもの(ミルク缶の布引き、マジックテープのつけはずし、スポンジ素材の型はめ)、音がするもの(プラスチック容器のチェーン出し入れ、小さいペットボトルにビーズを入れたもの)、ゆっくりとした動きのもの(ボール、起き上がり人形)など  
体の動きを促すもの：巧技台の蓋にマットをかぶせ緩やかな山をつくる、ウレタン積木で段差をつくるなど

1歳児  
6月  
運動

## 「楽しい！もう1回！」 ～マット遊び～

### 子どもの姿

【これまで】つかまり立ち、伝い歩きを経て、1人歩きができるようになり、歩き回ることを楽しんでいった。

【今】1人歩きが安定してきて、よじ登る、またぐ、くぐる等、様々な動きを楽しむようになってきている。

### <ねらい>

- 保育者に見守られながら、マット遊びを楽しむ。
- 伸び伸びと全身を動かすことを楽しむ。

### <エピソード>

子ども達が保育室での遊びを楽しむ中、保育者が丸めたマットの上にもう1枚のマットをかぶせ、山を作った。その様子に興味をもち、数名の子ども達が近付いてきた。「お山ができたね、登ってみる？」と誘いかけると、A君がマットに手をつけて慎重に登り始めた。まずは両手とおなかをつき、片足を上げて、腹ばいになった。続けて、もう片方の足もまたぐと山を越えることができ、嬉しそうな表情を見せた。「できたね、楽しかったね、もう1回やる？」と聞くと、A君は山のスタート地点に戻っていった。

その後、何度も山登りをして楽しむ中で、全身を使ってよじ登ったり、山の頂上で腹ばいの状態から体を起こしたりと、様々な動きを楽しむ姿が見られた。



### <保育者の援助>

- ・バランスを崩した時にすぐに支えられるよう、登っている子どものそばにつき、安全面に配慮する。
- ・子どもの「もっとやりたい」という意欲を受け止めながら、安心して遊べるよう、温かい雰囲気を作る。
- ・「楽しい」という思いを保育者が代弁しながら、子どもの楽しい気持ちに共感する。
- ・一人一人の発達に合わせ、見守ったり、必要に応じて援助したりする。

### <環境の構成>

- ・子どもが様々な動きをすることを予測し、周りにマットを敷く、物が無い広い空間に場を作るなど、安全に配慮して場を設定する。
- ・保育者同士で連携し、立ち位置や役割分担の確認をする。
- ・子どもの興味を引き、「やってみたい」という気持ちをもてるよう、子どもの目の前で場を設定する。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**健康な心と体**…心と体を十分に動かしながら、満足感をもつことで、いろいろな場面に応じて体を動かすことに期待をもつ。

**自立心**…経験のないことに興味をもち、やってみようとする。

**思考力の芽生え**…自分なりに様々な動きを試しながら、繰り返し楽しむ。

### 保育あるある知恵袋

**Q:** 運動的な遊びにあまり興味を示さず、やってみようとするのがあまりありません。どのような関わりをすれば、体を動かすことが楽しいと感じられるようになるでしょうか？

**A:** 子どもが自ら体を動かそうとするためには、まずは心を動かすことが大切です。保育者が投げたボールを追いかけてみたり、段差を乗り越えてみたりと、遊びの中で様々な動きが楽しめる活動を投げかけ、その子が「楽しそう」「やってみようかな」と感じられる活動を探っていきましょう。

1歳児  
7月  
人との  
関わり

## 「Bちゃんと一緒！ぼくも入れたよ」 ～カラートンネルでの遊び～

第Ⅲ部保育・教育課程  
1歳児 Ⅱ期 P.25  
ねらい「保育者や友達の  
真似をして遊ぶ」に  
つながる姿

### 子どもの姿

【これまで】保育室以外の場（園庭・ホール）にも少しずつ慣れ、安心して遊べるようになった。友達の存在が気になりだしているが、保育者と一対一で関わったり、一緒に好きな遊びを楽しんだりする姿が多かった。

【今】いろいろな場や遊具に興味をもって探索活動を楽しんだり、触ったり試したりして遊ぶようになってきた。周囲の友達への興味・関心が高まり、友達がやっていることを真似して遊んだり、友達と関わりをもとうとしたりしている。

### <ねらい>

- 安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。
- 保育者や気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

### <エピソード>

A君は、友達がカラートンネルに入っていく様子をじーっと見ていた。保育者が「A君もおいで」とトンネルの反対側から手招きして誘いかけるが動かない。そこで、保育者がトンネルをのぞいて手を振ったり、「ばあ」と顔を見せたりすると笑顔を見せた。すると、Bちゃんが保育者の真似をしてトンネルの中をのぞき、A君に「ばあ」と笑いかけた。A君は「キャッキヤ」と笑い「ばあ」とBちゃんに笑顔で応えた。しばらく2人は「ばあ」と言いながら笑い合うことを繰り返して楽しんでいた。保育者は「A君とBちゃん、一緒に楽しいね」と声をかけ、2人の様子を見守っていた。

その後、Bちゃんがトンネルの入り口側に戻り、再びトンネルの中にはいはいで入っていくと、A君も後に続きはいはいで入っていった。



### <保育者の援助>

- ・子どもが楽しめるように動きや表情を見ながら声をかけ、一緒に遊び楽しさを共有する。
- ・自分からしてみようとする気持ちが膨らむように声をかけ、遊び出せるようなきっかけ作りをする。
- ・友達と遊ぶ楽しさが感じられるように、言葉にならない思いを汲み取り代弁したり、他児の姿を知らせたりして関係を繋げる。

### <環境の構成>

- ・動きが活発になり行動範囲が広がってきていることに配慮し、ホール遊びの役割分担をしたり、危険が予測される場には保育者がいたりするなど、立ち位置を工夫する。
- ・子どもの興味や発達に合った動きが引き出せるように遊具を設定する。
- ・一人一人が好きな遊びを見つけて楽しめるよう、遊びの場をいくつかに分けて設定する。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**協同性**…友達と同じ場で遊ぶ中で、友達と一緒にやりたいという気持ちが芽生えたり高まったりする。

**言葉による伝え合い**…しぐさや表情、簡単な言葉などで自分の思いを表現する。また思いや欲求を受け止められ返してもらい喜びや安心感、やり取りの心地よさなどを感じる。

**自立心**…興味のある遊びを楽しみながらやりたい欲求を満たしたり、できた喜びを感じたりする。

### 保育あるある知恵袋

**Q**：友達が使っている玩具を黙って持って行ったり、力づくで取ったりしてトラブルになります。対応は？

**A**：この時期の発達には、自分と他者の気持ちを区別しにくい時期です。大人が「これで遊びたかったのね」

などと気持ちを受け止めながら仲立ちし、その都度友達の気持ちにも気付かせていきましょう。その後「欲しいときは『かして』と言おうね」と伝えたり、友達を押さないことや順番を知らせたりしていきます。子どもは友達との関わりをたくさん経験することで、いろいろな感情を味わいながら、少しずつ人との関わり方を学んでいきます。温かく見守りながら繰り返し伝えていましょう。

## 「出来た！」 ～ズボン履き～

### 子どもの姿

【これまで】保育者との信頼関係を築いていく中で、様々なことに興味をもち始め、“やってみたい”“自分でやりたい”という気持ちをもつようになってきている。

【今】保育者にやり方を教えてもらったり、自分より月齢が高い友達が自分で着替えをしている様子を見て模倣しようとしたりしながら、少しずつ自分でできることを増やしている。

### <ねらい>

○簡単な身の回りのことに興味をもち、保育者の手助けを受けながら、自分でしようとする。

○保育者の言葉かけを聞いて、ズボンを自分で履こうとする。

### <エピソード>

園庭遊び後、保育者がA君に「お着替えしよう、ズボンを脱いでごらん」と言うと、A君は自分でズボンを脱ぎ、保育者がオムツ替えを行った。その後、「ズボンを履こう」と言い、台に座るように促した。ズボンをA君に手渡し、「足を入れて」と言うと、ズボンに片足を入れ始めた。A君はズボンを引っ張るが、うまく足が出せず、怒り始めた。「一緒にやってみようね」と、保育者がズボンの裾を一緒に引っ張ると、足先が出た。「出来たね!」と一緒に喜び、「こっちもやってみよう!」と促すと、同じようにズボンに足を入れ、履き始めた。足先が出せたため、「やったね!」と一緒に喜び、立つように促しながら、「上に引っ張るよ、ぎゅっぎゅっぎゅ」と声をかけると、両手でズボンを上げた。お尻のところまで引っ掛かったが、保育者がさりげなく手伝い、履くことができる。満面の笑みを浮かべた。



### <保育者の援助>

- ・履きやすいよう、ズボンの向きを合わせて手渡す。
- ・自分でしようという意欲が見られた時には褒めて、その後は見守るようにし、できた時にはたくさん褒め、次への意欲につながる。
- ・一人一人の姿に合わせて、「ぎゅっぎゅっぎゅ」など、擬音を用いながら具体的なやり方を知らせる。
- ・子どもが“自分でできた!”という気持ちももてるよう、さりげなく手伝う。

### <環境の構成>

- ・トイレ及びおむつ替えの場所の近くに、ズボンを履きやすい高さの台（座る場所）を用意する。
- ・すぐに取り出せるよう、必要な衣服を整理し、かごなどに揃えて入れておく。
- ・着脱がしやすいズボンを用意してもらうよう、保護者にお願いします。
- ・一人一人のペースで取り組めるよう、時間と場所を確保する。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**健康な心と体**…保育者や友達と一緒に生活をしていく中で、必要なことのやり方を見たり、教えてもらったりしながら、身に付け、意欲的にやってみようとする。

**自立心**…保育者に見守られながら、自分のことを自分でしようとする。

**思考力の芽生え**…どのようにすればうまくできるか、自分でやってみながら、やり方を身につける。

### 保育あるある知恵袋

**Q:**身の回りのことがまだうまくできないのに、「自分でやる!」と言い、手助けすると癩癩を起こします。どのように対応したらよいのでしょうか?

**A:**この時期の発達には自分でやりたい気持ちが芽生えることを理解し、子どもの気持ちを理解しましょう。うまくできないときには、見本を見せたり、さりげなく手を添えて手伝ったりして子どもの「自分でやりたい!」という気持ちを尊重しながら見守ります。また、着替えの際には子どもが自分で取り組みやすいように、着脱しやすい衣服やそのときに使用する椅子など用意し、環境を整えることも大切です。

1歳児  
2月  
環境との  
関わり

## 「みんなでおばけをやっつけろ！」 ～光を見ての見立て遊び～

### 子どもの姿

【これまで】おばけが登場する絵本や紙芝居、歌や手遊びを朝の集まり時などにクラスの皆で楽しむことを喜んでいました。

【今】おばけが好きな子どもが増え、園庭でおばけになりきって追いかっこをしたり、月齢の高い子ども達はおばけの絵を描く・粘土でおばけを造るなどして遊んだりするようになった。

### <ねらい>

○保育者や友達と、見立てやつもり遊びを楽しむ。

### <エピソード>

冬の日の午後、保育室に光が差し込み、ゆらゆら揺れながら光っていた。B君が「見てー。おばけがいる！」と光を見上げて叫んだ。保育者は「わあ、おばけが来たね。」と驚き、「キラキラ光って動いているよ。」と光を指さした。子ども達が「きゃー、おばけだあ」と騒ぎだし、はしゃいで跳ねたり、保育者の背中に隠れたりした。A君が「おばけ、怖い。」と泣きそうになるとCちゃんが「大丈夫！」と胸をたたき「Cがやっつける！」と剣を取りに行った。保育者が「Cちゃんがやっつけてくれるんだって。もう怖くないね」と言うとA君はほっとした表情になった。

他児もすぐに剣を欲しがったので、保育者が素早く剣を手渡した。剣を手にした子ども達は光にむかって

「えいっ」  
「とりゃー」と戦いを挑んで楽しんでいました。



### <保育者の援助>

- ・保育者や友達と楽しさを共有できるように、子どもの発見や驚きまた表現を受け止め、好奇心や興味を引き出したり、子どもの言葉に丁寧に応じたりする。
- ・子ども同士の関わりに繋げていけるように、子どもがイメージしやすいような言葉がけをしたり、一緒に遊ぶ中で友達の動きを知らせたりする。
- ・安全に楽しめるように、子ども同士でぶつかることのないよう十分気を付けて見守る。

### <環境の構成>

- ・自由に動ける空間を確保できるように、床上に置いてある玩具を片付けたり、棚や柱の角にガードをつけたりして安全な環境を整える
- ・見立てやつもり遊びが楽しめるように、また興味をもった遊びをすぐに楽しめるように十分な数の玩具（井形ブロックの剣）を用意する。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**自然との関わり**…身近な自然事象の美しさや不思議さに触れて関心をもち、遊びに取り入れる。  
**豊かな感性と表現**…心を動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを楽しむ。

**思考力の芽生え**…身近な事象に好奇心をもって関わる中で、不思議さや面白さを感じたり、経験からイメージしたことを生かしたりして、見立てやつもり遊びを楽しむ。

### 保育あるある知恵袋

**Q**：少食や偏食で、好きなものを食べ終わると立ち上がったたり遊び始めたりして落ち着きません。対応は？

**A**：この時期の子どもには、楽しく食べることを大切に援助していきましょう。まずはテレビを消す、テーブル上の玩具を片付けるなど、食事に集中できる環境を整えます。また大人が子どものそばで落ち着いて介助できるように、台拭きやおかわり分を入れた皿などをあらかじめ用意しておくとういでしょう。量を調整し「食べられた」という喜びを経験できるようにしたり、食材に興味をもてるような言葉がけをしたりして楽しく食べられるような工夫をします。遊びだす前に声をかけ食事を終わりにしましょう。

2歳児  
6月  
環境との  
関わり

## 「雨いっぱい！」 ～制作活動～

### 子どもの姿

【これまで】粘土やひも通しなど机上遊びに興味を示し挑戦するも、手指を上手く使えないことで、思い通りにできず、すぐに飽きてしまう姿があった。制作活動では、クレヨンでなぐり描きをしたり、シールを貼ったりすることを楽しんでいた。

【今】手指を使った遊びを繰り返し行う中で、少しずつ手指を思うように動かせるようになり、集中して楽しめる子どもが増えている。絵の具やのりなどに興味をもち、意欲的に制作に取り組む子がいる反面、感触が苦手だったり、手が汚れることを嫌がったりする子も見られる。

### <ねらい>

- のりに興味をもち、手指を使った制作を楽しむ。
- 雨をイメージして、自分なりに表現してみようとする。

### <エピソード>

「青いのりで雨を描くよ」と手本を見せながら製作の説明をすると、手が汚れるのが苦手なAちゃんも興味をもった様子で見つめていた。「Aちゃん、やってみる？」と誘うと、「うん」とすんなり椅子に座った。「1本指でちょんって触ってごらん」と伝えると、少しためらったので、「大丈夫だよ」と励ますと、勇気を出し、のりに触れることができた。指に付いたのりを不思議そうに見つめてから、紙に伸ばしていくAちゃん。隣で仲良しのBちゃんが「大雨になったよ」とたくさん描いている姿を見て、「Aちゃんも大雨にする！」と手が汚れることを気にすることなく、のりを指にどんどん付けて雨を描いていった。

「Aちゃんも大雨、上手に出来たね」と声をかけると、「雨いっぱい！」と喜んでいた。



### <保育者の援助>

- ・雨をイメージできるよう、雨に関連する絵本を読んだり、歌を歌ったりする。
- ・のりを使った雨の制作に興味をもてるよう、のりに絵の具を混ぜ、色が変化する様子を知らせたり、実際にやって見せたりする。
- ・表現する楽しさや満足感が味わえるよう、やってみようとする姿を大切に、イメージが広がるような声かけをしたり、できたことを一緒に喜んだりする。

### <環境の構成>

- ・イメージを広げたり、できあがりに期待をもったりできるよう、見本を用意する。
- ・のりで汚れた手をすぐに拭けるよう、濡らしたタオルを用意する。
- ・一人一人に目が行き届き、安心して取り組めるように少人数で行う。
- ・のりに触れることを嫌がる子に対し、無理強いくることなく製作ができるよう、綿棒など指の代わりとなるものを用意しておく。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**豊かな感性と表現**…生活や遊びを通して、気付いたり、感じたりしたことなどを自分なりに表現することを楽しむことで、イメージや感性が豊かになる。

**協同性**…友達と一緒に活動し、イメージを共有することで、表現の幅が広がる。また、様々なことをやってみようとする気持ちももてるようになる。

**自立心**…様々な活動に意欲的に取り組み、満足感や達成感を味わうことで、自信をもって行動できるようになる。

### 保育あるある知恵袋

**Q**：イヤイヤ期で気持ちが切り替わらず、ずっと遊び続けたり、癇癩を起したりし、次の行動になかなか移れません。どのように対応すれば良いですか？

**A**：まずは、子どもの思いに耳を傾け、受け止めてあげましょう。その上で、先の見通しを知らせたり、選択肢や代替案を提示したりしてみてください。他にも、興味が他のものに向くようにしたり、時には落ち着くまで見守り、気持ち整理する時間をつくってあげたりするのも良いと思います。その子の様子に合わせて効果的な方法を模索し、大人も深呼吸をしながら、おおらかな気持ちで接していきましょう。

2歳児  
7月  
生活習慣

## 「ナスおいしい！」 ～食事～

### 子どもの姿

【これまで】ままごと遊びでは、野菜や果物などの名前を保育者に教えたり、知っている食べ物をイメージしながら作ったものをご馳走したりする姿が見られた。食事の場面では、好き嫌いが見られ、特に野菜が苦手な子どもが多かった。

【今】クラスで育てているオクラや他クラスの栽培物（ナス、ピーマン、スイカなど）に興味を示し、園庭遊びの際には、水やりをしたり、手で触れてみたりと、生長を楽しみにしている。苦手な野菜も食べてみようとする姿が見られるようになってきた。

### <ねらい>

- 食材に興味をもち、食べることを楽しむ。
- 楽しい雰囲気の中で、意欲的に食べようとする。

### <エピソード>

野菜を食べるのが苦手なA君だが、園庭に出ると、「ナスの赤ちゃんいたよ」などと栽培物の成長に興味津々で観察を楽しんでいた。

ある日の給食で、味噌汁にナスが入っていることを知らせると、味噌汁を眺めるA君。すると、「ナスあった！お外にもあったよね」と観察したナスのことも一緒に思い出していた。隣に座っていたBちゃんがナスを食べていたので、「Bちゃん、ナスおいしいね。大きなお口でステキだね」と声をかけると、その様子を見ていたA君が、「Aも食べるよ」と大きな口で1つ食べる姿を見せてくれた。「なすさん、A君が食べてくれて嬉しいって」と声をかけると、

「ナスおいしい！」と笑顔になり、さらにもう1つ食べることができた。



### <保育者の援助>

- ・食材に興味をもち、食べてみようとする気持ちが芽生えるよう、その日の献立を紹介するとともに、入っている野菜などの食材についても知らせる。
- ・味や食感、色や形などが食材とつながるような声かけをする。
- ・みんなで食べると“楽しい”“おいしい”ということが味わえるよう、友達と一緒にのテーブルで食事をし、おいしく食べられるような声かけをする。

### <環境の構成>

- ・食材に興味をもてるよう、遊びの中で栽培物を一緒に観察しながら、色や形、感触などに触れる機会を設けたり、食べ物の絵本を用意したりする。
- ・意欲的に食べられるよう、一人一人の様子に合わせて量の加減をする。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**健康な心と体**…食事をする中で、友達と食べる喜びや楽しさを味わい、食べ物への興味や関心をもつことで、進んで食べようとする気持ちが育つ。

**数量や図形などへの関心・感覚**…野菜の栽培や収穫などを通して、形や色、大きさ、量の違いなどに気付き、それらに親しむことで、感覚が豊かになる。

**思考力の芽生え**…身近な自然に興味をもち、発見したり、考えたりすることを楽しむようになる。

### 保育あるある知恵袋

**Q:** 自分でできることも「やって」と大人にやってもらうのを待っている児には、どのように対応すれば良いですか？

**A:** 2歳児はいろいろなことができるようになり誇らしさを感じる一方で、まだまだ大人に甘えたい気持ちも大きい時期です。揺れ動く子どもの気持ちを汲み、励ましたり、甘えを受け入れたりと、その時の子どもの様子に合わせた援助をしていくことが大切です。

2歳児  
10月  
運動

## 「またやる！」 ～巧技台遊び～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
2歳児 Ⅲ期 P.30  
ねらい「全身を使った活  
動的な遊びを楽しむ」に  
つながる姿

### 子どもの姿

【これまで】6月中旬頃から、マットを使った遊びを取り入れてきた。A男は、マットに関心があるが、ブロックやままごとで遊びながら、時折マットの方に視線を向け、マットで遊んでいる友達の姿を見ている姿がある。

【今】9月から、マットの横に巧技台の蓋を置いてジャンプする遊びが始まった。A男は巧技台に興味をもち、そばまで近付いて友達の姿を見たり、時折笑顔で見つめる様子が見られるようになってきている。

### <ねらい>

- 全身を使って繰り返し遊ぶ楽しさを感じる。
- 保育者や友達と同じ場で、巧技台で遊ぶ。

### <エピソード>

普段から活発なB君、Cちゃんは、自分から巧技台に上りジャンプをしていたが、A君はマットの横から友達の様子を伺っていた。「A君、先生と一緒にやってみようか」と声をかけると、少しうつむきながら頷いた。A君は巧技台の上に上れたものの保育者が手を添えても足が進まなかったため、A君を抱き上げてマットの上を下ろした。A君がほほ笑んだので保育者が「もう一回やる？」と尋ねると「うん」とつぶやいた。再び巧技台に上ったA君の表情が不安そうだったので、保育者が手を差し出すとA君は手を握り、自分からジャンプした。保育者が「Aくん、自分でできたね！」と声をかけると、一人で巧技台に上りジャンプした。A君は「できた！」と保育者の顔を見て笑顔になり「またやる！」と言い、再び巧技台に向かった。



### <保育者の援助>

- ・遊びを楽しめるよう、表情や動きを見て、幼児一人一人に合わせた援助を行う。
- ・子どもが「またやりたい」と感じられるよう、挑戦しようとした意欲を認めたり、できた喜びを共感したりする。
- ・飛び降りる際は、着地点に子どもがいないことを確認してから次の幼児が遊ぶよう、声をかけながら進める。

### <環境の構成>

- ・前段階として、マットに触れたり寝転がったりする経験、巧技台の蓋のみを使って登ったり飛び降りたりする経験などを積み重ねる。
- ・遊具に親しんだり遊び方を知ったりした上で、巧技台遊びを始める。
- ・巧技台の高さは、子どもの発達をふまえた上で、低いものから設置し、徐々に高くする。
- ・巧技台で遊ぶ際は、周囲に危険物がない広い場所に場を設定する。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**健康な心と体**…巧技台など、段差のある遊びを経験することで、脚力や腹筋、背筋が刺激される。また、全身を使う遊びの経験を積み重ねることで、バランス感覚が養われたり、運動機能の成長につながったりする。

**道徳性・規範意識の芽生え**…遊ぶために並ぶ、順番を待つ、周囲の危険を確認するなどの経験を重ねることで、集団生活において必要なルール等を学ぶ。

**豊かな感性と表現**…保育者や友達が遊ぶ姿を見て巧技台への上り方や跳び方を真似したり、自分なりに声や体で自分の思いを出したりすることで、様々な表現方法を知ったり自分なりに取り入れたりする。

### 保育あるある知恵袋

**Q**：順番を待つことが難しかったり、並んでいる友達を抜かしたりする姿が見られます。どのようにしたら、順番に並ぶことができるようになりますか？

**A**：子ども達は、集団生活に入って初めて「並ぶ」という経験をします。並ぶことが難しい・友達を抜かすことは、「早くやりたい」という気持ちの表れでもあります。「早く遊びたいね」と子どもの気持ちを受け止めつつ、「〇〇ちゃんの次にできるよ。楽しみだね。」と、子どもの順番を知らせたり楽しみに思える言葉がけをしたりします。

2歳児  
2月  
人との  
関わり

## 砂のごはんを「どうぞ」 ～砂遊び～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
2歳児 IV期 P.31  
ねらい「興味のあることや  
経験したことを思い浮か  
べながら、自分なりに表現  
したり、見立て遊びやつも  
り遊びをしたりすること  
を楽しむ」につながる姿

### 子どもの姿

【これまで】Aちゃんは、そばにいる保育者に向けて、遊びで作ったものを「どうぞ」と渡したり、保育者から受け取ったりすることを繰り返していた。同じ場に友達がいる時もあるが、友達とのやりとりはせず自分のしたいことで遊ぶ姿が見られる。

【今】保育者が同じ場にいることで、遊びが持続する姿が見られるようになってきている。また、保育者や友達がしている姿を見て関心をもったり、やってみようとしたりする姿も見られる。

### <ねらい>

- 友達や保育者がしていることに気付き、興味をもったり、やってみようとしたりする。
- 遊びの中で、同じ場にいる友達や保育者と、簡単な言葉のやりとりをする。

### <エピソード>

砂場で、保育者と子どもが砂のごちそうを作っていた。Aちゃんは、保育者のそばへ歩いてきて「どうぞ」と砂をよそった皿を差し出した。保育者は「ありがとう」と答え、ごちそうを食べた後に「ああ、おいしかった。ごちそうさまでした。」と皿を返した。Aちゃんは笑顔になり、再び皿に砂を盛ると保育者に「どうぞ」と皿を渡した。その様子をじっと見ていたBちゃんに、保育者が「食べた？」と声をかけると頷いた。保育者がAちゃんに「Bちゃんも食べたいんだって」と声をかけると、「うん」と言い、違う皿に砂を盛り、Bちゃんに「どうぞ」と差し出した。Bちゃんは、「ありがとう」と言って、皿に盛られたごちそうを食べ始めた。



### <保育者の援助>

- ・遊びが楽しくなるよう、子どものつぶやきや動きから思いやしたいことを捉え、共感する言葉がけや、玩具の提示をする。
- ・「どうぞ」「ありがとう」等の簡単な言葉のやりとりで繋がるよう、保育者が見本を示したり、子どもに促したりしていく。
- ・イメージを伴った言葉が獲得されていくよう遊びの中で経験を積み重ねていく。
- ・遊びの中で同じ場にいる友達との関わりがもてるよう、やりとりをつなぐ役割をする。

### <環境の構成>

- ・友達との関わりをもてるよう、遊びの拠点となる場（テーブル、椅子、ビールケース等）を幼児の目につきやすい場所に設定する。
- ・一人一人が遊びに満足できるよう、子どもが興味をもち、関わってみたいと思えるような材料や遊具を多めに用意する。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**自然とのかかわり**…砂に触れながら、砂の感触や冷たさ、形作れる楽しさや崩れる面白さを感じる。また、草花や枝等、園庭にある素材を取り入れながら、自然と関わって遊ぶ楽しさを感じる。

**言葉による伝え合い**…見立て・つもり遊びをする中で、保育者や同じ場にいる友達と自分との思いのやり取りが生まれ、その場に合わせた言葉を獲得する。保育者の言葉や反応を通して、言葉を使う楽しさや喜びを感じられるようになる。

**社会生活との関わり**…同じ場にいる友達と遊ぶ姿が少しずつ見られるようになってくるが、平行遊びである。

### 保育あるある知恵袋

Q：なぜ、幼児は同じやりとりを何度も繰り返すの？

A：2～3歳になると、子どもは言葉を獲得し、自分のしたいこと、して欲しいことを言葉で表現するようになってきます。言葉を発することで相手が反応してくれることに喜びを感じ、何度も同じことを繰り返すことを楽しみます。子どもが自発的に関わってきた姿をその都度受け止め、言葉や動きで応え、人との関わりの楽しさや喜びを感じられるようにします。

### 子どもの姿

【これまで】昼食の準備の仕方は、日々繰り返し積み重ねたことで、自分でできることをしようとしていたり、保育者に手伝ってもらいながらしたりして、少しずつ身につけてきた。クラスのほとんどの子どもは昼食時間を楽しみに喜んで食事をしているが、食が進まずに不安になる子どももいる。

【今】食事時には個人差があるが、「みんなで食べるとおいしいね」と、子ども同士で話しながら落ち着いて食事している。

### <ねらい>

- 友達や保育者と一緒に食事をする喜びや楽しさを味わう。
- 自分なりに好きな物を食べられた満足感をもち、安心する。

### <エピソード>

A児は昼食時間近くになると泣いて不安になった。担任や3歳児補助教諭が抱いて安定を図っても激しく泣き続けて止まらない時は、職員室へ場を変え、園長や主任が関わり落ち着くようにした。

保育室で友達と一緒に食べられるように、担任と補助教諭が交代で付き添い、昼食介助をしていった。食べる一口が微量で、お茶を飲むことも時間がかかり、咀嚼や飲み込む力が微弱な様子が見られた。家庭でも食事に1時間弱かかるとのことだったので、園で30分程度で食べ終わる量や内容にしてもらうよう相談した。保護者の協力で調整してもらったが、30分以内で食べ終わることは難しかった。A児は残したくない思いもあったが、A児なりに頑張っている姿を認め、少しでも食べられてよかったことを伝えたところ、1ヶ月ほどかけて安定し、学級でお弁当を食べられるようになった。

### <保育者の援助>

- ・安心して昼食時間が過ごせるように、子どもに寄り添い、必要に応じて膝に乗せたり、食材を食具でさらに小さくして口に運んだりして、保護者代わりとなって補助する。
- ・保護者と相談し、小さい容器に本児の好きな物を入れてもらう。
- ・降園時にその日の昼食時や遊びの様子を話し、情報共有をして、今後の方策を共に考える。

### <環境の構成>

- ・落ち着いて食事ができるように、オルゴール曲をかけて静かな雰囲気を作る。
- ・気持ちが落ち着くまでに時間がかかる場合は、場を変えて心の安定を図る。
- ・ペースがゆっくりな幼児と一緒に食事を摂ることで安心できるように意図的にグループを再編成する。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 健康な心と体**・・・友達と一緒に和やかな雰囲気の中で食べ、美味しい、楽しいという経験を積み重ね、食べ物への興味や関心をもち、進んで食べられるようになる。
- 自立心**・・・保育者との信頼関係を築き、保育者を頼りながらも自分なりにできることをやってみようとする意欲が育ち、その頑張りを認められ自信をもつようになる。
- 社会生活との関わり**・・・保育者に支えられることで安定し、友達や人との関わりを広げていく。

### 保育あるある知恵袋

- Q**：園のトイレで排泄することを嫌がります。どのように工夫していけばよいでしょうか。
- A**：家庭のトイレと違うことで抵抗感をもつ子どももいます。例えば、トイレの扉や便器の前に子どもが好きな動物や乗り物などのシールを貼り、明るく楽しい雰囲気を作ります。また、男児用便器内に、排尿が当たると色が変わるシールを貼ることも、ゲーム感覚で楽しめます。一人で入ることを嫌がる子どもには、保育者が一緒に入り手をつないで見守ることも安心感に繋がります。子どもが安心してトイレで排泄できるように無理なく進めていきましょう。

3歳児  
7月  
人との  
関わり

## 「お茶ください」 ～ 色水遊び ～

### 子どもの姿

【これまで】クラスの友達と一緒に、ままごとや簡単なお店やさん遊びを楽しんできた。その中で、店員が客に欲しいものを聞かずに渡したり、客が黙って品物を取っていったりする姿が見られた。

【今】年上のお兄さん、お姉さんのお店屋さんでの関わりを通して、客と店員の役になりきった言葉や動作を真似して、お店やさんごっこのやり取りを楽しんでいる。また、色水作りにも興味を示し、保育者と共に実や葉、花を採取して色水作りを楽しんでいる。

### <ねらい>

- 異年齢児の遊びに興味をもち、参加しようとする。
- 身近な自然物に興味や関心をもつ。

### <エピソード>

4歳児が、ピーマンの葉で色水を作り、お茶屋さんごっこの遊びを始めていた。「いらっしゃいませ」「おいしいお茶ですよ」と誘う声に応じて、3歳児の担任が「お茶ください」と頼むと、ペットボトルから透明カップに注いで「どうぞ」と渡してくれた。年上のお兄さん、お姉さんが店員であるため、3歳児も勝手に取ることなく、担任の真似をして「お茶ください」と頼み、受け取っていた。店員に「おかわりもありますよ」と勧められたり、「こぼしても大丈夫だよ」と優しく言われたりして、客の3歳児は喜んで何度も注いでもらった。また、お店の横で色水作りをしている様子を見てA児が「きれい」と興味を示したので、4歳児にどのように作ったのかを聞き、材料のある場所を教わり一緒に葉を採取したり作り方を見せてもらったりした。



### <保育者の援助>

- ・交流の機会がもてるように、保育者同士で事前に日時や内容を相談し、連携を図る。
- ・4歳児のしている遊びに興味や関心をもてるような言葉をかける。
- ・4歳児が主体的に3歳児に関わり、言葉や動きでのやり取りを楽しめるように見守る。
- ・4歳児が自信をもち、より年上らしく振る舞えるように、3歳児担任も言葉や態度で関わり方のモデルを示し、4歳児のやさしさやよい所を言葉で伝える。

### <環境の構成>

- ・客と店員がやり取りしやすいように高さを調節して、ままごとの台にお茶屋さんのカウンターを作ったり、関わる人数に応じて場の取り方を調整したりしていく。
- ・お店のやり取りの他、お茶作り（葉を使って色水遊び）に興味や関心が向く子どももいる。園庭の自然物のある場所や、作り方などを異年齢児に教わったり、一緒に作ってみたりできるように交流の機会を設けていく。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

社会生活との関わり・・・異年齢児との関わりを通して、やさしさや楽しさを経験し、喜ぶ。

自然との関わり・・・自然物に目を向け興味や関心を広げるようになる。また、自然物に触れ、変化する不思議さを感じ、自分で実や花、葉を探して関わろうとする。

豊かな感性と表現・・・身近な環境と関わる中で、美しいものや心を動かす出来事に触れ、そこから得た感動を友達や保育者と共有し、様々な方法で自己表現しようとする。

### 保育あるある知恵袋

Q：3歳児が5歳児の色水作りの様子を見て、初めから道具の使用も方法も同様にして作りたいと望む場合、どのように援助したらよいでしょうか？

A：3歳児は身近な自然物に関心をもって触れることを大切にし、まずは自分の手ですぐに作ることができる簡単な方法（例：ビニール袋に自然物と水を入れて手で揉む）を紹介します。不思議さ、驚き、子どもが自分でできた喜びに共感し「もっとやってみよう」という意欲を大切にしながら、遊びの経験を積み重ねていけるとよいですね。

3歳児  
9月  
環境との  
関わり

## 「おいで、入れるよ」 ～フープ遊び～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
3歳児 Ⅲ期 P.34  
ねらい「気の合う友達と  
関わって遊ぶことを楽し  
む」につながる姿

### 子どもの姿

【これまで】一斉活動のフープを使った遊びにおいて、みんなで行う活動に楽しさを感じる子どもがいる一方、自分の思い通りにならず悔しがり、他の友達同士が楽しそうにしているのを、遠目で見ている子どももいる。

【今】フープ遊びの中で「一緒に入ろう」「こっち空いているよ」と声をかけ合うようになってきた。生活の中では、一緒に遊びたい友達に自分から関わったり、順番に対する意識をもった言動が見られたりするようになってきた。

### <ねらい>

- 保育者や身近にいる友達と同じ場で遊んだり、同じように動いたりすることを楽しむ。
- 動物になりきって歩いたり、色を探したりしながら、友達と関わろうとする。

### <エピソード>

音楽に合わせ、円形に並ぶ複数のフープの外側を子ども達が歩いていると音楽が止まった。保育者が「赤と黄色に入って！」と言うと複数ある赤と黄色のフープの中に全員が入ることができた。

色を変えて楽しむうちに『赤にしか入らない』と言っていたA児が、フープの中に入れられない状況となった。すると友達から「A君おいで、こっち入れるよ」と呼ばれ、友達がいる緑のフープに入った。

友達が楽しそうにしているのを見ているうちにそれまでは『自分が入ったフープには友達を入れない』と言っていたB児が、フープに入れられないでいる友達に「おいで、入れるよ」と声をかけた。フープの中に友達が入ると、互いに顔を見合わせて嬉しそうにしていた。

フープの中に全員が入ったことを子ども達が確認し合うと「次は？」と保育者の言葉を待つ声が聞かれゲームが続いた。

### <保育者の援助>

- ・音楽に親しみながら歩くことが楽しめるように、取り組み具合を見ながら、止まる、またはフープに入る指示をする。
- ・歩くことに慣れたら、動物になりきって歩くなど違う楽しみ方ができるように、動きや鳴き声、表情など、保育者が共に楽しむ。
- ・子ども同士で関わるきっかけを作るために、色を指定する、フープを減らし複数人で入るなど、ルールを変化させていく。

### <環境の構成>

- ・色の名前に興味をもてるように時計の数字の横に色シールを貼るなど、普段から色の名前を使い、親しみが持てるようにする。
- ・伸び伸びと体を動かすことができるようにホールで行う。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**自立心**・・・集団遊びの中で、保育者の話に耳を傾けながら、自分なりの動きをすることで遊びの楽しさを味わうようになる。

**協同性**・・・遊びを楽しむ中で、友達と言葉をかけ合うことを通して喜びを感じる。

**道徳性、規範意識の芽生え**・・・友達と同じ遊びを楽しむためには、自分の気持ちを調整することや、きまりを守る必要があることを知る。

### 保育あるある知恵袋

**Q**：衣服の着脱はどのように指導していますか。

**A**：日々の繰り返しで基本的な生活の仕方がわかり身の回りのことを自分でしようとするので、衣服の着脱の際は自分で服を用意し、服の前後を気に留めながら自分のペースで着られるようにします。また衣服のたたみ方や裏返しの直し方のイラストなどを見て、自分で確認できるようにしています。

3歳児  
10月  
運動

## 「東京タワー…ピッ！」 ～組体操ごっこ～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
3歳児 IV期 P.35  
ねらい「いろいろな活動  
に興味をもち、楽しむ」  
につながる姿

### 子どもの姿

【これまで】5歳児の組体操の活動を見たり、異年齢交流で運動会ごっこをしたりするなどの経験を通して、5歳児の兄がいるA児や、A児と仲のよいB児が組体操の東京タワーのポーズをするようになった。

【今】自分たちなりに5歳児の組体操の真似を繰り返して遊ぶ子どもが増えた。また、日常生活の中で気の合う友達へ自分から関わっていくようになってきている。

### <ねらい>

- 体を動かす心地よさを感じる。
- 運動会の再現遊びを、保育者や友達と一緒に楽しむ。

### <エピソード>

A児が「東京タワー…ピッ！」と言って、両手を上げて掌を合わせるポーズをとった。体操を好むB児も加わり一緒にポーズをとった。「Bちゃんの足が(肩幅ぐらいに開いて)パーになっているね」と保育者が言うとA児はB児の足を見て真似をした。その間にB児が東京タワーのポーズの維持ができなくなりよろけると二人は顔を見合わせて笑った。「(今度は)先生が言って！」の声に応え、保育者が「飛行機…ピッ！」と言うと、二人は両手を広げてポーズをとった。続けて「飛行機飛びます。片足を上げる…ピッ！」と言うと、二人はバランスをとった後、しりもちをついた。保育者が「飛行機は飛ぶとカッコいいけど難しいね～」と言うと、3人で大きな笑い声をあげた。その様子を見て「入れて」と数名が加わり、組体操ごっこが続いた。



### <保育者の援助>

- ・子どもなりに頑張っている姿を応援したり、できるようになった技が増えた時に認めたりしながら、楽しい雰囲気を作る。
- ・組体操の技を繰り返し楽しめるように子どもの様子を見て、3歳児がポーズをとりやすい動きを取り入れる。
- ・いろいろな動きを楽しめるように、言葉がけを工夫したり、活動内容を組み立てたりしていく。

### <環境の構成>

- ・子ども一人一人が体を動かすことに満足できるよう、間隔や立つ位置を調整し、十分な時間を確保する。
- ・友達と一緒にいたり、保育者と同じように動いたりする姿を見守り、楽しさを受け止めていく。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

健康な心と体・・・やりたいことに主体的、意欲的に取り組みながら体を動かすことで、楽しさや心地よさを感じるようになる。

言葉での伝え合い・・・「(技の名前)・・・ピッ！」と言ったりリズムのある言葉や、自分が経験した動きについて、自分なりの言葉で伝えられるようにする。

協同性・・・保護者や友達への親しみの感情が高まり、関わる楽しさを十分に体験することの繰り返し、協同する姿の基盤となる。

### 保育あるある知恵袋

Q：散歩など園外活動の際、配慮していることは何ですか。

A：園外保育に出掛ける際は、友達と2人組で手を繋いで歩道の内側を歩く事や、信号や横断歩道の歩き方を確認し、交通ルールを守って移動をします。公園到着後は、公園内での遊び方を子どもと確認するなど、安全に園外での活動が楽しめるようにしています。また危機管理として、目的地までの移動経路を事前に確認し、園と連携が取れる対策を行い出掛けます。

3歳児  
2月  
感性と  
表現

## 「誰だ、おれさまの橋を渡るのは！」 ～ 劇ごっこ ～

### 子どもの姿

【これまで】ままごと遊びでお家の人や猫になったり、ごっこ遊びで店員や客になったり、アニメ番組のヒーローになったりして、友達と楽しんできた。

【今】アニメ番組や絵本の中で気に入った役や場面を、友達と一緒に簡単な言葉や動作を合わせて楽しんだり、ごっこ遊びで使うものを自分なりにつくる姿が見られる。

### <ねらい>

- 見立てたり、好きな役になりきったりして、友達と遊ぶことを楽しむ。
- 自分なりの表現をしながら、友達と一緒に動く楽しさを感じる。

### <エピソード>

年中組の劇「三匹のやぎのがらがらどん」を見学した。事前に読み聞かせを行い、やぎの歩き方を真似したり、トルロとやぎの掛け合いの言葉を言ったりすることで、興味を高められるようにした。年中組の表現を見て、トルロとやぎの対決場面が、印象に残ったようで「すごかったね」「面白かったね」と喜んでいた。後日園庭で遊具を構成してサーキット遊びをしていると、子どもが四つ這いになり、板を橋に見立てて渡り始めた。保育者が「誰だ、俺様の橋をガタゴトさせるのは！」と、トルロのような怖い表情と声色で接近すると「大きいやぎのがらがらどんだ！」と返してきた。「勝負だ！」と対決し、トルロが負けて、やぎが無事に橋を渡り山に到着して草を食べる場面まで進めた。「僕もやりたい」と、次々に子どもが集まり、ライオンや恐竜になってトルロと対決することを楽しんだ。



### <保育者の援助>

- ・子どもたちが、役になりきった表現活動を伸び伸びと楽しめるように、絵本の読み聞かせ後や、リズム遊びの際に、保育者が率先して様々な表現（動作、鳴き声、表情、言葉など）をして、子どもと共に楽しむ。
- ・皆と一緒に関われない幼児も、徐々に表現活動ができるように、気持ちに寄り添いながら、見て楽しんでいることを認めたり保育者と一緒に動いてみたりする。

### <環境の構成>

- ・子どもがいつでも遊びの中で自然に表現することを楽しめるように、その場で簡単に見立て、なりきれるような環境を工夫する。（例：段ボール紙を立てて【岩、山、家】に見立てる。戸外の移動遊具を活用する など）
- ・遊びの中で自由につくることを楽しめるように、製作コーナーに様々なお面の型や製作用具、素材などを用意する。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 健康な心と体**・・・見る、聞く、触れることや全身を使う活動を繰り返し楽しみながら、様々な活動に自分なりに取り組み、自ら体を動かそうとする意欲をもつようになる。
- 言葉による伝え合い**・・・保育者や友達と様々な絵本や物語を楽しみ、体を弾ませたり、言葉を言ったりしながら、共感したり感じたことを伝え合ったりする。
- 豊かな感性と表現**・・・感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現することを楽しんだりして、表現する喜びを味わう。

### 保育あるある知恵袋

**Q:** 戦いごっこがブームになっています。どのように進めていけばよいでしょうか。

**A:** なりきることや気の合う友達との関わりは大切です。英雄に憧れてなりきって遊ぶことは、自己表現の一つとして受け入れ、保育者も一緒に敵や味方になって遊びながら、危険のない遊び方を伝えていきます。また、的を作ったり「強くなる修行をしよう！」と違う遊び方を提案したり、遊びの拠点となる場を作り仲間との交流を大切に、一緒に楽しんでいきます。

4歳児  
6月  
生活  
習慣

## 「手伝って！！」 ～砂場遊び～

### 子どもの姿

【これまで】進級・入園当初から、母親とのつながりが強いためか、登園時に泣いて母親と離れられない幼児の姿が見られる。自分の思いは強いが、言葉で表現することが年齢的に難しいこともあり、周りに伝わらなくて、どうしたらよいかわからない幼児もいる。

【今】初めての園での泥遊びや、集団生活を経験しながら、少しずつ生活習慣を獲得し、自分でできたと思えることが増えることが、自信につながり、家庭での姿にも変化が出てきている。

### <ねらい>

- いろいろな活動に興味をもち、自分のやりたい遊びを見つけて楽しむ。
- 自分でできることに喜びをもちながら、生活に必要な習慣を身に付ける。

### <エピソード>

一斉活動で、砂場で水や砂を使って遊ぶ活動を行ったA児は、ダイナミックに水を入れたり、運んだりして楽しんでた。着替えの時間になると、自分からは動き出さず黙り込む。服が濡れているため、教師が着替えることを促すが、嫌がっていた。落ち着いたところで話をすると、「着替えが面倒くさい」という。次の日になると、「水遊びがやりたくない」と言う。保育者が、「水遊びは楽しいんだよね？」と尋ねると頷く。「着替えで難しいところは手伝うから大丈夫だよ！」と声を掛けると表情が和らぎ、水遊びを楽しんだ。着替えの時には、自分から「手伝って」とは言えなかったが、手伝うと最後まで頑張ってボタンを閉めることができた。

降園時保護者に、着替えの際に、頑張ってボタンができたことを伝え、A児も嬉しそうにしていた。



### <保育者の援助>

- ・いろいろな遊びの面白さを伝えることで自分からやってみようと思えるように援助する。
- ・子どもの様子をよく見て、自分では難しいと感じることは保育者に言葉で伝えられるように関わりながら、苦手な部分は手伝う。
- ・生活の中で、幼児が「自分でできた」と感じられることが増えるように、保護者と連携して、幼児の興味や関心に沿って活動しながら意欲を高めていく。

### <環境の構成>

- ・戸外に子どもが、「やってみたい」「楽しそう」と感じられるような遊具や用具を準備し、工夫して設定しておく。
- ・子どもが困った時や、手伝ってほしい時にすぐに保育者に伝えられるように、保育者同士の立ち位置に配慮するとともに自分から発信できるような、雰囲気作りや、言葉掛けをしていく。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**健康な心と体**・・・衣服の着脱や身の回りの始末など、生活の中で必要なことに気付き、自分で行うようになる。

**自立心**・・・自分のことは自分で行い、自分でできないことは、保育者や友達の助けを借りながら、できるようになる。

**社会生活との関わり**・・・保育者に支えられて、初めてのことにも挑戦できるようになる。

### 保育あるある知恵袋

**Q**： 思いはたくさんあっても、まだ言葉で伝えるのが難しい4歳児の1学期。幼児の困り感をうまく表出させるために、どのような手立てがあるのでしょうか。

**A**： 遊んだり話を聞いたりしながら思いを汲み取り、気持ちを言語化していくと良いと思います。また、「〇〇を手伝って！」など、言葉で伝えたことが相手に受け入れられる喜びを感じることでコミュニケーションの幅も広がっていくのではないかと考えます。また、大人がやってしまうのではなく、少し手を添えるなどして、自分でできたと思えることを増やしていくことも大切だと考えます。それが自信になり、またやってみようとする意欲につながるのではないかと考えます。

4歳児  
7月  
人との  
関わり

## 「一緒に楽しいね！」 ～絵の具遊び～

### 子どもの姿

【これまで】年中組での生活に慣れ、保育者や友達に親しみの気持ちをもつようになり、自分から好きな遊びや友達を見つけて遊び出す子どもの姿が多く見られるようになってきた。その一方で新入園児の中には、まだ不安や緊張感が高く、なかなか友達と関わりがもてずにいる子どももいる。

【今】それぞれが自分の興味に合った活動を見つけ、取り組む中で、友達と一緒に活動することを楽しむ姿が見られるようになってきた。また、これまで自分の思いを出すことが難しかった子どもも、保育者や友達との関わりの中で、自分の思いを少しずつ言葉で表現できるようになってきた。

### <ねらい>

- 自分の興味に合った遊びを見つけ、楽しむ中で、友達との関わりをもつ。
- 遊びを通して、友達と一緒に活動する楽しさを味わう。

### <エピソード>

室内遊びの中で、絵の具を使ったデカルコマニーの活動ができるよう、環境の設定をしておく、A児がそれを見つけて近づいてきた。これまで自分の思いがなかなか伝えられず、遊びに入れなかったこともあったA児が、自分から「入れて」と言い、周りの友達もそれを受け入れ、一緒に遊び始めた。A児は、同じ場にいる友達と絵の具用のスマックを着るのを互いに手伝ったり、出来上がったデカルコマニーの作品を見せ合い「きれいだね!」「一緒に楽しいね!」などと、思ったことを笑顔で伝え合ったりしていた。A児は、この体験をきっかけに、他の遊びにも入っていくようになり、友達と一緒に活動することを楽しむようになった。



### <保育者の援助>

- ・子どもが活動に興味を示せるように、保育者も一緒に絵の具を使ったデカルコマニーを楽しみ、やり方を見せる。
- ・友達との関わりがもてるよう、保育者がモデルとして、関わりに必要な言葉を意識的に発信し橋渡しをしていく。
- ・子ども同士が進めようとしている時には見守り、必要に応じて援助していく。

### <環境の構成>

- ・興味をもった子どもからすぐに遊び出せるように、場や教材を用意しておく。
- ・友達と一緒に活動しながら会話をしたり、互いの姿を見合ったりできるような配置をする。
- ・友達の作品にも興味をもてるように、出来上がった作品を互いに見合えるよう掲示しておく。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

言葉による伝え合い・・・自分の思いを相手に分かるように話し、言葉を通して友達と心を通わせるようにしていく。

豊かな感性と表現・・・様々な表現の面白さに気付いたり、友達と表現する過程を楽しんだりしていく。

協同性・・・いろいろな友達との関わりを通して、互いの良さを分かり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。

### 保育あるある知恵袋

Q：友達と関わるのが苦手な幼児が、友達と一緒に楽しく遊ぶためには、どのようにしたら良いのでしょうか？

A：まずは好きな遊具や興味のありそうなことを探ります。それから、その子の好きなことを起点にして、保育者がそばで楽しんでみたり、友達との橋渡しをしたりして、周りに目を向けていきます。子どもは、身近な大人の言動や人とのやり取りを通して、人との関わりを学び、徐々に視野も広がって友達にも目が向くようになっていきます。その子なりのペースを大切にしましょう。

4歳児  
9月  
環境との  
関わり

## 「カブトムシ、さようなら」 ～生き物の飼育～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
4歳児 Ⅲ期 P.39  
ねらい「友達と触れ合いなが  
ら、感じたことを自分な  
りに表現して楽しむ」につ  
ながる姿

### 子どもの姿

【これまで】身近な虫に興味をもち、園庭遊びではダンゴムシや蟻を捕まえて観察したり、触ったりして楽しんでいる。

【今】昨年度から継続し、幼虫からカブトムシに羽化するまでをクラスで飼育している。ケースの中で動くカブトムシを観て楽しんでいる。カブトムシに触れない子どももいるが、当番活動でゼリーを入れ替えることは楽しんでいる。時々、触り方が強引になったり、もののように扱う姿もある。

### <ねらい>

- 身近な生き物に興味関心をもち、見たり触れたりしながら関わる。
- 発見したことや考えたこと、感じたことを自分なりの言葉で表現し、伝え合う。

### <エピソード>

ある日、飼育当番の子どもが飼育ケースの蓋を開けると、土の中に頭を突っ込んだまま動かなくなっているカブトムシを発見した。  
「先生、このひと動かない！」その声を聞いて、周りで遊んでいた子どもも集まってくる一人の子どもが「死んじゃったんだ」と言った。集まった子ども達からは「なんで、死んじゃったの？」「ゼリー毎日あげてたのに？」「誰かが、ぎゅって強く持ったからじゃない？」「病気になっちゃったのかな。」と、死んでしまった原因を考え、話し始めた。そこで、カブトムシの一生についての絵本の読み聞かせをした。その中で寿命があることを知り「ちょっとしか生きられなくてかわいそうだね」という子もいた。その後、みんなで裏庭にカブトムシを埋めることにした。「さようなら」「またあたらしいカブトムシになつてうまれてきてね」とロ々に別れの挨拶をした。

### <保育者の援助>

- ・生き物を大切に扱えるよう、子ども達と一緒に世話をしたり、観察したりしながら適切な触り方、力の加減を伝える。
- ・友達同士で考えを共有したり、一緒に感動したりできるように、子どもが観察していて発見したことや感じたことをクラスの子ども達にも伝える。

### <環境の構成>

- ・自由に観察できるよう、飼育ケース、ゼリーなどを用意し、置いておく。
- ・気付いたことや疑問に思ったことを調べられるよう、カブトムシに関連する図鑑や絵本を用意する。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

思考力の芽生え・・・飼育を通して生き物の生態について自分で考え、友達と思いを伝え合う。

自然との関わり・生命尊重・・・生き物の生死に触れ、いたわったり、命の尊さに気付いて大切にしようとしたりする。

言葉による伝え合い・・・気付いたことや感じたことを保育者や友達と伝え合い興味関心を広げる。

### 保育あるある知恵袋

Q：子ども達が身の回りの出来事や自然事象に興味をもって関わるにはどうすれば良いでしょう。

A：一人一人、興味の方角は違います。クラスの中の誰かが発見したことを保育者が拾い、周囲の子ども達にも伝えていくことで一人の発見がクラス全体へと広がっていきます。また、子どもの疑問に対して知識を教えるのではなく、次の発見、考察へのきっかけとなる問いかけをすることでさらに活動が広がっていくと思われます。子どもの目線で一緒に考えたり、感動を共有したりすることで興味関心は広がっていきます。

4歳児  
10月  
運動

## 「がんばれのパワー」 ～リレー～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
4歳児 IV期 P.40  
ねらい「自分なりの目的や  
イメージをもち、自分の力  
を発揮する」につながる姿

### 子どもの姿

【これまで】クラスの友達と、かけっこやサーキットレースを楽しんでいる。一緒に走る友達の中で、より速く走ろうとしたり、競争で一番にこだわったりする姿がある。

【今】年長児のリレーを見て、憧れの気持ちをもち、楽しんで取り組んでいる。チームでの勝敗よりも自分自身が一緒に走る相手との競争での勝敗にこだわる子ども、自分の順番が来て走るのを楽しみにしている子どもなど、様々である。

### <ねらい>

- 友達と一緒に、ルールや順番を守りながら運動遊びを楽しむ。
- 意欲的に活動に取り組む中で、自分の力を発揮する。

### <エピソード>

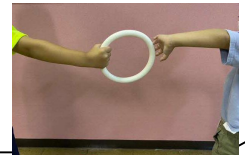
A児はリレーで自分の順番になった際、相手の友達よりも後からバトンを受け取ると、途中で立ち止まったり、泣いて走ることができなかつたりする。その様子を他の子ども達は静かに見守っていた。

ある日、年長組がリレーをしているのを見る機会があった。1人が途中で転んでしまうが、すぐに立ち上がり、走り出した。周りの子ども達は「がんばれ!!」と大きな声で応援していた。その後、クラスでもリレーをはじめた。A児はこの日も途中で立ち止まってしまった。すると、同じチームのB児が「Aちゃんががんばれ!」と声をかけた。それをきっかけに他の子ども達も口々に「がんばれ!!」と言ったり、手を叩いたりして応援し始めた。保育者が並走するとA児は泣きながらも最後まで自分で走りきった。

その後も、リレーをする度、子ども達から自然と友達を応援しようとする姿が見られるようになっていった。

### <保育者の援助>

- ・活動への意欲につながるよう、走る速さや、勝敗だけでなくリレーに一生懸命取り組む姿や、友達を最後まで応援する姿を認める。
- ・友達の中で自分なりに力を発揮しようという気持ちが育つよう、リレーや勝敗に対する意欲への個人差に留意し、声をかけて励ましたり個別に援助したりする。



### <環境の構成>

- ・遊びの中でも自由にリレーに取り組めるよう、バトンやトラックを用意する。
- ・友達にバトンを渡す簡単なゲームを設定し、リレーに段階的につなげる。(直線、コーンを折り返す競争、トラック1周を数名で分割するなど)
- ・バトンは受け取りやすいリング状のものを使用する。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

**健康な心と体**・・・友達と一緒に十分に体を動かして遊ぶ充実感を味わう。

**協同性**・・・友達と一緒に取り組むことの楽しさや嬉しさを味わう中で、自分なりの目的をもつ。

**道徳性・規範意識の芽生え**・・・勝負のあるゲームの中で様々な感情を経験し、相手の気持ちにも気付けて自分の思いに折り合いをつける。ルールを理解し、その必要性に気付く。

### 保育あるある知恵袋

**Q:** 運動遊びやゲームを行う際、自分の勝ち負けにこだわり、友達同士でトラブルになったり、負けて意欲をなくしたりした際はどのように援助していけばよいでしょう。

**A:** 4歳児という年齢では、まだチームの一員という思いやルールの理解に個人差があります。同じ遊びを友達と一緒に繰り返す中で、勝った嬉しさ、負けた悔しさどちらも経験し、相手の思いにも少しずつ気付けるようになっていきます。「負けても次またがんばろう」と思えるよう、次の機会への期待をもたせ、繰り返し楽しめるようにしましょう。

4歳児  
2月  
感性と  
表現

## 「みんな見て！素敵でしょ！」 ～表現活動～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
4歳児 V期 P.41  
ねらい「自分なりの目的や  
目標に向かって考えたり、  
試したりしながら遊ぶ」に  
つながる姿

### 子どもの姿

【これまで】歌ったり踊ったりする活動に進んで取り組む幼児が多数見られ、繰り返し楽しんでいった。子どもたちの間で人気の高いダンスの曲を取り入れたところ、テレビと同じ振り付けで踊ろうとする子どもと、自分なりの表現を楽しむ子どもがおり、そのことが原因でトラブルが起きることがあった。

【今】自分だけでなく、周りの友達の踊る姿に目を向け、互いの良さを認め合う姿が見られるようになった。それにより、それぞれが自分なりの表現で伸び伸びと踊ることを楽しむようになった。

### <ねらい>

- 自分なりのイメージをもち、考えたり工夫したりしながら表現することを楽しむ。
- 友達と一緒に表現遊びを楽しむ中で、相手の思いや動きに気づき、互いの良さを発揮し合う。

### <エピソード>

7～8人の子どもたちが誘い合って集まり、音楽に合わせて踊ったり、必要な小道具を考えて作り、それをういて表現することを毎日のように楽しんでいった。保育者が子どもたちからのリクエストのあった曲を準備したところ、みんな生き生きと夢中になって踊り出した。しかし、次第に「ここは、こういう風に踊るんだよ！」と、テレビと同じ振り付けで踊ることを主張するA児やB児に対して、「私はこういう風に踊りたいの！」と、自由に踊ることを楽しみたいC児の間でトラブルが生じることがしばしばあった。そこで、保育者がどちらの意見も受け入れ、それぞれの良さを具体的な言葉で表しながら認めていくと、子どもたちが周りの友達の姿に目を向け互いの良さを伝え合う姿が見られるようになった。また、振り付けにこだわらず、「みんな見て！素敵でしょ！」と、自分なりの表現を楽しむ幼児が増えた。

### <保育者の援助>

- ・興味に合った曲や小道具の材料を豊富に用意し、目的に向かって活動できるよう一人一人に応じた援助を行う。
- ・個々の子どもの表現を具体的な言葉に表して認め、自分の良さを感ずると共に、友達の良さにも気づけるようにする。
- ・トラブルが起きた際は、保育者が解決に導くのではなく、子どもたちが意見を出し合いながら進めていけるようにする。

### <環境の構成>

- ・子ども同士が互いの姿を見合えるように場所を設定する。
- ・表現を豊かにするための小道具が作られるように、踊りのコーナーの隣に製作コーナーを設定する。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点から大切にしたいポイント

社会生活との関わり・・・友達と共通の目的をもち、思いや動きを受け止め合って遊ぶ楽しさを感じるようになる。

言葉による伝え合い・・・保育者や友達の話を親しみをもって聞き、保育者や友達に自分の思っていることを安心して話せるようになる。

豊かな感性と表現・・・自分の気持ちを表現することを楽しみながら、思いを出せるようになる。

### 保育あるある知恵袋

Q：子どもの「思い」や「やりたい」ことを実現させるために、どのような手立てが有効でしょうか？

A：まずは子どもが安心して自分の思いを出せるような雰囲気づくりをしていきます。遊びの中で一人一人の子どものつぶやきをキャッチし、個性を認めていきながら、それぞれが思いを実現させるための援助をしていきます。子どもは、「自分は認められている」「受け入れられている」と感じると、伸び伸びと自信をもって遊ぶようになり、次第に自分の思いを実現する喜びを味わうようになります。

## 「今日はお当番だ！がんばるぞ！」 ～当番活動～

### 子どもの姿

【これまで】生活の流れが分かり、意欲的に活動に取り組む姿が見られるが、見通しをもって遊んだり片付けたりすることができないときもあった。

【今】活動に対して自分たちなりに自覚をもち取り組めるようになってきた。見通しをもつようになったことで、気持ちを切り替える姿や、片付け時に協力を求める声をかけ合う姿も見られるようになってきた。

### <ねらい>

- 自分たちで生活の場を整えながら、見通しをもって行動する。
- 自分の役割が分かり、当番活動に意欲をもって取り組む。

### <エピソード>

当番表を作り、活動を行っている。自分たちで当番表を確認したり、自分の名前が紹介されることを心待ちにしたりする姿が見られていた。給食の数を伝えたり、洗濯物を集めたり、また給食時のテーブル拭きが主な当番の仕事である。当番バッチをつけることで、当番への意識も高まってきたため、個々が進んで取り組んでいる姿をクラス全体にも伝えるようにしていた。片付けの時間になり、A児はB児に声をかけ、当番であることを知らせた。遊びの途中だったB児が「わかっている」と言い急いで片付け始めると、一緒に遊んでいたC児も手伝っていた。B児は自分の物を片付け終わると「当番だからあとはお願い！」と言ってみんなで共有していた物はC児に託していた。C児も「オッケー！」と言って快く引き受けていた。B児は当番活動へ意欲的に取り組み、みんなに「ありがとう」と言われると嬉しそうにしていた。

### <保育者の援助>

- ・当番活動に自発的に取り組めるように、手順を伝える。
- ・個々の自信や意欲につながるように、自主的に取り組んでいる姿を認める。
- ・互いに認め合うことができるように、責任をもって取り組む姿や、友達と協力して進んでいる姿を、クラス全体にも知らせる。

### <環境の構成>

- ・当番表はいつでも確認できるように、視覚的に見えやすい場所に貼る。
- ・当番への意識が高まるように、朝の会で紹介する機会を設け、当番バッチをつける。
- ・当番活動時に使用する物は、子どもが分かりやすく、取り出しやすい場所に置いておく。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

道徳性・規範意識の芽生え・・・様々な体験を重ねる中で決まりを理解するという道徳性や規範意識、自分の気持ちを調整する力や思いやりの気持ちが育っていく。

社会生活との関わり・・・相手の気持ちを考えたり、自分が役に立つ喜びを感じたりすることができる。

言葉による伝え合い・・・言葉による伝え合いを楽しむようになり、豊かな言葉や表現する力が身に付いていく。

### 保育あるある知恵袋

Q：親切な気持ちで友達に伝えようとしているが、口調がきつく、一方的な言い方になってしまうことがあります。子どもにどのように言葉をかけたらよいでしょうか。

A：自主的に友達に知らせてくれた姿を、まずは認めましょう。そして具体的な言葉や伝え方を知らせ、相手の気持ちを考えた伝え方ができるように、働きかけていきましょう。うまく伝えることができたときは、「今の伝え方、素敵だったね」と認めていくことも大切です。

5歳児  
7月  
環境との  
関わり

## 「見て！綺麗な色水ができたよ」 ～色水遊び～

### 子どもの姿

【これまで】「やってみたい」という気持ちをもって、自分から取り組もうとする姿が、見られるようになった。友達と意見が衝突してしまうこともあるが、場を共有して遊ぶことを楽しんでいる。

【今】用具を使うことで遊びが広がり、発見したり変化したりすることを楽しみ、試したり協力したりしながら、友達とイメージをもって遊びを進める姿が見られるようになった。

### <ねらい>

- 身近な自然に触れ、遊びに取り入れて楽しむ。
- 様々な用具や材料を使って、試したり考えたり工夫したりしながら遊ぶ。

### <エピソード>

ビニール袋にオシロイバナやアサガオの花びらと水を入れ、手でもんで色水をつくることを楽しんでいたA児とB児。出来上がった色水の袋を触って「冷たいね」「気持ちいいね」と言いながら互いに見せ合っていた。花びらの枚数で濃さが変わること気付くと、花びらの量を考えるようになった。子どもの様子に合わせてカップやペットボトルなどを用意し自由に使えるようにすると、A児はつくった色水をペットボトルに入れようとした。押さえたほうが入れやすいということが分かったとB児に「ここ押さえて」と伝えた。B児は「いいよ」と言って手を添えて、互いに協力しながら遊ぶようになった。「実験みたいだね」と混ぜた色の変化を楽しんだり、ジュース屋さんに見立てて色水を並べたりして遊びが発展していった。出来上がった色水を光にかざすと、キラキラ輝くことを発見したB児は「見て！綺麗だよ」とA児に知らせ、嬉しそうな表情を浮かべていた。

### <保育者の援助>

- ・用具や材料を無駄に使ってしまうことがないように、手順や使い方を伝える。
- ・好奇心を抱きながら繰り返し試したり、考えたり工夫したりすることができるように個々の取り組みに応じた援助や言葉かけをする。
- ・自分の気持ちが受け止められる心地よさが感じられるように、試している姿や水の色が変化する様子など、子どもの驚きや発見、気付きに共感する。

### <環境の構成>

- ・試したり考えたり工夫したりできるように、遊びに必要な用具や材料を用意する。
- ・じっくりと遊ぶことができるように、ゆとりのあるスペースをつくり、場所を設定する。
- ・繰り返し楽しめるように、子どもが扱いやすい環境を整えておく。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点から大切にしたいポイント

- 思考力の芽生え・・・考えたり工夫したりしながら、物との多様な関わりを楽しむようになる。  
自然との関わり・生命尊重・・・身近な自然に触れることで、不思議さに気付いたり、大切にすることができるようになる。
- 数量や図形、標識や文字・・・遊びながら数や量に触れ、親しむ体験を重ねていくことで、興味や関心などへの関心・感覚  
心をもつようになり、数量などの感覚が養われていく。

### 保育あるある知恵袋

- Q：用具や材料の扱い方や片付けが乱雑になってしまうことがあります。丁寧に扱うことを指導するには、どのようにしたらよいでしょうか。
- A：子どもと一緒に準備をしたり遊びの環境を作ったりすると意識や意欲も高まり、自分で考えて行動する姿にもつながっていきます。片付けの時間にゆとりをもち、子どもが自主的に取り組むことができるように、一緒に分類したり並べたりして整えていくと少しずつ身に付いていきます。

5歳児  
9月  
人との  
関わり

## 「エイリアンを倒そう！」 ～サーキット遊び～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
5歳児 Ⅲ期 P.44  
ねらい「共通の目的に向かい、グループやクラス全体で取り組み、充実感や達成感を味わう」につながる

### 子どもの姿

【これまで】様々な遊具を使ったサーキットのコースづくりを楽しんでいる。友達同士で思いを認め合いながら遊びを進めていく中で、時には、思いがぶつかり合い、いざこざが起こることもある。

【今】自分たちでコースをつくる中で、互いの思いを認め合ったり、一緒に遊び方を考えたりしながら、つくり上げた充実感や満足感を味わい、繰り返し遊びに取り組んだ。思いがぶつかることもあるが、自分たちで遊びを進めようとする姿も見られるようになってきている。

### <ねらい>

- 思いや考えを出し合いながら、友達と一緒に遊びを進めていくことを楽しむ。
- 友達とイメージや目的を共有し、試したり考えたりして遊ぶことを楽しむ。

### <エピソード>

室内遊びの時間、積み木や巧技台を使い、宇宙探検のコース「宇宙ミッション」をつくり始めた。繰り返し遊ぶ中で、A児が「エイリアンが出てきたら面白いよね！」と新しいアイデアを出した。一緒に遊んでいる子どもたちも、「いいね！エイリアンを攻撃して倒そうよ！」とA児の思いを受け入れた。A児も「それいいね！倒せたら、進めるってことね！やってみよう！」と受け止め、エイリアンと、攻撃するためのゴム鉄砲をつくり始めた。ゴム鉄砲は以前つくって遊んでいたもので、互いに教え合ったり、エイリアンを壁に貼ったりして、コースを皆で作り上げていった。保育者が様子を見に行くと、A児たちが嬉しそうに新しいコースの説明してくれた。保育者も一緒に遊び、「楽しいね！誰が考えたの？」と聞くと、A児は「僕たちだよね！」と嬉しそうに、互いの顔を見合わせた。

### <保育者の援助>

- ・イメージを共有し、遊びを十分に楽しめるように、保育者が仲間になって一緒に遊び、子ども同士の会話や動きを受け入れる。
- ・思いが行き違ったときには、保育者が仲介役になり、子どもの思いを聞き出したり相手に伝えたりする。
- ・自分たちで遊びを展開する充実感や友達とのつながりを味わえるように、言葉かけをする。

### <環境の構成>

- ・宇宙のイメージを引き出せるように、宇宙に関する絵本や図鑑を準備する。
- ・子どものイメージや思いを引き出したり、膨らませたりできるように、サーキットのコースをつくるための様々な遊具の準備や製作するための素材を準備する。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 協同性・・・自分の思いを表現しながら、友達同士でよさを認め合い、一緒に考えたり、工夫したりし、やり遂げる経験を積み重ねる。
- 道徳性・規範意識の芽生え・・・友達の気持ちを知り、自分の行動を振り返ったり、気持ちに折り合いをつけたりしながら遊ぶようになる。
- 言葉による伝え合い・・・自分の思いが友達に伝わる喜びや友達の思いを聞く楽しさを感じる。

### 保育あるある知恵袋

Q：友達の思いを受け入れられない子どもがいます。どう援助したら良いのでしょうか。

A：思いを受け止めてもらう安心感や喜びを感じれるよう、まずは保育者が思いを受け止めることが大切です。子どもたちの間に入り、思いを言葉や表情を加えて分かりやすく伝えることで、思いを感じ取れるようにするのも1つの方法です。また、日々の遊びや活動の中で、友達同士で思いを出し合う大切さを、子どもが実感できるような経験を積み重ねていきます。

5歳児  
12月  
運動

## 「頑張っ！」 ～ドッジボール～

第Ⅲ部 保育・教育課程  
5歳児 IV期 P.45  
ねらい「自分の力を出すこと  
の心地よさを感じ、十分に  
体を動かして遊ぶ」につ  
ながる姿

### 子どもの姿

【これまで】ドッジボールをして繰り返し遊ぶ中で、子ども同士でルールが共通になり、ルールを確認し合いながら遊び、チームでの勝負を楽しんでいる。ボールをキャッチしたり、相手に向かって勢いよく投げたり、ボールに当たらないように逃げたりするなど、体を思い切り動かしている。

【今】チームの友達を応援したり、励まし合ったりしながら遊ぶことで、仲間関係が深まっている。また、友達の姿にもよく目が向くようになり、投げ方や逃げ方がうまいと思う友達の真似をして、一人一人が自信をもってドッジボールをして遊ぶようになってきている。

### <ねらい>

- 友達と一緒にルールのある運動遊びを楽しみ、自分の力を発揮する心地よさを感じる。
- 友達のよさを感じ、頑張りを認め合いながら遊ぶ。

### <エピソード>

友達同士で誘い合いドッジボールが始まった。内野のA児は足元に転がってきたボールを拾うと、不安そうな表情で、友達にボールを渡そうとした。保育者が様子を見守っていると、同じチームの友達は「投げてみなよ！」や「当てられるかもしれないよ！」とA児を励ました。A児も「分かった！」と力いっぱい投げ、「またやってみる！」と言って生き生きした表情を見せた。その後、各チームの内野がB児とC児の1人ずつになった。B児もC児もうまくボールから逃げ、勝負がつかないでいると、同じチームの友達から「頑張っ！」、「しっかりねらって投げて！」などの応援する姿が見られた。最後、B児にボールが当たり、勝負がついた。B児は悔しくて涙を流した。すると、B児の周りにA児やクラスの友達が集まり「2人共逃げ名人だね！」と声を掛けた。徐々にB児も表情が明るくなり、「今度は最後まで当たらない！」と言い、遊びを終えた。

### <保育者の援助>

- ・挑戦していく意欲を引き出し、前向きな気持ちで遊びに取り組みるように、一緒に遊びながら励ましたり、投げ方やボールの取り方、逃げ方などのコツを知らせたりする。
- ・子ども同士が、友達のよさを認め合いながら遊ぶ心地よさを感じられるように、保育者も子どもの頑張りを認めたり、友達のよさに気付いている子どもの言葉を受け止めたりしながら遊びを進める。

### <環境の構成>

- ・遊びに満足するまで、繰り返し取り組むことができるように、時間の保障や活動できる場所を確保する。
- ・ドッジボールに取り組む人数や、ボールを投げたり、逃げたりする様子の実態によって、コートの実態によって、コートの広さを変化させる。



### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 健康な心と体・・・ボールを使って様々な体の動きを経験し、体を思い切り動かす心地よさを味わう。
- 自立心・・・友達や保育者に励まされながら、難しいことにもやってみようと挑戦し、諦めずに取り組み、達成感を味わう経験を通して自信を高める。
- 協同性・・・一人一人が自己発揮しながら、互いのよさを認め合うことで、仲間関係が育まれる。

### 保育あるある知恵袋

- Q：勝ち負けにこだわり、友達に強い言葉や責める口調で話す子どもへの援助はどうしていますか？
- A：遊びに夢中になっている姿と捉えると、勝ちたい、負けて悔しいという子どもの気持ちを保育者が受け止めることで、気持ちを調整するきっかけになるのではないのでしょうか。仲間と力を合わせて目的を達成するために、相手の視点に立ち、自分の言動を振り返りながら、どのような言動が良いのか、一緒に考えるようにしています。

5歳児  
1月  
感性と  
表現

「みんなで相談して考えよう！」  
～海賊ごっこ～

子どもの姿

【これまで】友達と相談しながら活動に取り組んでいるが、思い通りに進まないことがあると意見が衝突したり、自分のやりたいことがうまくできず困ったりする姿が見られていた。

【今】友達と活動を進める経験を重ねたことで協力したり助け合ったりできるようになってきた。うまくいくことで達成感を味わいできることを自分なりに表現しようと楽しむ姿も見られるようになった。

<ねらい>

- 感じたことや考えたことを自分で表現して楽しむ。
- 交流活動に必要な物をつくったり、工夫したりすることを楽しむ。

<エピソード>

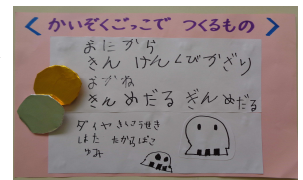
異年齢交流で海賊ごっこをすることになった。最初は意見がまとまらなかったが、小学校との交流後、体験をもとに様々な案が出るようになり「一緒にやってあげるといいよね」「手遊びもやる？」と年下の子どもも楽しめる内容を考えるようになった。A児は「宝箱をつくらうよ」と積極的に意見を伝えイメージを膨らませていた。B児は「宝探しもしたいね」と言って旗や金貨の案を出し、必要な材料を考えていた。交流活動では、年長児が見本となって、つくったり遊んだりした。「小さい組さんも一緒につくるから大きい金貨のほうがいいよね」と年下の子どもに合わせて工夫する姿も見られるようになった。意欲的に案を出す、年下の子どもに丁寧に教える、器用な子どもが製作を担当するなど、個々が得意なことに取り組むことで持ち味を発揮し、自分の表現を楽しむことができた。一緒につくり上げていくこの経験が、その後の自信にもつながった。

<保育者の援助>

- ・友達と考えを出し合って楽しめるように、取り組みの過程を見守り、意見を整理したりアイデアが出るような投げかけをしたりする。
- ・表現する喜びや充実感を味わうことができるように、子どもの発想を大切に、思いを表現できているか、様子をみながら仲介する。
- ・伸び伸びと表現しながら自信をもって取り組めるように、力を発揮していた姿や、最後までやり遂げた姿を認める。

<環境の構成>

- ・イメージしたものを、すぐにつくることができるように、様々な材料を用意しておく。
- ・互いに思いや考えを出し合えるように、紙にかき出して、イメージの共有につなげる。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 自立心・・・見通しをもって活動を進め、最後まで諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
- 協同性・・・共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりしながら、友達と一緒に活動を展開する楽しさを味わい、充実感をもってやり遂げるようになる。
- 豊かな感性と表現・・・友達同士で表現する過程を楽しみ、保育者や友達に認められることで表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

保育あるある知恵袋

Q：自己主張のぶつかり合いが起こることがある時の対処はどうしていますか。

A：心の葛藤を経験することは内面が成長できる良い機会です。子どもの考えを尊重し、周りの友達にもどうすればよかったか聞きながら、自分たちなりに解決できるようなきっかけをつくっていきましょう。互いの思いや意見を取り入れながら子どもの主体性が育っていくような働きかけをしていくと、個々が伸び伸びと自己を発揮しながら表現することを楽しめるようになります。



## 第V部

保育園・幼稚園・認定  
こども園と小学校との連携



## 第Ⅴ部 保育園・幼稚園・認定こども園と小学校との連携

### 1 子どもの発達と学びをつなぐ園と小の連携

#### (1) 5歳児の発達段階と特徴

5歳児は、身体の成長面からみて、成人の形態に近づき、その成長の速度は今までに比べて、ゆっくりとなってきました。下半身の成長が上半身に追いついてくる時期でもあり、体形的に「小さな成人」と言えるほどになります。それに伴い、平衡感覚がかなり発達してきます。運動機能も、ホップ、スキップ、ジャンプをすることが上達し、多様な動きができるようになります。また、音楽に合わせてリズムをとったり、踊ったり、ボール遊びができるようになる等、視覚的、聴覚的に捉えた情報を、手足を中心とした体全体で表現できるようになってきます。更に、手先の動きも繊細さを増し、箸や鉛筆、筆、クレパス等も上手に使えるようになり、紐を結ぶことや絵を描く技術も高まります。

生活面では、衣服の着脱や洗顔、歯磨き、排泄等がほぼできるようになり、家事の手伝いや当番活動等、仕事への参加意識も高まります。これによって、自己有用感、達成感、所属感が強くなります。進んで手伝いをすることができるようになり、生活の中で自信を高め、信頼を獲得するようになります。遊びも、より複雑なルールや協調性、共同性が必要なごっこ遊びを好むようになり、友達の要求を理解したり、自分の気持ちや考えを伝えたりする必要性を強く認識するようになります。人と関わりながら考えを深めていく、友達と共有しながら活動を広げていくという、人と関わる力が伸び、考えを深める過程が人間関係の中で行われていきます。このような、友達との関わりを通して、きまりや約束を守ること、他者への思いやりの心も育ちます。

#### (2) 学びをつなぐ園・小の教育

子ども達は、地域に見守られ、地域との交流をとおして豊かな体験を得ながら、就学前から小学校・中学校へと育っていきます。

特に園と小学校との連携については、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領においても、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会等を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する等連携を図り、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るように努めるものとして示されており、小学校学習指導要領においても幼児期において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、総則や生活科の中にスタートカリキュラムに関する記述が盛り込まれています。

幼児期において、自発的な活動である遊びを通して育まれてきた、気付きから探求へとという学びの過程は、小学校以降の学習意欲へとつながり、主体的に課題に取り組み解決していこうとする態度を育てることにつながります。こうした幼児期から児童期への学びの連続性の保障のためには、接続期の保育・教育において「つながる」ことが重要です。

幼児教育と小学校教育のそれぞれのよさや特性を互いに尊重し、子ども達一人一人の成長をしっかりと支えていくためには、保育・教育に携わるすべての人々が、本市の幼児教育が目指している方向性についての理解を深めていくことが必要です。

## 2 浦安市の幼保小連携教育の考え方

様々な体験や遊びを通して得る学びの土台となる幼児期から、教科学習中心となる児童期以降の教育において、互いの違いを理解した上で円滑な接続をし、教育を進めていくことが重要です。

### 発達と学びをつなぐ4つのポイント

- ①子どもでつなぐ
- ②教職員でつなぐ
- ③カリキュラムでつなぐ
- ④保護者との連携でつなぐ



### 生活や遊びの連続性

～滑らかな接続～

幼児期に身についた力を生かせるように小学校生活への段差を小さくする。

### 達成感

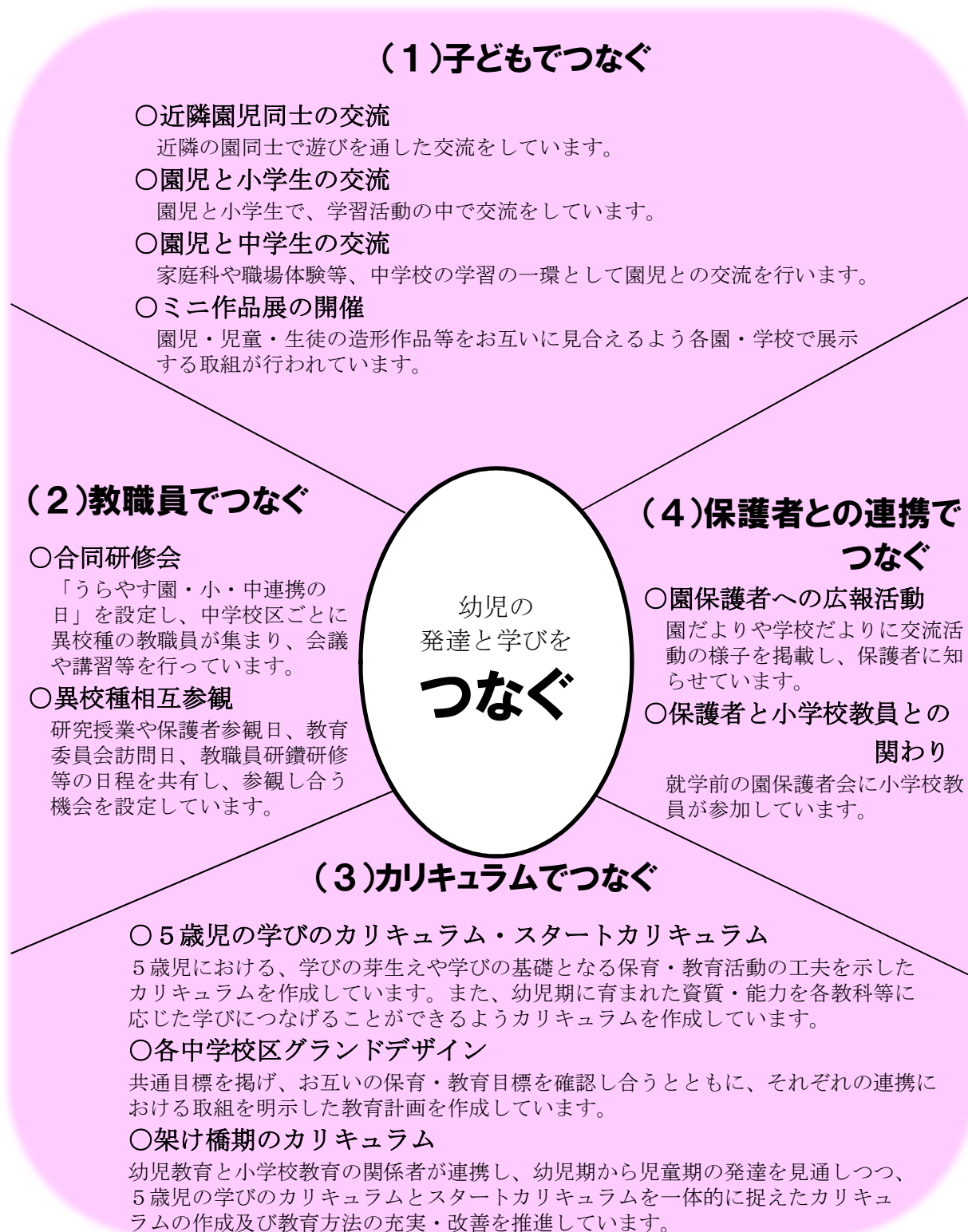
～必要な段差～

子ども自身が段差を乗り越えることの達成感や充実感を自信や意欲につなげられるようにする。

地域の中で

### 3 子どもの発達と学びをつなぐ「4つのポイント」

浦安市では、子ども達の学びと育ちをつなげていくために「4つのポイント」を設定しています。それぞれに「～でつなぐ」という視点のもと、中学校区の実態に合わせて様々な実践に取り組んできました。



ここでは、それぞれの具体的な取組例を紹介します。

## 具体的な取り組み

### (1) 子どもでつなぐ

#### 小学生のお兄さん・お姉さんと遊ぼう！ ～年長児と5年生の交流～

##### 取組の目的：

- ＜保育園・幼稚園・認定こども園＞
  - ・5年生との交流を通して、小学生への憧れの気持ちをもつ。
- ＜小学校＞
  - ・園児との交流を通じて、自己の成長を実感し、人に対する思いやりの気持ちを育む。

##### 内容：

- ・互いの自己紹介カード等を交換し、相手に親しみを感じられるようにする。
- ・小学校の校庭や体育館で、ドッジボールやサッカーをしたり、室内でカルタやすごろく作りをしたりする。

ボールがきたら、素早くよけるといいよ！

代わりに書いてあげるね。



ゆっくり読んであげたほうが、わかりやすいかな。

お姉ちゃんって、字もきれい。何でもできて、かっこいい。



お兄ちゃんは上手だなあ。



##### 園から見た成果

- ・学校の雰囲気や広さを実際に体験し、小学校生活への期待が膨らんだ。
- ・5年生の優しさやたくましさを感じ、小学生への憧れの気持ちが芽生えた。

##### 小学校から見た成果

- ・自分たちが役に立ったという達成感を味わうことができ、自己肯定感や最高学年への意識の高まりが見られた。
- ・進級への期待が膨らみ、低学年への思いやりの気持ちにつながった。

## (2) 教職員でつなぐ

### 浦安市教育委員会幼稚園・認定こども園訪問・保育園訪問・小学校参観 等の実践

#### 取組の目的：

- ・教育委員会訪問や公開研究会、保育園訪問を実施し、園・小・中学校教職員の指導力向上を目指す。
- ・保育参観、授業参観を実施し、教職員間の保育・教育に関する相互理解を深める。

#### 内容：

- ・教育委員会職員、健康こども部職員が保育・授業を参観し、指導助言を行う。
- ・他園・他校の教職員が参観し、保育・授業について協議する。

→<学級のみんがが集まって相談中>  
幼児の言葉に参観者も聞き耳を立て、幼児が獲得している力を捉えていきます。



↓<協議の時間>

保育参観の感想、評価や課題について、互いの意見を出し合う中で、幼児理解や教師の役割について考えます。他者の意見や参観の視点が、保育者や教師の新たな気付きとなります。



←<遊んだ後の振り返りの場面>  
子ども達の感想やアイデアを、明日の遊びにつなげていきます。

#### 園から見た成果

- ・保育参観をすることで、自分の保育を振り返り、環境構成や指導の参考になった。
- ・授業参観では、授業のねらいに向かって、学級の友達と共に考え、教師の投げかけを理解して学ぶ姿に子ども達の成長を感じた。園生活の学びがどんな力になるのか考える機会となった。

#### 小学校から見た成果

- ・保育参観をすることで、園での生活や遊びの中で、どんな力が育っているのかを知ることができた。
- ・年長児にはできることがたくさんあることが分かり、必要以上に幼く扱っていることはないかと気付かされた。
- ・小学校の学習とのつながりを感じる機会となった。

浦安市では、教育委員会と健康こども部保育幼稚園課が市立の保育園・幼稚園・認定こども園を訪問します。当日は行政職員だけでなく、他園・他校の職員にも保育を公開しており、幼児教育の理解の推進につながっています。また、参観者を含めた話し合いの機会をもつことで、幼児理解や保育の資質向上と保育内容の充実を図っています。

この他、日頃から中学校区ごとで、教職員による保育・授業参観を実施しています。参観週間期間を設定したり、参観後の話し合いを取り入れたりするなど、設定方法を工夫し、相互理解が更に深まるよう連携を進めています。

### (3) カリキュラムでつなぐ

## 各中学校区におけるランドデザインの策定と活用

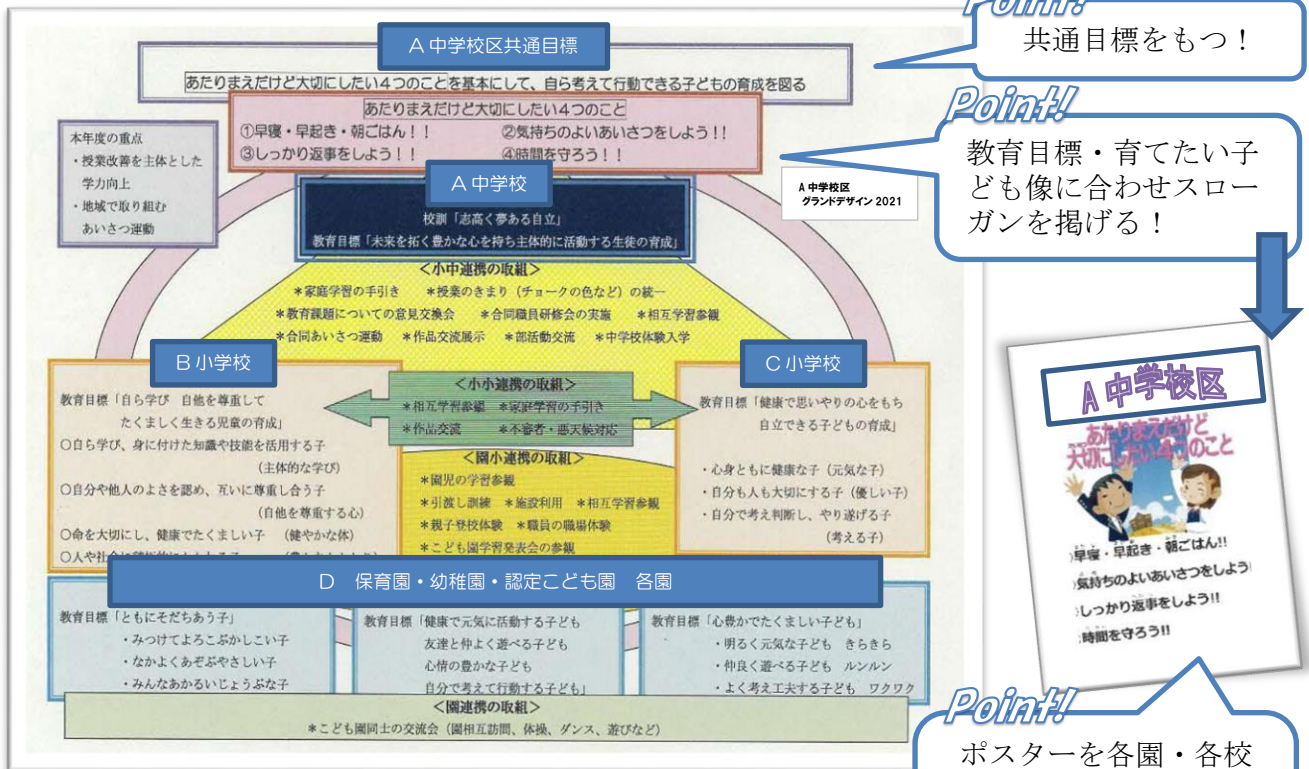
#### 取組の目的：

中学校区のランドデザインを共有することで、お互いの保育・教育目標を確認し合うと共に、地域の子ども達を同じ方向性で共に育てていく。

#### 内容：

- ・市内9中学校区全てにおいて、実態に合わせランドデザインを策定する。
- ・ランドデザインの中で、園・小学校・中学校で、共通の育てたい子ども像・教育目標を掲げる。
- ・共通の教育目標に向かい各園・各校の特色を生かし教育活動を進める。また、経過や成果を共有し連携する。

#### ランドデザインとその活用例 ～A中学校区の場合～



中学校区毎に毎年開催している「園・小・中連携の日」等の場を活用し、教職員同士が教育目標に向かう取組内容や成果、今後の課題等について共有しています。

ポスターを各園・各校に掲示。学校・地域・家庭が一体となり取り組めるようにする。

#### 園・小学校から見た成果

- ・就学前から義務教育までの9年間を見通した教育の中で、園や小学校としてできることを考え、保育・教育に反映することができた。
- ・分かりやすいスローガンやポスターが作成されたことで、教育目標を周知しやすく、職員だけでなく、子ども、保護者も意識することができた。

#### (4) 保護者との連携でつなぐ

### 園の保護者会に、小学校職員が参加

#### 取組の目的：

- ＜保護者＞  
小学校や新1年生の生活の様子を知り、不安や疑問の解消につなげる。
- ＜小学校＞
  - ・入学前に家庭で取り組んでほしいことを伝える。
  - ・保護者が抱えている不安を知り、今後の対応に生かす。

#### 内容：

年中・年長児クラスの保護者を対象に、学区内の小学校職員（校長・教頭・教務主任等）より小学校入学についてのお話を聞く。



#### ＜保護者に配布した資料の一部＞

小学校の先生に聞きました！  
1年生にはこんなことを教えています。

道員の出し入れを教えます。  
配付物が保護者の方に  
確実に届くようにします。

トイレの使い方を  
教えます。拭き方が  
難しいようです。

楽しく学ぶために話の聞き  
方、座る姿勢、立つ姿勢を  
教えます。  
また、「ハイ！」と手をあげ  
ることが楽しくなるような  
指導を心がけています。

友だちとなかよくできる  
ように子どもたちのよい  
ところを見つけ言葉か  
けをし、友だちに対して  
前向きになれるようにし  
ます。

3 困ったことがあったときは・・・

- ・わからないことや気になることがあったらまず、学級担任に相談してください。
- ・学級担任だけでなく学年職員、養護教諭、スクールライフカウンセラー等、学校の教職員全員で支援しています。
- ・児童育成クラブやはっぴいひろば（放課後異年齢教室）の職員とも連絡を取り合い、連携を図っています。
- ・園と小のスムーズなつながりを意識し、様々な取り組みをおこなっています。
- ・学校以外にも様々な支援の組織があるので遠慮なく声をかけてください。

就学に向けて家庭で取り組んで欲しいことについての話を聞き、最後に質疑応答を行いました。

（質問）まだ平仮名が書けません。入学前に練習した方がよいですか？

（答え）入学してから鉛筆の持ち方や平仮名の書き順を学びます。まずは家庭で姿勢よく椅子に座ることや、しっかりと話を聞く習慣を身に付けてください。

#### 園から見た成果

- ・直接話を聞くことで、学校や職員への親近感が沸いた。また、具体的な小学校生活のイメージが浮かび、我が子の新しい生活への安心感につながった。
- ・園の職員も同席し、就学に向けた具体的な取組を学ぶことができた。

#### 小学校から見た成果

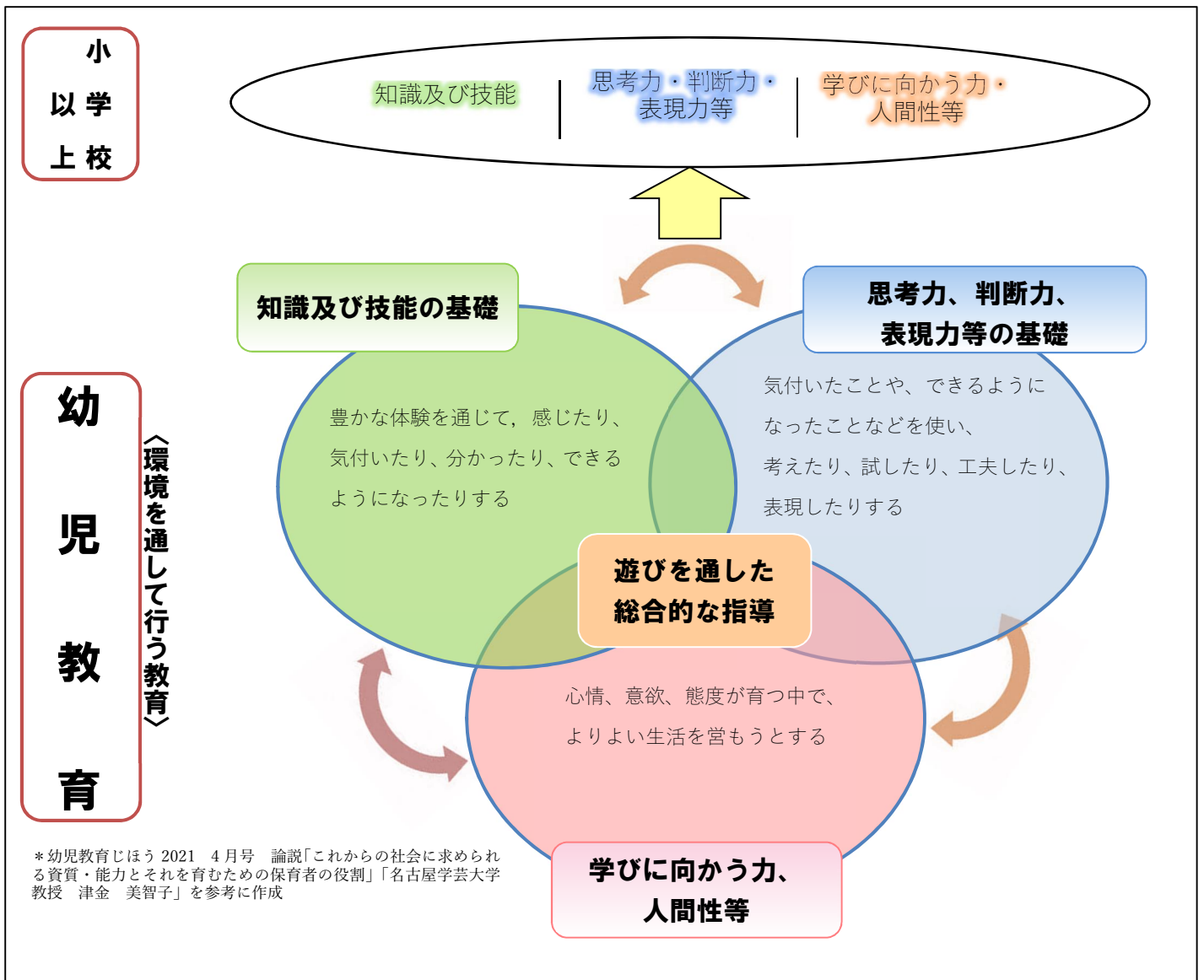
- ・入学前の保護者が、どのような疑問や不安を持っているかを、捉えることができた。
- ・就学前に家庭で取り組んでほしいことを、事前に伝えることができた。

#### 4 幼児教育から小学校教育の「学び」のつながり

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿として、特に5歳児後半に見られるようになる姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として明記しています。園では、各保育者がこの姿を念頭に置いて、幼児教育に取り組んでいます。

##### 《幼児期の終わりまでに育ってほしい姿》

①健康な心と体	②自立心	③協同性	④道徳性・規範意識の芽生え	⑤社会生活との関わり	⑥思考力の芽生え
⑦自然との関わり・生命尊重	⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	⑨言葉による伝え合い	⑩豊かな感性と表現		



## 具体的な取り組み

園・小の  
つながり  
事例Ⅰ

# 「みてっ！さかなのおうち」 ～ソフト積み木～2歳児6月

ねらい

- ・積み重ねが不安定なスリルを味わう。
- ・形や大きさの違いを体感する。
- ・バランスのとおり方を考える経験を通して、構成遊びの楽しさを知る。

### 活動内容と10の姿

#### <活動のプロセス>

積み木を積み重ねて遊ぶ。 ①⑧

#### 保育者・教師の関わり

遊びに夢中になれるだけの十分な広さを確保する。

人と関わりながら、積み木の構成を繰り返し楽しむ。 ③④

一人一人の気付きを見守り、楽しい気持ちへの共感を示して遊びの意欲を高める。

形や大きさを確認しながら、自分のイメージを形にすることに夢中になる。 ①③⑥⑧

### 10の姿と子どもの様子

#### ①健康な心と体

自分の体と同じ大きさの直方体を持ち上げる、円筒形を転がす、立方体を並べた上を歩くなど、様々な体の動きを使って遊ぶ。

#### ③協同性

幼いなりの言葉で「ここに置いて」「ここいい？」と声を掛け合いながら積み重ね、思いが通じると歓声や笑い声でお互いの感情を共有する。

#### ④道徳性・

#### 規範意識の芽生え

イメージの共有ができているようで、完全ではない年齢。積み木の取り合いやイメージの不一致により「やめて」や「しないで」と言われて相手の気持ちに気付く。



#### ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びの中で、積んだり並べたりすることで起こる大きさの変化、形の違いや名称に触れ「大きくなった」「同じ(形)」「四角いっぱい」など言葉にする。

#### ⑥思考力の芽生え

積み重ねていくとバランスが不安定になり、崩れてしまうことに気付く。それ以降は重ねる際に下段とのズレが少なくなるよう、丁寧に積む姿、慎重に遊ぶ姿が増える。

学びの

芽生え

- ・遊びを通して他者の存在に気付き、一緒に居ることの心地よさや葛藤を繰り返しながら、「友達」や「仲間」としての関係に興味を抱く。
- ・バランスを取ったり丁寧に重ねようとしていたりすることで、手先が器用になり「もっと遊びたい」という意欲が生まれ、その後の道具を使った活動にすすんで取り組めるようになる。
- ・夢中になって遊ぶことで集中力がつき、「あれは何?」「これはどうなる?」と探究することで思考力が養われて、自らが成長していくことに意欲と自信をもつ。

ねらい

- ・水に色をつける過程や混色の面白さに関心をもち、楽しさを味わう。
- ・試行錯誤を重ね、自分でできることに喜びや達成感を感じる。
- ・友達や保育者と思いや考えを伝え合う。

活動内容と10の姿

〈活動のプロセス〉

色水の作り方を知る。  
色水を作る。 ④⑥⑦

保育者・教師の関わり  
三原色の絵の具を用意する。  
やってみようとする意欲やなんで？どうして？と感じた気持ちを尊重して見守る。

色の混ぜり合いを見る。  
混色する。 ③④⑥⑦⑧⑩

子どもの気付きや発見を見逃さず、友達やクラス全体と共有できるようにする。

自分だけではなく、友達と場や感情を共有しながら、試行錯誤して色水と関わる。

③④⑥⑦⑧⑩

10の姿と子どもの様子

③協同性

互いに持っている色水を融通し合い、混合割合を話し合いながら、イメージした色を友達と一緒に作り出す。

④道徳性・規範意識の芽生え

用具を順に使用したり、色水をこぼさないよう大切に扱ったりする。



⑥思考力の芽生え

容器の開け閉めや水の移し替え、混色の際の各色の割合などを、自分の考えのもとに工夫する。

⑩豊かな感性と表現

友達が作った色水を見て「どうやって作ったの？」と尋ねたり、必要な色を考えたりして組み合わせ、同じ色の作成に励む。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

並べたり移し替えたりして、色水の量を比べたり調整したりする。

⑦自然との関わり  
・生命尊重

水が冷たいこと、溢れること、流れることなどに気付き、友達と共有しながら関心をもって関わる。

学びの芽生え

小学校とのつながり

- ・友達と協力しながら色水の作り方を教え合ったり、模倣してみたりしている場が肯定的に捉えられている。友達の素敵な所を見て学んだり、自分に取り入れたりすることができる姿は、図画工作科における鑑賞活動につながっていく。
- ・水に色がつくさまや混ぜることでの色の変化、どの色を混ぜたら〇〇色が出来るといことを子ども達自身で試行しながら体験的に学んでいる。絵の具や水の量で濃淡がつくこと、三原色を用いて色を作り出すことを十分に体験しておくことは、絵の具の混色という学習に結び付いていく。

ねらい

- ・体を十分に動かして遊ぶ。
- ・友達と一緒にやる楽しさや難しさに気付く。
- ・自分なりに考え、それを友達と共有しながら試行錯誤する。

活動内容と10の姿

〈活動のプロセス〉

遊んだ後のマットを片付けようと一人で押すが重くて動かない。 ①

保育者・教師の関わり

一人一人の参加の仕方における多様性を認める。その際の気付きや心情をクラス全体で共有できるようにする。

友達と一緒に押す。話し合いながら、繰り返し試す。 ①②③④

子どもなりの試行錯誤やその結果を肯定的に見守る。必要に応じて仲介し、友達の気持ちや状況に意識を向けられるようにする。

マットを片付ける倉庫まで押す。友達と喜び合う。 ①②③④⑨

10の姿と子どもの様子

①健康な心と体

マットを押すという動作や友達と協力して行うことに楽しさを見出し、意欲的に体を動かして遊ぶ。

②自立心

押す力加減や体勢を工夫しながら、自分の力だけで足りない時には、友達に応援や協力を頼み、諦めずに最後までやり遂げようとする。



⑨言葉による伝え合い

友達に自分の思っていることを声に出して伝えたり、相手の話も聞いたりして、考えや気持ちを伝え合うことで心を通わせる。

④道徳性・規範意識の芽生え

よい所を認め合い、してはいけないことを注意し合う中で決まりを作ったり守ろうとしたりする。

③協同性

押す場所を譲り合ったり、どうしたら出来るかを話し合ったりしながら工夫してやり遂げ、喜び合う。

学びの芽生え

小学校とのつながり

- ・自分の体を支える動きを遊びの中で楽しみながら行い、様々な体の動かし方や使い方を幼児期ならではの遊びの中で十分に行っていくことは、マット運動や跳び箱運動などにつながる。
- ・子ども達自身で意見を出し合い、よりよい方法を模索し見出していく経過は、自分の思いだけでなく相手の思いも受け入れながら、目的達成のために協力して試行錯誤する機会となり、主体性を育むことにつながる。

# 「色を並べてみよう」 ～自然物を使った色水遊び～ 5歳児6月

ねらい

- ・身近な植物に関心をもって遊びに取り入れることで、自然のもつ色の美しさや色が混ざる不思議さを味わう。
- ・自分なりのめあてをもって、考えたり、試したり、工夫したりして遊ぶことを楽しむ。

## 活動内容と10の姿

## 10の姿と子どもの様子

<活動のプロセス>  
花を育てる。 ⑦

### 保育者・教師の関わり

花に関心をもてるよう、子どもの目に入る場所にプランターを設置し、皆で水をあげたり、花がらを取ったりする時間を作る。

色水遊びをする。 ②⑥⑦⑨⑩

自分なりに考えたり試したりする姿を見守り、時間や場を保障する。

色水を並べて遊ぶ。 ⑥⑦⑨⑩

並べたり、混ぜたりすることを楽しめるように、透明のカップを増やす。

### ②自立心

自分で用意したり、片付けたりして遊ぶ。繰り返し遊ぶ中で、すり鉢や漏斗などの道具の使い方が分かるようになる。

### ⑥思考力の芽生え

自分のめあてに向かって、すり鉢に入れる水の量を調整したり、色水作りに使う草花や混ぜる色水の組み合わせを考えたりして、工夫して遊ぶ。繰り返し試す中で、色や水、植物の性質や特徴に気付く。



### ⑦自然との関わり

自分のプランターに水やりをしたり、花がらをとったり、愛情をもって世話をする。身近な植物に関心をもち、遊びに取り入れることで自然のもつ色の美しさを感じる。

### ⑩豊かな感性と表現

色の濃淡に気付いたり、混色によって色を新たに作ったり、並べたりすることで色彩感覚を身に付け、色の表現を楽しむ。

### ⑨言葉による伝え合い

色水を作ったり、並べたりすることを楽しみながら、気付きや考えを友達と伝え合う。

小学校との

つながり

- ・園では考えたり試したりしながら繰り返し遊ぶことができるよさがある。小学校でも、1年生で朝顔を使った色水遊びをしたり、2年生で絵の具を使った色水遊びをしたりする。園で自分なりに試したり考えたりしながら遊んだ経験が土台となり、小学校での学びが深まっていく。
- ・園では色水遊びに限らず、自然物を使った様々な遊びを経験している。1年生の生活科「あきとなかよし」の単元では、園での遊びを思い出してアイデアを出す姿が見られる。園での経験が、主体的に取り組む姿につながっていく。

ねらい

- ・自分達で育てたじゃがいもの生長に興味をもち、収穫する喜びを味わう。
- ・身近な野菜の栽培や収穫を経験し、それを調理することで食への関心を高める。

### 10の姿と子どもの様子

#### 活動内容と10の姿

##### 〈活動のプロセス〉

昨年度の年長児への憧れから、自分達もカレーパーティーをしたいと考え、じゃがいものを植える。①③⑦

##### 保育者・教師の関わり

じゃがいもの育て方を知らせたり、一緒に調べたりする。

世話をする。③⑦

意欲的に世話をする子どもの姿を見守り、生長の過程を学級の皆で共有する機会を作る。

収穫する。①③⑦⑧⑨

カレーパーティー開催に向けて話し合いの時間を設ける。  
(他の材料の準備・調理・環境設定等)

年少・年中児をカレーパーティーに招待し、一緒に食べる。②③⑨

#### ① 健康な心と体

カレーに使われていた野菜の育て方や生長の過程に関心を持ち、進んで世話をす。さつまいも掘りの経験を思い返しながら、力を入れて蔓を引っ張ったり、土を掘り返したりする。

#### ② 自立心

活動に必要なものや役割を考え、準備を進める。年少・年中児を招待することに期待をもちながら、栽培活動や調理に取り組む。考えたことを実現することで年長児としての自信をもつ。

#### ③ 協同性

学級で話し合い、相談したり、思いを共有したりする。収穫時には友達に「一緒に掘ろう」と声を掛け、蔓を引っ張る。収穫の喜びや協力して活動する面白さを、学級の友達と分かち合う。



#### ⑦ 自然との関わり・生命尊重

自分達で世話をした野菜がどのように生長していくのか、興味をもって観察する。実際に収穫することで、土の中で様々な大きさのじゃがいもが数多く実っていたことに感動したり、不思議さを感じたりする。

#### ⑨ 言葉による伝え合い

収穫の様子を見守る年少児に、自分達がしていることを言葉で伝える。また、じゃがいもを使ったカレーを作って、一緒に食べることを説明し、心を通わせる。

#### ⑧ 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

収穫したじゃがいもの形や大きさの違いに気付き、並べて数を数えたり、見立て遊びをしたりする。また、感覚的に重さの違いに気付く。収穫後、計量器を使って表示された数字の違いに興味をもつ。

小学校との

つながり

- ・遊びを通して、実際に見たり触れたりしていることで、理科で出てくる「実」や「葉」の名称を身近に感じている。
- ・収穫したじゃがいもの大きさや形を比べる、実際に重さを量る遊びを通し、実際に触れながら考えることで、量感を掴めるようになり、算数科の学習へとつながる。
- ・年少児への伝え方を考えることは、相手意識をもつ経験になる。
- ・じゃがいもの形を他の物に見立てる遊びは、図画工作科の造形活動、多様な表現方法の学びにつながる。
- ・カレーパーティーを開催するまでの活動を通じて、自然や生命への尊重、他者との関わりや協同的な学びの楽しさを知ることにつながっていく。

ねらい

- ・友達と一緒に協力しながら、自分の役目を果たす。
- ・友達と関わりを深め、思いやりをもつ。
- ・感謝されることで満足感を味わい、自信をもつ。

### 活動内容と10の姿

<活動のプロセス>  
当番活動の方法を知る。

#### 保育者・教師の関わり

前年度の年長児に当番活動の内容を教えてもらう機会を作り、次年度への期待感を育めるようにする。

友達と一緒に行動することで、安心して役割を果たす。

②③⑤⑧

他者の感情や相手の視点に気付くような働きかけをし、思いやりを育めるようにする。

友達が困っていることに気が付き、助け合いながら、一緒に活動する。②③

今日の当番の紹介や、頑張った思いの発表の場を作り認められる経験を積めるようにする。

いろいろな保育者や友達に認められ、自己発揮し、自信にする。②⑤

### 10の姿と子どもの様子

#### ②自立心

当番の仲間と各クラスを回り、出席人数を聞きボードに書く、最後に給食室まで伝えにいくという自分の役割を自覚する。順番に行いながら、数字の書き方を教え合ったり、荷物を分担し持ったりと、色々な課題に、友達と考え工夫しながら最後までやり遂げている。自分の力で行うことで、達成感を味わう。



#### ③協同性

友達の存在を支えにして、安心して活動に臨み、共通の目的をもち、一緒に行う楽しさを味わう。共感し助け合うなかで関わりを深め思いやりの気持ちをもつ。

#### ⑤社会生活との関わり

保育者や給食員、年下児との触れ合いから人との様々な関わり方に気付く。日常の挨拶やマナーを覚え当番としての役割を喜んで行う。クラス外の人とも親しみをもつ。他クラスの人数を給食室へ伝えたり、今日のメニューを聞いたり、皆で、情報を共有し生活に役立てる。

#### ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

廊下の歩き方「→やじるし」を見ながら歩いたり、今日の日付やクラスの人数などを聞き、見本を見ながら調べたり数字を写したりする。

小学校との

つながり

- ・当番活動で友達と一緒に協力して取り組むことは、小学校の「委員会活動」や「日直」「係活動」などにつながる。また、場面に応じて考え、試し、工夫して対応する経験を重ねることで、何をすべきか自分なりに考えて行動できるようになる。
- ・「日にち・人数」などを調べたり書いたりしていくことで、生活に結び付いた数が分かり、興味関心が広がる。

ねらい

- ・力を合わせて作品を作り出す喜びを味わいながら、思いをもって楽しく活動しようとする。
- ・表現の仕方を考え、材料の特徴を生かし、作る過程を通して自分の見方や感じ方を広げる。

### 活動内容と10の姿

#### <活動のプロセス>

一人一人の作品をつなげ、大きな絵画を作ることを知る。

#### 【保育者・教師の関わり】

原画や教師見本を見せ、6年生への感謝や1年生への歓迎の気持ちを表す作品であることを知らせ、意欲につなげる。

お花紙の色や重ね方を工夫する。 ③④⑤⑥⑩

お花紙のちぎり方や接着剤のつけ方に気を付けるように声をかける。

個々の作品をつなぎ合わせて、隣接した場所の色合いやバランスが整っているか確認する。 ③⑤⑥⑩

グループの友達や地域の講師の方に進んでアドバイスをもらってよいことを伝える。

全員の作品をつなげ、完成作品を鑑賞する。 ⑨

#### ⑩豊かな感性と表現

原画に合ったお花紙の色を選んだり、木や花びらの質感をどう表現するか考えたりして、色の重なりや美しさ、おもしろさに気付く。

#### ③協同性

グループで色合いや表現の仕方を共有したり、違いに気付いたりして、力を合わせてよりよい作品にしようとする。

#### ④道徳性・規範意識の芽生え

共同で使うお花紙の扱い方や接着材の使い方を守り、みんなが気持ちよく材料を選んだり、楽しく活動したりできるようにする。

#### ⑤社会生活との関わり

地域の講師の方と積極的に関わり、アドバイスをもらったり、相談したりして思いを共有し、自分の見方や感じ方を広げる。

#### ⑥思考力の芽生え

原画のイメージの色に近づけるために、試行錯誤しながらお花紙の色を選ぶ。また、お花紙の特性である薄く柔らかい感触を生かして、ちぎり方や重ね方を考える。

#### ⑨言葉による伝え合い

完成作品を鑑賞し、よさを伝え合う。友達の発言から、「私は~と思った。」と発表をつなげていき、自分の思いを言葉に表す。



### 園とのつながり

- ・園での異年齢交流が、小学校での異学年交流(ペア学年での遠足、低・中・高学年での運動会の表現運動、委員会・クラブ活動など)につながっている。また、園でも年長後半になるとグループ製作を行うことがあり、小学校での様々なグループ活動の土台となっている。
- ・地域の方との交流は、園でも積極的に行われている。就学前から経験していることで、小学校でも抵抗感なく地域の方や外部講師と交流することができる。
- ・原画(手本)があることで、活動のイメージがしやすく、戸惑いが減り、自信をもって活動に取り組みやすくなる。様々な活動の中で、保育者や教師が手本を示すことは、子どもの意欲付けや不安感の軽減になることもある。

ねらい

- ・ 町探検の活動を通し、施設や働いている人と関わり、自分たちの住んでいる町のよさについて考えたり、安全に生活したりすることができる。

### 活動内容と10の姿

#### <活動のプロセス>

「春の町をさんぽしよう」

通学路や学区の様子を見て、自分たちの住んでいる地域に興味をもつ。 ②⑩

#### 【保育者・教師の関わり】

自分たちの学校の周りには、どんなお店や公園があるか、子どもの気付きや興味を尊重する。

「わたしの町はっけん」

行きたい場所や質問したいことなど計画を立て、グループごとに探検し、発見したことをまとめる。 ③⑤⑥⑩

春に行った探検を振り返り、もう一度行きたい場所や会ってみたい人を考え共有させる。  
グループでの話し合いながら、伝えたいことをまとめられるようにする。

「町のきらりひろがれ」

学習発表会で、家の人や他学年を呼んで発表し、よさを伝える。 ③⑤⑥⑩

### 10の姿と子どもの様子

#### ②自立心

学習の活動から、新たな疑問を見つけ、調べたいことについて自分たちで計画を立てる。

#### ③協同性

グループで道順を確認して、目的地まで行く。  
発表会では、グループで伝えたい方法や内容を話し合い、作業を分担しながらわかりやすくまとめる。



#### ⑩豊かな感性と表現

町のよさや人との関わりのおもしろさに気付き、これから自分がどのように生活をしていけばよいか考える。

#### ⑥思考力の芽生え

実際に自分の目で見たり聞いたりすることで、様々な疑問を解決したり、これからの過ごし方を考えたりする。友達の発表を聞くことで、新たな発見にもつながる。

#### ⑤社会生活との関わり

地域の人たちと触れ合う中で、人との様々な関わりや気付き、相手の気持ちになって考え、地域に親しみをもつ。

### 園とのつながり

- ・ 学区探検では、自分の住み慣れた地域のよさや新たな発見に気付く。保育園や幼稚園まで通った道、園の皆とお散歩に行った公園、地域の店など、慣れ親しんだ場所をまた振り返る。就学前から慣れ親しんだ場所だからこそ、変化に気付いたり普段から疑問に思っていたことを解決したりすることができる。興味を持って取り組める活動となっている。
- ・ 後期には、グループで店に行き、実際に見たり質問したりして自分たちの疑問を解決していく。その際、グループで思いを共有するためにも、自分の意見を伝えたり相手の意見を聞いて取り入れたりする活動が大事になってくる。就学前からグループの話し合いを取り入れていることで、自分の意見を言ったり、皆の意見をまとめたりすることがスムーズにできる。

## 5 幼児教育と小学校教育のつながりと違い

### 幼児教育

#### 遊びを通して行う指導

はじめに活動  
(遊びや生活)があり、  
それらを通して  
内容(育てたい子どもの姿)  
に近づけていく。

※活動と内容  
の順番が逆

- ・生活リズムに合わせた一日の流れ
- ・身の回りの「人・もの・こと」が教材
- ・総合的に学んでいくための環境

### 小学校教育

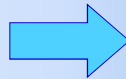
#### 教科等の学習を中心とした指導

はじめに身に付けるべき  
学習内容があり、  
それを習得するために  
学習活動がある。

各教科、特質に応じて  
教科横断的・系統的に学ぶ

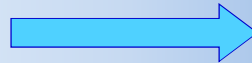
- ・基本的に時間割に合わせて学習
- ・教科書を中心として教材
- ・系統的に学ぶための学習・教室環境

学びの芽生え



自覚的な学び

### 方向目標



### 到達目標

<育みたい資質・能力>  
知識及び技能の基礎  
思考力、判断力、表現力の基礎  
学びに向かう力、人間性等

<育てたい資質・能力>  
知識及び技能  
思考力、判断力、表現力等  
学びに向かう力、人間性等

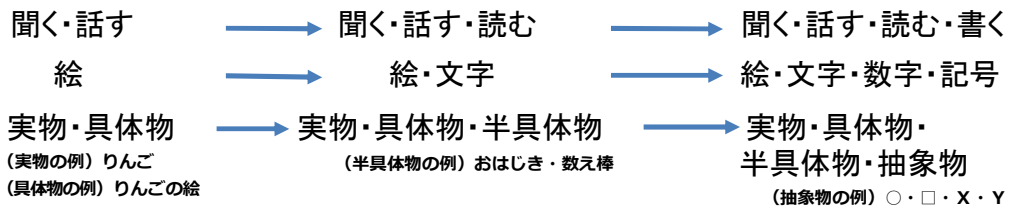
接続期のカリキュラム

保育所保育指

「浦安市園・小連携 5歳児の学びのカリキュラム・  
スタートカリキュラム」「架け橋期のカリキュラム」

小学校学習指導要領

### 認知・コミュニケーションの変化



「主体的・対話的で深い学び」は、  
幼児教育から小学校教育につながる大切な学びです。

他にも、園生活から小学校生活へいろいろなことがつながっています。

園生活

小学校生活

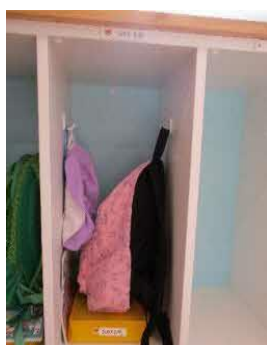
< 身の回りの整理整頓をする ～自分のものをしまふ場所を覚えよう～ >



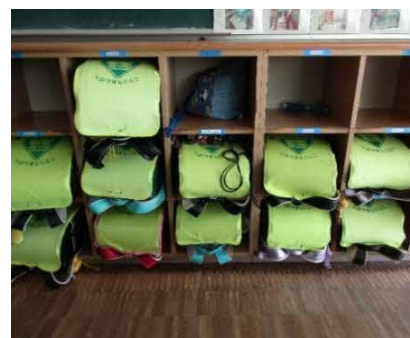
< 3歳児 >



< 4歳児 >



< 5歳児 >



< 小学校1年生 >

タオル掛け、靴箱、ロッカーなど様々な「自分の場所」に、目印としてマーク（イラストシール）が付いています。個人のマークがあることで、文字が読めなくても、自分の場所が明確になります。「マークのみ」「マークと氏名」「氏名のみ」等、発達段階に応じて工夫しています。

持ち物の整理整頓は、園生活の積み重ねが生かされています。

< 身の回りの整理整頓をする ～自分のものはきちんとしまおう～ >



< ロッカーの個人用引き出しの中 >

自分のクレヨンやハサミ等は、ロッカーの自分の引き出しに入れて管理します。



< 自分の机の引き出しの中 >

必要なものが直ぐに取り出せるように道具箱を机の引き出しに入れてあります。自分で準備・管理するものが増えます。

※自分の持ち物である道具や皆で共有する物を整理整頓することは、小学校での生活習慣や学びへの意欲や意識、学習規律の習得につながっていきます。

< 見通しをもって生活する ~日付を知る~ >



黒板には、その日の日付や日直が書かれています。

日めくりカード等を用いて、子ども達が生活の中で、日にちや曜日を知ることができるようにしています。

< 見通しをもって生活する ~一日の流れを知る~ >



その日一日の流れを、文字に絵や写真を添えて知らせています。

時間割は、教科ごとに色分けされ、わかりやすくなっています。

< 見通しをもって生活する ~時間を知る~ >

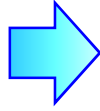


片付けやごちそうさまなどの時間を、事前に知らせておくことで、気持ちを切り替え、次の活動にスムーズに移行できるよう配慮しています。

学校の授業時間は、1時限 45 分間です。子ども達は、チャイムを聞いたり、時計の針を見たりして行動します

※月日や曜日、時間、そして一日の予定等、生活の流れを意識するきっかけを作っていくことは、見通しをもって行動する力につながっていきます。

< 約束事 ～学級のルールを共有する～ >

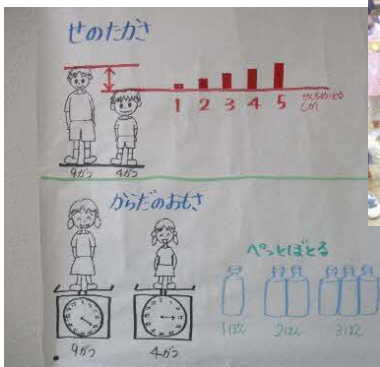


<約束事は、廊下側の壁に掲示されています>

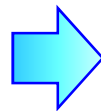
<よい姿勢で話を聞こう>  
椅子や床等に座って活動する際には、正しい姿勢を意識できるよう言葉かけをしています。

園生活の積み重ねや体力の向上によって、授業中の姿勢も保たれています。学校では、学級でのルールは、掲示物などを通して周知したり意識づけたりしていきます。

< 実感を伴う体験を通した学びから抽象的な学びへ >



<「2キロ重くなったよ。2キロってこれくらい?>



<算数セットを使った学習>

見て触れて感じて、直接体験を通した気付きや学びを大切にしています。

授業の中では、抽象物を使って考える経験も始まります。

< 園と学校で同じ経験 ～新たな学びの視点の獲得へ～ >



<育てたふうせんかずらをとって遊ぶ子ども達>

自分たちが植えた花の芽が大きくなる喜びや実をつける不思議をたくさん味わっていきます。

<生活科の授業のひとコマ>

植物の観察日記をつけ、日々の変化に注目する等、新たな視点を持ち、様々な気付きを獲得していきます。

令和7年度「浦安市学校教育推進計画」後期に基づく  
幼児期から小学校への学びと育ちを豊かにつなぐための

## 浦安市園・小連携

# 5歳児の学びのカリキュラム・ スタートカリキュラム

幼稚園・認定こども園・保育園・小学校

令和4年（2022年）3月より、5歳児から小学1年生の2年間で「架け橋期」と称して、文部科学省で「幼保小の架け橋プログラム」が進められ、全国的に幼保小の接続期のカリキュラムや連携体制の推進が図られています。本市では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領の実施を通して、園と小学校との円滑な接続を図っています。子どもや教員の交流、連携にとどまらず、教育課程の接続を十分に行うことが必要です。

浦安市学校教育推進計画の具体的施策として、「園小中連携・一貫教育」を推進しています。就学前の「遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動」から、小学校の「教科学習が中心の小学校以降の教育活動」への円滑な移行のために、園と小学校が互いの理解を一層深め、双方の質の向上を目指します。

そこで、子ども自身の生活や育ち、社会の変化、今日的な課題からも園・小学校が連携していくことの重要性を職員が再認識できるよう、このリーフレットを作成しました。各園・各小学校の実態に応じて、指導の連続性・一貫性をより高めたカリキュラムを作成するためにこのリーフレットをご活用ください。

令和7年3月  
浦安市教育委員会





浦安市就学前「保育・教育」指針  
いきいき浦安っ子

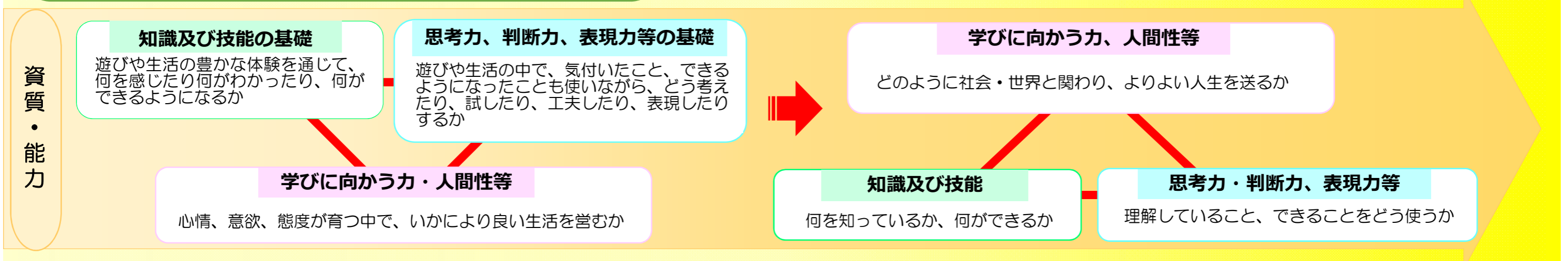
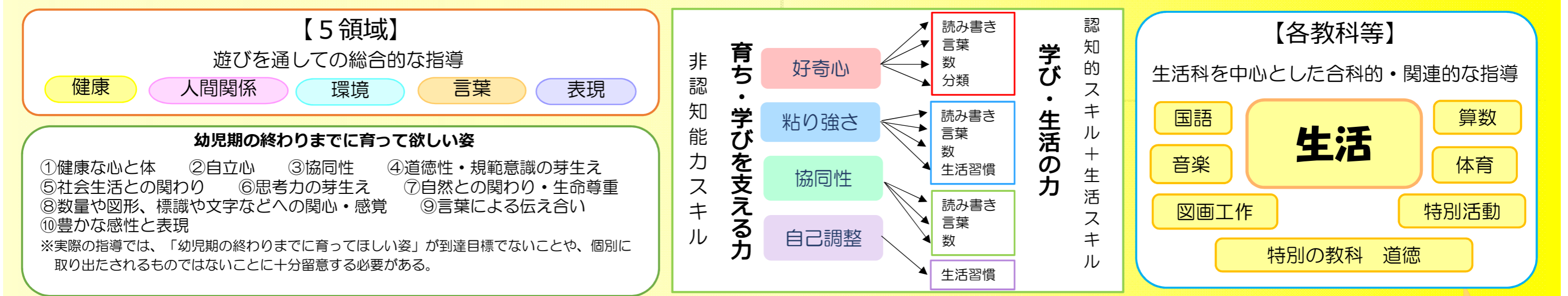
接続期 (5歳児10月～小学1年4月～6月)

浦安市園・小連携

浦安市小中連携・一貫  
教育カリキュラムの指針

## 5歳児の学びのカリキュラム・スタートカリキュラム

<p>『学びの芽生え』・学ぶということ意識して行うのではなく楽しいことや好きなことに、夢中になって取り組むことを通して様々なことを学んでいく</p>	<p>『自覚的な学び』・学ぶということに意識があり、集中する時間と休息等の区別がつき計画的に学びを進める</p>
<p>配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の学びを前倒しするのではなく、「やりたい、伝えたい」という気持ちが高まるような教育・保育の工夫をします</li> <li>・「遊び込む・夢中になる」体験を充実させ、自分の気持ちや行動を調整する力を養います</li> </ul>	<p>配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期に培った力を基礎として、学習中心の生活につなげていくよう指導内容や指導方法を工夫します</li> <li>・安心して学べる環境を整え、個に寄り添いながら「学校って楽しいな、明日は何をするのかな」という意欲や自信を養い、学びの動機付けを図ります</li> </ul>



幼児教育 (経験カリキュラム)      小学校教育 (教科カリキュラム)

【10月～12月（小学校に期待感を高める時期）】

【1月～3月（就学に期待を高め、進学することを意識する時期）】

【幼児期の経験を生かして育てる力・目指す姿】

○規則正しい生活ができる。  
○自分のことは自分でできる。

- 危険な場所が分かり安全に気を付けて行動する。
- 健康な生活や病気の予防に関心をもち、意識して行動する。
- 自分の所持品の整理や脱いだ服の始末を進んで行う。
- 園や学級のものも自分のものと同じように片付ける。
- 生活に必要な活動を自分から進んで行う。
- 先を見通したり、時間を意識したりしながら友達と声を掛け合って生活する。
- 困ったときは自分で考えたり、周りの人に聞いたりする。
- 共同で使う遊具を大切に使う。

- 危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。
- 健康な生活に興味をもち、生活に必要な習慣やリズムを身に付ける。  
（※ハンカチの使用、午睡なしでの生活への切替）
- 活動の区切りや時間を意識しながら生活する。
- 就学への期待をもち、自信をもって行動する。
- 友達とルールを考えながら、体を動かす遊びに十分に取組む。
- 自分の遊びや生活の場を整えようとする。
- 自分たちの活動を振り返りながら、当番の仕事の引き継ぎをする。

健やかな体

【体】

○自分のことが自分でできる。自分でできることを増やす。

- 決められた通学路を通して登下校をする。
- 朝、授業、帰りの支度をひとりでする。提出物を出す。
- 学校の決まりや時間を守る。
- 時と場に応じた挨拶や返事をする。
- 場に応じた整列の仕方を覚え、静かに待ったり、順番を守ったりする。
- 場に応じて必要な我慢をする。
- 自分の体の具合など、自分で話す。
- 机の中やロッカーの中の整頓をする。
- 自分の持ち物やみんなが使うものを大切に扱う。
- 食事のマナーを守り、給食を楽しむ。



○思いや考えを言葉で伝えることができる。  
○きまりや約束を守ることができる。

- 生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。
- 自分の経験したことや考えたことを相手に分かるように話す。
- 友達の話をよく聞き、遊びのイメージを共有しながら、自分たちで遊びを進めていく。
- 友達とのかかわりや生活を通して、きまりの必要性や大切さが分かる。
- 物事のよし悪しを自分で考えて行動し、問題が生じたときは自分たちで解決しようとする。
- 友達と役割を分担したり、交代したりしながら、遊ぶ楽しさを味わう。
- 活動に合わせてルールを考えたり、工夫したりしながら遊ぶ。
- 遊びを楽しむ中で互いの良さを認め合う。
- 地域の人や高齢者、異年齢の子どもとふれあい、人の役に立つ喜びを味わう。

- 大勢の友達と目的を共有し、実現するために、保育者や友達と相談しながら見通しをもって遊びを進める。
- 目的に向かって課題に根気強く取り組んだり、工夫したりして、やり遂げた喜びや充実感を味わう。
- 共通の課題に向けて挑戦したり、話し合ったり、役割を分担したりして、目的を果たす喜びを味わう。
- 学級全体で一つの活動などに取り組んだり、共通のイメージをもってそれぞれの遊びをつなげたりする。
- 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。

自他を尊重する心

【徳】

＜生活の中で＞

○クラスのことをみんなでできる。友達との活動を楽しむことができる。

- 男女を問わず、友達と遊んだり、活動したりする。
- 「一緒に」や「ありがとう」などふわふわ言葉を使う。
- 「ごめんなさい」が素直に言える。
- 上級生（主に2年生や6年生）とかかわりをもつ。
- 係や当番活動に協力して取り組む。
- 給食の時間を友達と楽しむ。



＜学習の中で＞

○学校生活にかかわる人・場所・物に関心をもち、学習に取り組むことができる。

- 「学校探検」等で校内の様子に慣れるとともに使い方のルールを知り、友達や先生と学ぶ楽しさを味わう。
- 校内の自然の観察やアサガオの栽培を通して、自然とのかかわりを楽しむ。
- 友達の発表を聞き、感想や意見をもつ。
- 図工等の作品作りを一緒に楽しんだり鑑賞しあったりする。
- 音楽や体育、特別活動等のペアやグループ活動をしながら自分や友達の良さに気付く。

○様々な遊びや体験をする（体を動かす・自然とふれあう等）。  
○文字や数に興味をもつ。

- 身近な環境に積極的にかかわり、生活の中に取り入れたり物の仕組みに関心をもち使ったりし、生活を豊かにする。
- 飼育動物や昆虫等の世話を通して、生態や飼育の楽しさをもつ。（絵本・図鑑・事典などを活用する）
- 遊びの中で使う物の数や人の数を考えたり、数の多少を比べたりする。  
（リレーやドッジボールのチーム分けやゲームの勝敗等）
- 遊びの中で文字や数字、絵文字等に興味をもち、読んだり、遊びに取り入れたりする。
- 友達と一緒にリズムカルな動きを楽しむ。
- 物語や話の続きに興味をもち、クラスの友達と楽しんで聞く。（長編の物語の読み聞かせ）
- 絵本や物語に親しみ、イメージを豊かにし、演じたり、イメージを膨らませたりして遊ぶ。  
（劇遊びのストーリーを作ったり、動きを考えたりする）。

- 季節の移り変わりとともに生活にも変化があることを知る。
- 冬の自然現象に興味をもち、見たり試したりする。
- 生活の中で数や文字の必要性や便利さに気付き、書いたり読んだり、比べたり、分けたりする。
- 就学することを喜び、自分の成長に自信と自覚をもつとともに、身近な人に感謝の気持ちをもつ。
- 考えたこと、感じたことをいろいろな方法で表現する。



主体的な学び

【知】

○生き生きと学習することができる。

- 話を最後まで聞く。
- 鉛筆を正しく持ち、丁寧に書く。
- 発表のルールを知り、手を挙げて発表をする。
- 道具を安全に大切に扱う。
- 自然とのふれあいを通して、季節を味わう。
- 失敗をおそれずに挑戦し、最後までがんばる。
- 自分の考えや思いをもち、相手にわかるように話したり絵などで表したりする。
- かけっこや鬼遊び・遊具遊び等で思い切り体を動かす。



# 小学校 <スタートカリキュラム編成の手順>

- 1 幼児期の子どもの姿を**理解**する。——**園との連携**を図り、実態を把握する。
- 2 **期待する成長の姿**を具体的に話し合い、共有する。——学校・学年目標との連携を図る。
- 3 スタートカリキュラムを**編成**する。
  - ① 成長の姿（目標の姿）を**月**の単位で明らかにする。

<例>

以下の視点で学習を3類型に分類し、重点の置き方を考えて単元や学習活動を配列する。		4月	5月	6月	7月
	成長の姿（目指す姿）	<ul style="list-style-type: none"> <li>心をはぐす。</li> <li>安心感をもつ。</li> <li>先生や友達と仲良くする。</li> <li>学校や学級のルールを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や学級、学習のルールを守って生活する。</li> <li>先生や友達との関わりや学習を楽しむ。</li> <li>自分でできることは自分で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関わりや興味関心を広げる。</li> <li>主体的に取り組む。</li> <li>学校生活の時程に従って生活する。</li> </ul>	
♡安心感・人間関係づくり		♡			
◇合科的な学習		◇			
☆教科等を中心とした学習		☆			

- ① 単元の構成を工夫し、配列する（生活科との合科等）
- ② 単元計画に基づいた学習活動を**週**の単位で計画する。

<例>

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
朝		<めあて> ○朝の支度の仕方を知る。困ったときは6年生に聞くことができる。 ○朝の会の進行に慣れる。			
1		<b>道徳</b> ・よりよい学校生活 <b>生活</b> ・校舎めぐり	<b>学級活動</b> ・朝の過ごし方 ・廊下の歩き方 ・並び方 <b>道徳</b> ・礼儀「あいさつ」 <b>生活</b> ・校舎めぐり <b>音楽</b> ・校歌の練習	<b>生活</b> 「春の花を見つけよう」	<b>国語</b> 「なかよし」 ・ひらがなの練習 ・読み書き
2	<b>入学式（行事）</b> ・小学校の一員としての喜びを感じる。 ・教室や会場の環境を味わう。 <b>学級活動</b> ・教室や座席・トイレの位置を知る。	<b>国語</b> ・自分の紹介 <b>音楽</b> 「校歌を覚えよう」 <b>学級活動</b> ・下校の支度の仕方 ・下校の決まり	<b>国語</b> ・鉛筆の持ち方 ・線のおけいこ <b>算数</b> 「かずとすうじ」	<b>体育</b> ・体育着の着方 ・整列の仕方 ・準備運動の仕方 ・遊具遊び・鬼遊び	<b>発育測定（行事）</b> ・発育測定を正しく受けよう
3	・担任の名前を知る。 ・友達を知る。 ・返事や挨拶の仕方を知る。			<b>国語</b> ・線のおけいこ <b>図工</b> ・絵「自分の顔」	<b>学級活動</b> ・ふれあいゲーム <b>算数</b> 「かずとすうじ」

# 幼児期と小学校の学びをつなぐポイント

## 「子どもでつなぐ～場とともに～」

幼児が入学前に小学校の施設利用や、子ども同士がかかわる機会をつくるなどして交流を進めていきましょう。

### 園のねらい

- ・小学生への憧れや期待につながる活動。
- ・体験を通して、小学校生活を身近に感じられるようにする。
- ・幼児の気持ちに寄り添いながら、興味、関心が深まるように考え、交流する機会を楽しめるようにする。

### 学校のねらい

- ・自分たちの体験をもとに相手を考えて主体的に取り組む活動。
- ・園での経験を踏まえた活動内容や接し方になるようにする。
- ・1年生の学習活動を園児がイメージできるようにする。
- ・高学年児童には、園児が自分でできることは自分で行う活動になっているか、考えさせる。

**＜学校体験＞**

次は図書室に行くよ  
本がいろいろあるよ

次はどのくいの？

おいしいね

**＜給食体験＞**

すきなものはあったかな

どうやるの？

**＜交流会＞**

ここを折るよ  
(5年生)

## 「教職員でつなぐ」

幼児期と小学校の教育を互いの職員が参観し子どもの様子を見ることは、学びをつなぐ中で大切なことです。互いの教育を知り、子どもの育ちを共有していきましょう。

### 園のねらい

- ・授業参観や交流活動を通して、小学校教科の中で取り組む学びを知る(理解を深める)。
- ・学校と共有できる環境等を取り入れていく。
- ・幼児の様子を就学前に伝え、スムーズに学校生活が送れるように引き継ぎを行う(指導要録・引き継ぎ等)。



### 学校のねらい

- ・保育参観や事例検討等を通して幼児期の学びについて知る(理解を深める)。
- ・遊びを通した学びについて知る(実際に見て知る)。
- ・学びの形態(壁面制作や保育環境)を知る。
- ・発達段階に応じた活動や援助の在り方を知る。
- ・引き継ぎを行い、就学時の指導・支援に見通しをもつ。

## 「カリキュラムでつなぐ」※別紙参照

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、連携しながらカリキュラムの作成をすることが大切です。

### 園のねらい

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりにしながら、幼児の得意なところや更に伸ばしたいところを見極め、個々に応じた関わりをしたり、より自立的・協同的な活動を促したりする。
- ・意図的・計画的な環境の構成に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方・考え方」や資質・能力を育んでいく。



### 学校のねらい

- ・生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導も含め、子どもの生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った力が発揮できるような工夫を行う。
- ・幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげる。

## 「保護者との連携でつなぐ」

就学に向けては、子ども同様、保護者も大きな期待と共に不安を抱えています。子どもの育ちを支えるためにはその不安を解消することが大切です。園・学校が連携し、保護者を小学校につなぐ機会をもち、スムーズな学校生活をスタートさせましょう。小学校生活を見据えた子どもの育ちを共に支えられる工夫をしましょう。

### 園のねらい

- ・小学校に向けて身につけて欲しい生活習慣について伝え、家庭の協力を促す(学校から)。
- ・通信などを通して、小学校の様子を知らせる(園が保護者へ)。
- ・園での様子を日々伝え、就学に向けて変化してくる幼児の姿を丁寧に伝える(園から保護者へ)。
- ・就学に向けての相談をしたり、学校と情報を共有したりする。



### 学校のねらい

- ・入学当初の不安について、保護者の思いを十分に聞き取る。
- ・園の教職員から子どもや保護者の様子を聞き取り、個に応じた対応ができるように引き継ぐ。
- ・懇談会等で保護者と学習内容を共有し、家庭と連携した家庭学習の充実を図る。

**園・小学校・中学校**  
**<年間を通した連携や「かかわり」> (例)**

	1 学期		2 学期		3 学期
こどもでつながる	<p><b>1・6年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生の手伝い               <ul style="list-style-type: none"> <li>・始業前・支度・遊び</li> <li>・給食・清掃 等</li> </ul> </li> <li>○ペア活動</li> </ul> <p><b>1・2年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科での交流               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校探検</li> </ul> </li> </ul> <p><b>小</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「1年生を迎える会」</li> </ul> <p><b>園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の運動会参加・見学</li> <li>○小学校のプールで水遊び活動</li> </ul> <p><b>園・1年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科での交流               <ul style="list-style-type: none"> <li>・しゃぼん玉遊び</li> <li>・水遊び</li> </ul> </li> </ul>	園・小・中連携の日	<p><b>園・小・中</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○合同引き渡し避難訓練</li> <li>○作品交流</li> <li>○生きものふれあい教室</li> </ul> <p><b>園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の児童会活動</li> <li>「お祭り」への参加・見学</li> <li>○小学校の校庭や体育館で運動会の実施</li> <li>○小学校を使って避難訓練</li> </ul> <p><b>園・5年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びの交流</li> </ul> <p><b>園・6年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○園での職場見学・職場体験</li> </ul> <p><b>園・中</b> (家庭科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○園での職場体験</li> <li>○園の交流活動</li> </ul> <p><b>園・1年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科での交流               <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋みつけ</li> <li>・おもちゃ作り</li> </ul> </li> </ul>		<p><b>園・5年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の学校探検・交流会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や給食の見学</li> <li>・遊びの交流</li> </ul> </li> </ul> <p><b>園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の校庭で凧揚げ遊び</li> <li>○小学校の図書室利用 (読み聞かせ等)</li> </ul> <p><b>園・1年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科での交流               <ul style="list-style-type: none"> <li>・お正月あそび</li> <li>・できるようになったよ発表会</li> </ul> </li> </ul>
教職員・地域でつながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報交換 (入学後の様子)</li> <li>◆授業・保育参観 (※)</li> <li><b>園</b> 学校関係者評価委員会議</li> <li><b>小・中</b> 学校地域連携運営協議会 (コミュニティスクール)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆授業・保育参観 (※)</li> <li>◆生きものふれあい教室</li> <li>◆学校公開日</li> <li>◆就学時健診</li> <li><b>園</b> 学校関係者評価委員会議</li> <li><b>小・中</b> 学校地域連携運営協議会 (コミュニティスクール)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>園・小</b> 保護者会等に参加 (「入学」に向けての説明会他)</li> <li>◆授業・保育参観 (※)</li> <li>◆情報交換 (入学式前の様子)</li> <li><b>園</b> 学校関係者評価委員会議</li> <li><b>小・中</b> 学校地域連携運営協議会 (コミュニティスクール)</li> </ul>

※授業参観は、教育委員会訪問(「学校訪問」「計画訪問」)の他、参観週間を設けている場合がある。

※園とは、「幼稚園・認定こども園・保育園」を表す。小及び学年表示は「小学校」を、中は「中学校」を表す。

**本市の取組**

- 平成14年度 「幼小連携に関する調査研究」開始
- 平成17年度 「小中連携教育検討委員会」発足
- 平成20～22年度 「幼保小中連携教育協議会」実践報告 (舞浜小学校・舞浜幼稚園) (入船南小学校・入船南幼稚園・入船保育園)
- 平成22年度 「浦安市教育ビジョン策定」
- 平成23～25年度 「幼保小連携教育協議会」実践報告 (日の出小学校・日の出南小学校・日の出幼稚園・日の出保育園)
- 平成26年度 全市での「幼保小中連携の日」を設定
- 平成27年度 「改訂 浦安市教育ビジョン」後期5か年計画 策定
- 平成28年度 「浦安市幼・保・小連携アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」作成
- 令和2年度 「浦安市学校教育推進計画(前期)」策定(「幼保小中連携」→「園小中連携」)
- 令和3年度 「浦安市園・小連携5歳児の学びのカリキュラム・スタートカリキュラム」作成
- 令和7年度 「浦安市学校教育推進計画(後期)」策定
- 「架け橋プログラム」の実施に係る動画作成

## 7 架け橋期のカリキュラム

### 令和〇年度 架け橋期のカリキュラム【〇〇小学校・〇〇幼稚園・〇〇認定こども園・〇〇保育園・〇〇保育園】

浦安市の目指す子ども像		◎主体的な学び（自ら学び身に付けた知識や技能を活用する子ども） ◎豊かななかかわり（適切に表現する力を身に付け、人や社会に積極的に関わるとともに、我が国やふるさと浦安に誇りを持ち、多様な文化を大切に子ども）										◎他を尊重する心（自分や他人の良さを認め、互いに尊重し合う子ども） ◎健やかな体（命を大切に、健康でたくましい子ども）																						
〇〇中学校区の目指す子ども像		〇夢に向かって自分を磨き 地域の未来を切り拓く子																																
架け橋期に目指す子ども像		●自分が経験したことや考えたことを伝え合おうとする子										●課題をもち、最後まで粘り強く取り組もうとする子					●自己を発揮し、意欲的に行動できる子																	
年長 5 歳児																	小学 1 年生																	
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2	3											
育みたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を身に付け、自分で考えて行動する力</li> <li>友達と一緒に遊ぶ中で、気持ちを伝え合う力</li> <li>いろいろなことに興味関心を持ち、好きなことややりたいことにじっくりと取り組む力</li> </ul>												<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもって遊びや生活をすすめる力</li> <li>友達と共通の目的に向かって活動に取り組む力</li> <li>自分の力を出し、最後まで諦めずにやり遂げる力</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>話を最後まで聞く力</li> <li>自分の考えや思いを話す力</li> <li>協力して取り組む力</li> <li>学校のきまりや時間を守る力</li> </ul>																
具体的な活動・学習内容	健康	生活習慣（新入園児の手伝い・当番活動・手洗い、うがい・歯磨き・掃除・活動の準備・片付け） 身体づくり（リズム・水遊び・プール） 道徳心（挨拶・年下の幼児への思いやり・生き物の飼育） 集団遊び（どろけい・じゃんけんゲーム・中当てドッジボール） 構成遊び・協同遊び（塗り絵・ブロック（机上）） 自然とのふれあい（花、野菜の栽培・虫取り） 素材の活用（泥遊び・色水遊び）												当番活動の引継ぎ マット・鉄棒 縄跳び ルールのある遊び 思いの伝え合い（他を大切に・相互理解） ドッジボール お別れ会 野菜の収穫 焼き芋パーティー どんぐりのコース・家作り 雪や氷の遊び					<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> <li>③協同性</li> <li>④道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>⑤社会生活との関わり</li> <li>⑥思考力の芽生え</li> <li>⑦自然との関わり・生命尊重</li> <li>⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>⑨言葉による伝え合い</li> <li>⑩豊かな感性と表現</li> </ul>															
	人間関係	園外保育（郷土博物館） 話し合い（グループ活動・遊びの紹介） 絵本の読み聞かせ（11匹のねこシリーズ「スイミー」「おしれのぼうけん」「からすのパンやさん」「ロボットカミイ」「エルマーの冒険」） 造形（こいのぼり製作・空き箱・セタ製作・フィンガー、ボディペイント、船作り・経験画・自然物を使った製作・大道具、小道具作り・ひな人形製作・マフラー編み） 音楽（歌「にじ」「うらちうせんのうた」手遊び「1本指で拍手」「お寺のおしようさん」楽器作り・楽器遊び 歌「さよならほくたちのほいくえん」）												発表会 正月遊び（机上） お別れ遠足					<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> <li>③協同性</li> <li>④道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>⑤社会生活との関わり</li> <li>⑥思考力の芽生え</li> <li>⑦自然との関わり・生命尊重</li> <li>⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>⑨言葉による伝え合い</li> <li>⑩豊かな感性と表現</li> </ul>															
	環境	園外保育（郷土博物館） 話し合い（グループ活動・遊びの紹介） 絵本の読み聞かせ（11匹のねこシリーズ「スイミー」「おしれのぼうけん」「からすのパンやさん」「ロボットカミイ」「エルマーの冒険」） 造形（こいのぼり製作・空き箱・セタ製作・フィンガー、ボディペイント、船作り・経験画・自然物を使った製作・大道具、小道具作り・ひな人形製作・マフラー編み） 音楽（歌「にじ」「うらちうせんのうた」手遊び「1本指で拍手」「お寺のおしようさん」楽器作り・楽器遊び 歌「さよならほくたちのほいくえん」）												発表会 正月遊び（机上） お別れ遠足					<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> <li>③協同性</li> <li>④道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>⑤社会生活との関わり</li> <li>⑥思考力の芽生え</li> <li>⑦自然との関わり・生命尊重</li> <li>⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>⑨言葉による伝え合い</li> <li>⑩豊かな感性と表現</li> </ul>															
	言葉	園外保育（郷土博物館） 話し合い（グループ活動・遊びの紹介） 絵本の読み聞かせ（11匹のねこシリーズ「スイミー」「おしれのぼうけん」「からすのパンやさん」「ロボットカミイ」「エルマーの冒険」） 造形（こいのぼり製作・空き箱・セタ製作・フィンガー、ボディペイント、船作り・経験画・自然物を使った製作・大道具、小道具作り・ひな人形製作・マフラー編み） 音楽（歌「にじ」「うらちうせんのうた」手遊び「1本指で拍手」「お寺のおしようさん」楽器作り・楽器遊び 歌「さよならほくたちのほいくえん」）												発表会 正月遊び（机上） お別れ遠足					<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> <li>③協同性</li> <li>④道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>⑤社会生活との関わり</li> <li>⑥思考力の芽生え</li> <li>⑦自然との関わり・生命尊重</li> <li>⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>⑨言葉による伝え合い</li> <li>⑩豊かな感性と表現</li> </ul>															
	表現	園外保育（郷土博物館） 話し合い（グループ活動・遊びの紹介） 絵本の読み聞かせ（11匹のねこシリーズ「スイミー」「おしれのぼうけん」「からすのパンやさん」「ロボットカミイ」「エルマーの冒険」） 造形（こいのぼり製作・空き箱・セタ製作・フィンガー、ボディペイント、船作り・経験画・自然物を使った製作・大道具、小道具作り・ひな人形製作・マフラー編み） 音楽（歌「にじ」「うらちうせんのうた」手遊び「1本指で拍手」「お寺のおしようさん」楽器作り・楽器遊び 歌「さよならほくたちのほいくえん」）												発表会 正月遊び（机上） お別れ遠足					<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> <li>③協同性</li> <li>④道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>⑤社会生活との関わり</li> <li>⑥思考力の芽生え</li> <li>⑦自然との関わり・生命尊重</li> <li>⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>⑨言葉による伝え合い</li> <li>⑩豊かな感性と表現</li> </ul>															
	主な交流・連携	当番活動 異年齢交流 他園との交流 運動会 園外保育 発表会 お別れ会 日常的な情報発信（便り等） 地域探検 計画訪問 園小中連携の日 園内研修 給食試食会 小学校との交流 保護者会 保育参加 引渡し訓練 敬老交流会 買い物体験												発表会 正月遊び（机上） お別れ遠足					<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な心と体</li> <li>②自立心</li> <li>③協同性</li> <li>④道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>⑤社会生活との関わり</li> <li>⑥思考力の芽生え</li> <li>⑦自然との関わり・生命尊重</li> <li>⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>⑨言葉による伝え合い</li> <li>⑩豊かな感性と表現</li> </ul>															
	指導上の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと共に生活習慣やきまりについて考え、生活の中で繰り返し確認する。①②④</li> <li>共通の目的をもち自分たちで遊びや活動を進めようとする姿を見守りながら、言葉を補うなど必要に応じた援助をする。②③⑨</li> <li>子どもが見通しをもてるよう、一日の予定、時間、手順などを図や文字、時計などで示す。④⑤⑧</li> <li>当番活動は、子どもの実態や思いを取り入れ、無理や負担のない取り組みになるよう配慮する。③④⑤</li> <li>季節の変化や身近な生き物、自然への好奇心、探求心が深まるよう、遊びに取り入れる。⑥⑦⑩</li> <li>経験や思いを言葉で伝えられるよう、落ち着いて話ができる雰囲気を作ったり、一人一人に寄り添い耳を傾けたりする。⑥⑨⑩</li> <li>試したり、工夫したりできる素材を用意し、場所や時間を十分に保障する。②⑥⑩</li> <li>遊びや生活の中で、数える、比べる、分類する、試すなどが自らできるような道具や用具を揃えておく。⑥⑧⑩</li> </ul>												<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びの中で必要な活動やルールに気付き自ら行動できるよう、計画や予定などを伝え、個々またはクラス内で話し合う機会をもつ。①②⑨</li> <li>一人一人が力を発揮し、クラスの一員としてやり遂げた満足感や達成感を得られるように、認めたり、励ましたりする。①②③</li> <li>子ども同士のいざこざや葛藤を通して、相手のよさや協同して活動する大切さに気付けるよう、問いかけ、共に考える。③④⑥</li> <li>社会とのつながりが感じられるよう、異年齢児や地域の人との交流活動や遊ぶ機会をもつ。⑤</li> <li>共通の目的に向かって遊びや活動が進むよう、個々の発達の実情に即した丁寧な援助をする。③</li> <li>自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるよう、一人一人の子どもよさや可能性を捉え、自己肯定感を育む。②⑥⑩</li> <li>期待感を持ち不安なく就学できるよう、1年生を始め小学生との関わりが楽しめるような交流活動の機会をもつ。②⑤⑨</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの期待感や不安感に寄り添いながら、学習の流れやルールを知らせ、学習中心の生活につなげていく。①②④</li> <li>子どもの目線に合った校内環境や学習環境を整える。②⑧</li> <li>個々の意欲や自信を引き出し、学びの動機付けを図る。①⑥⑨</li> <li>活動の見通しがもてるように、時計で示したり、文字や図で表したりする。②④⑧</li> </ul>															
		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの思いや願いを生かした学習活動となるよう、人、もの、こととの出会わせ方を工夫したり、余剰時間を活用したりする。⑥⑩</li> <li>子どもが話の内容を理解できるように、端的に分かりやすい言葉で話す（視覚教材の活用）。④⑥</li> <li>当番活動や係活動の必要性が分かり、みんなで話し合っ決めて実践するよさを実感できるよう、学級活動を充実させる。①②④</li> <li>子ども同士の意見の相違が起きた時には、関わりを見守りながら、それぞれの思いに共感したり、思いが表出できるようにしたりして、解決に導いていく。③④⑨</li> <li>交流や話し合いの時間を充実させ、自分の思いが伝わることの喜びを味わえるようにする。③⑨⑩</li> <li>様々な活動や行事を通して、友達と協力する楽しさや、最後までやり遂げようとする粘り強さ、達成感を味わえるように、振り返りの時間を充実させる。②③⑩</li> <li>思いやりや自己有用感を高め、成長した自分に気付けるような活動や、園、地域との交流活動の機会をもつ（キャリアパスポートの活用など）。①②</li> <li>浦安の文化に親しめるよう、地域交流や地域の行事と関わる機会を設ける。④⑤⑩</li> <li>様々な学習用具を使い、興味関心を広げ、個々の学びを深める（学習用タブレットの活用）。⑥⑧⑩</li> </ul>																																
	5歳児の学びのカリキュラム（アプローチカリキュラム）																	スタートカリキュラム																



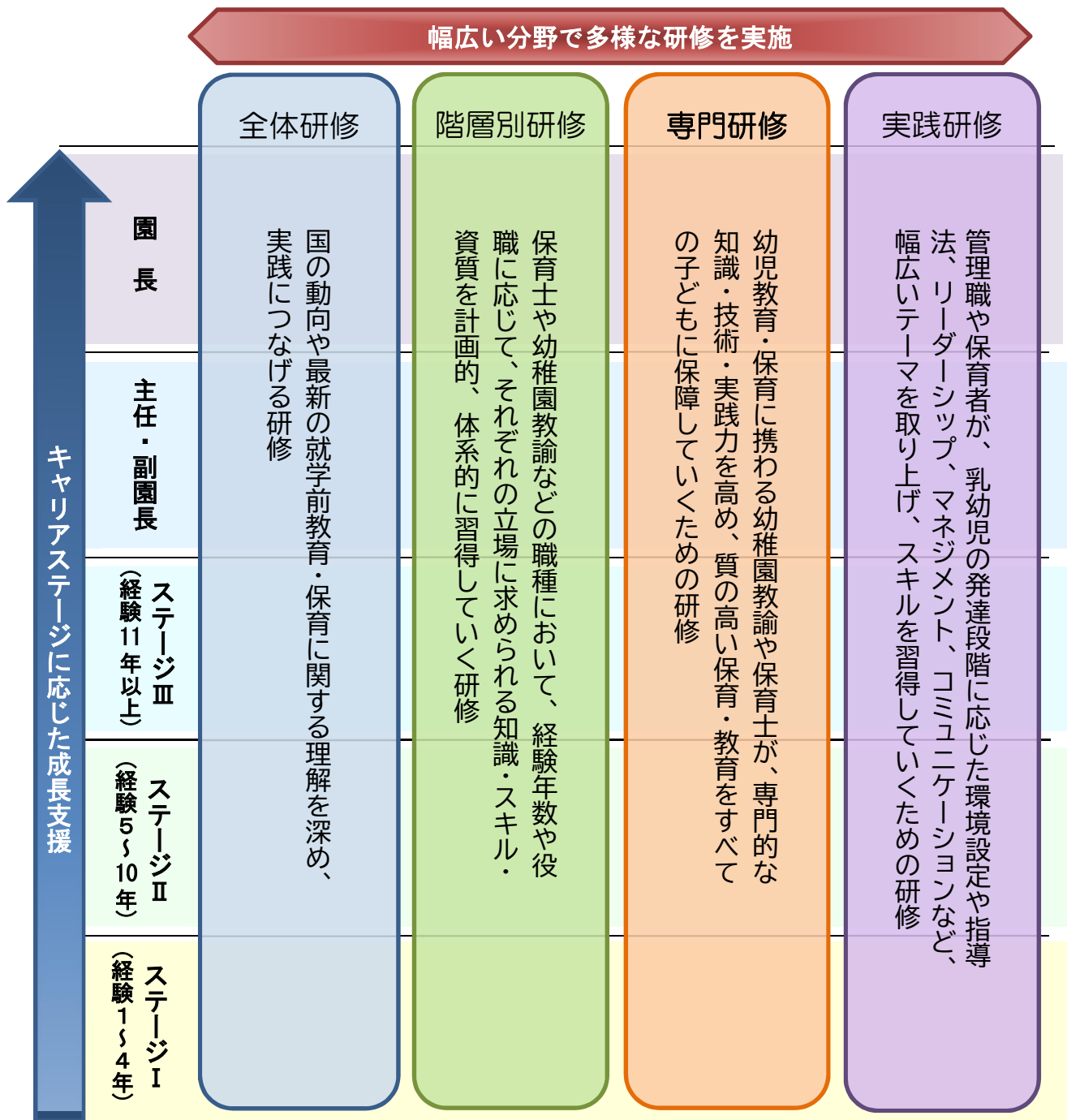
## 第VI部 職員の研修について

### 1 研修内容

保育者の資質の向上や専門性の向上のため、市内の就学前施設に携わる職員を広く対象とした研修を実施します。

研修内容については、保育士、幼稚園教諭、保育教諭を問わず、広い視野や就学前保育・教育の専門性を高める研修プログラムの構築を目指します。

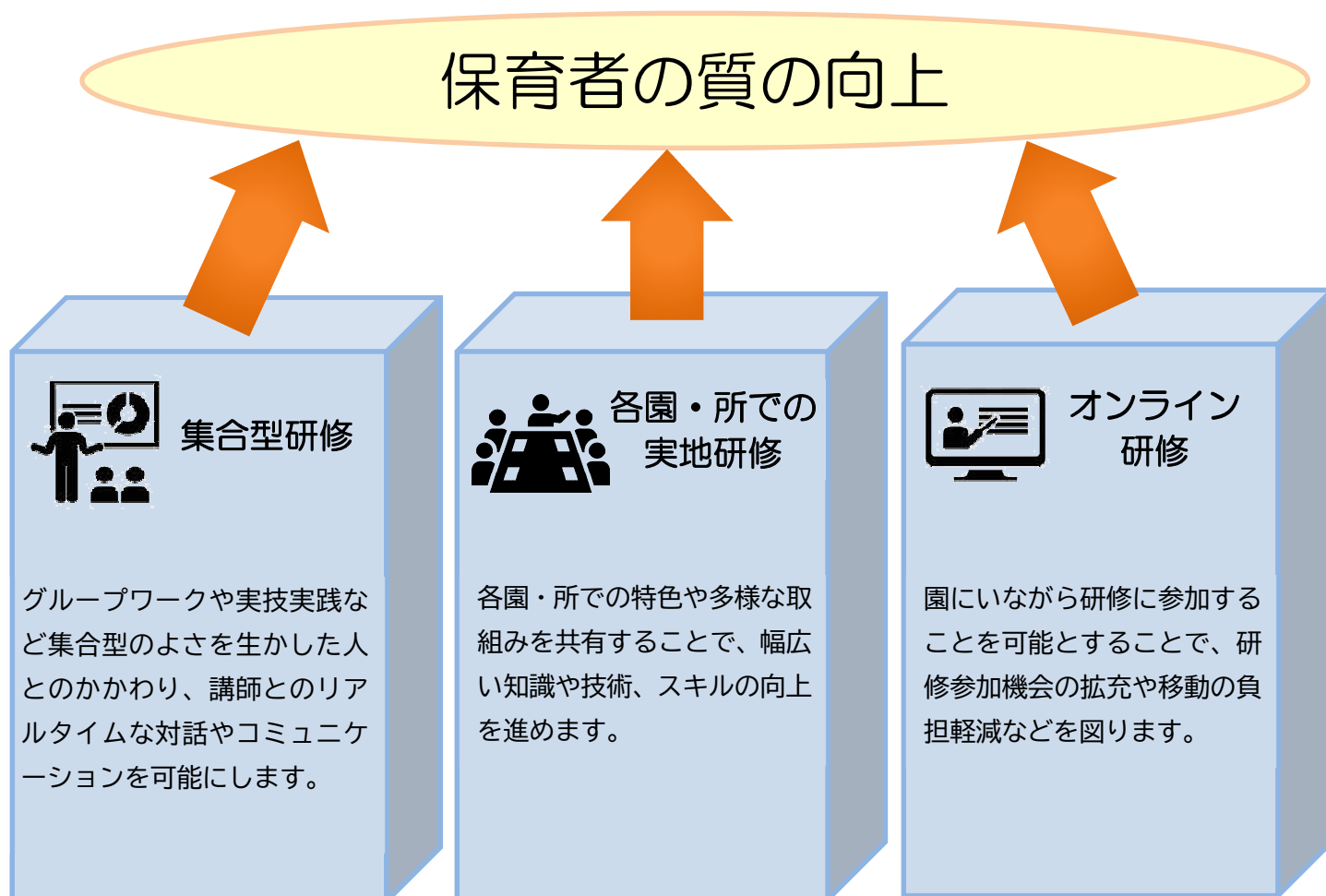
また、経験年数に応じて求められる、知識や技能を段階的に取得・育成できるよう、職員のニーズに応じた研修を企画します。

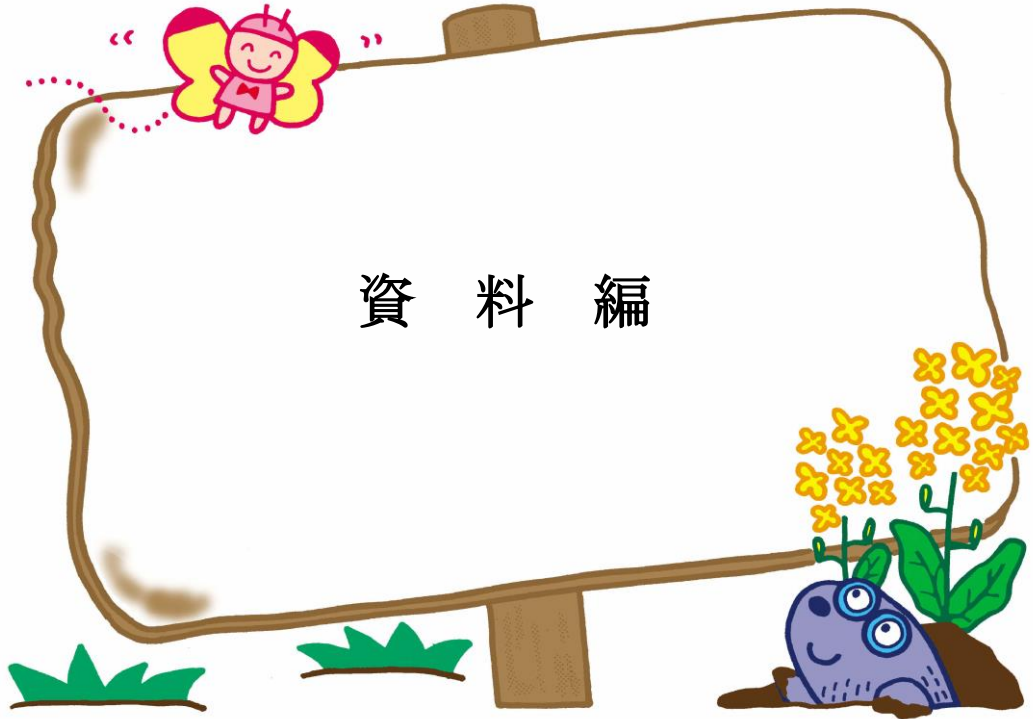


## 2 研修の実施方法

各保育者の環境や研修受講可能な時間は様々です。

この点を配慮し、より多くの保育者が研修を活用できるよう、多様な研修方法の提供に努めます。





資料編

# 1 研修について

浦安市立保育園保育士研修体系

(令和7年度現在)

多様化する保育ニーズに対して、子どもの健やかな育ちを保障するためには、職員一人一人の豊かな人間性、広い社会性高い専門性が必要です。保育園・幼稚園・認定こども園の職員として、資質の維持・向上を図るための研修体系を継続的に実施しています。

職種及び経験年数	初任保育士 1級 1～3年目	中堅保育士 2級 4～6年目	主任保育士Ⅰ 3級 1～9年目	主任保育士Ⅱ 3級 10年以上	主任保育士 4級	管理職	
		各担任保育士					
				チームリーダー			
					副園長補佐		
						副園長	園長
研修分野	乳児保育研修						
	幼児教育研修						
	障がい児保育・発達支援研修						
	食育・アレルギー対応研修						
	保健衛生・安全対策研修						
	保育実践研修						
	保護者支援・子育て支援研修						
					マネジメント研修		
階層別研修	初任者研修	中堅保育士 研修	主任保育士研修			主任副園長 合同会議	園長研修会
							園長合同会議
	幼児教育実践講座					特別支援教育 コーディネーター 研修会	就学前保育・ 教育施設 連携会議
その他	園内研修・療育及び関係機関との連携・保育訪問・非常勤研修・個人研修 等						
OJT ～職務を通じての研修～			OFF-JT ～職務を離れての研修～			SDS ～自己啓発援助制度～	
<ul style="list-style-type: none"> <li>職場の先輩が職務を通して、または職務と関連させながら、後輩を指導・育成する研修。業務上の指導、助言、スーパービジョン、ケーススタディ自己評価などにより実施。一人ひとりの知識・技術・能力等に応じて、計画的・継続的に行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>職務命令により、一定期間日常業務を離れて行う研修。職場内の集合研修と職場外研修への派遣の2つがある。各種研修会に計画的・積極的に参加できるようにすることと、研修内容を伝達し日々の保育に生かしてしていくことが大切。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の職場内外での自主的な自己啓発活動を職場として認知し、経済的・時間的な援助や施設の提供などを行うもの。個人が必要とする知識・技術を自ら進んで学んだり、自己の感性を深め、人間性を豊かにすることで、保育の質を高めることが重要。</li> </ul>	

〈幼稚園・認定こども園〉浦安市教職員研修体系（令和7年度現在）

全 キャリアステージを通じた研修

経験年数	キャリアステージⅠ【成長期】 (初任～7年目)	キャリアステージⅡ【発展期】 (8～28年目)	キャリアステージⅢ【充実期】 (29年目以上)
研修目標	学級・教科担任等としての 自覚と資質能力の向上	ミドルリーダーとしての 自覚と資質能力の向上	チーム学校をリードする 自覚と資質能力の向上
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国主催研修</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市主催研修 (指定)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市主催研修 (悉皆)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">県主催研修</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市主催研修 (保育幼稚園課)</div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">&lt;研修の種類&gt;</p> </div>	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">主任教諭研修会</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ステップアップ研修Ⅰ (主任教諭候補対象層)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ステップアップ研修Ⅱ (園長候補対象層)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">就学前保育・教育施設連携会議</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">主任・副園長合同会議</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">幼児教育アドバイザー育成研修</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">中央研修(管理職)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">園長等運営管理研修(推薦)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">園長研修会</div>
層別研修 (悉皆)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; writing-mode: vertical-rl;">幼稚園等初任者研修</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; writing-mode: vertical-rl;">幼稚園等2・3年目教員研修</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; writing-mode: vertical-rl;">幼稚園等7年目教員研修</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">スマイル先生!円滑な接続のため 幼児教育研修</div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; writing-mode: vertical-rl;">中堅教諭等資質向上研修Ⅰ (8年目～10年目)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; writing-mode: vertical-rl;">幼稚園等15年目教員研修</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; writing-mode: vertical-rl;">専門研修 (29・30年目)</div>
指導・援助	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">園小連携 学びをつなぐ教育実践講座</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教育実践事例発表会</div>		
希望研修	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">幼児教育実践講座</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①外国にルーツがある子や保護者の支援に係る研修会 ②学級経営力・生徒指導力向上研修会 ③特別支援教育に係る研修会 ④情報教育に係る研修会 ⑤図画工作実技研修会 [小・中の内容含む]</div>		
特別支援教育	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">特別支援教育コーディネーター研修会</div>		
臨時職員等研修	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">幼稚園教諭(補助)等研修会</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">保育担当職員研修会</div>		
その他	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">市教委訪問</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">園内研修 教職員個人の研修</div>		

## 2 評価について

保育や教育の質を継続的に向上させるためには、計画（Plan）に基づき実践し（Do）、その実践を評価し（Check）、改善（Action）に結び付けていくというPDCAの循環の継続が重要です。

職場内の保育者同士で実践を評価し検証することにより、保育の改善のための課題や方策が明確になります。また、自己評価の結果や改善に向けて取り組む過程などを保護者や地域住民等に伝えることにより、施設運営の透明性を高め、保護者等からの信頼を得ることが期待されます。

さらには、第三者の客観的な評価を受け、異なった視点からの改善を検討し、その結果やプロセスについても公表していくことが大切です。

### <市立保育園の第三者評価>

保育園では、保育サービスの質の向上に向けた取り組みの促進と利用者への適切な情報提供を目的として、定期的に第三者評価を受けています。

第三者評価は、1、施設面評価 2、保育面評価 3、利用者調査から構成されています。

1、施設面評価では

I 福祉サービスの基本方針と組織 II 組織の運営管理 III 適切な福祉サービスの実施

2、保育面評価では

IV サービスの内容（子どもの発達援助・子育て支援）などを評価しています。

評価結果は、市のHPにも公表されており、各園はこの第三者評価の結果をふまえ、サービスの改善に努めています。

### <保育所における自己評価ガイドライン>（厚生労働省 2020年改訂版）

各施設が、継続的に保育の充実や改善を図っていく上で、このガイドラインを活用し、職員間の協働性をより高めていくことが求められています。

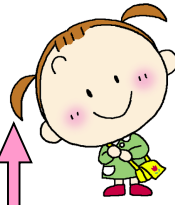
### <市立幼稚園・認定こども園の幼稚園関係者評価>

幼稚園における学校評価については、各幼稚園が行った自己評価の結果の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、保護者などにより構成される幼稚園関係者評価を平成24年度より行っています。学校関係者評価は、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、幼稚園・家庭・地域が幼稚園の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進することを目的としています。

主な評価項目は、以下の通りです。

- (1) 自己評価結果に関すること
- (2) 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策の適切さに関すること
- (3) 幼稚園の重点目標や自己評価の評価項目等の適切さに関すること
- (4) 幼稚園運営の改善に向けた取り組みの適切さに関すること
- (5) その他自己評価の結果等に関し必要な事項に関すること

### 3 保育園の一日の生活



たとえば、ある保育園の一日の生活の流れを紹介すると…

#### 0・1・2歳児

##### 開園時間

○随時登園

顔をみたり、スキンシップをとったりしながら受け入れています。

○それぞれ好きな遊びを楽しむ

○おやつ

- ・排泄 (おむつ交換)
- ・手洗い
- 指導計画に基づく活動

自分の好きな遊びをみつけてじっくりと取り組んだり、友達や保育者と一緒に遊んだりします。

- 昼食 (給食)
- ・排泄 (おむつ交換)
- ・手洗い
- ・着替え

個人差が大きいので、一人一人の子どもの成長に合わせてすすめています。

○午睡

- ・排泄 (おむつ交換)

疲れや緊張を和らげるように休息をとります。眠れないときには横になり、体を休め、静かに過ごせるようにしています。

○起床

- ・排泄 (おむつ交換)
- おやつ
- それぞれ好きな遊びを楽しむ

おやつも一日の中の食事と考え、提供しています。

○随時降園

##### 延長保育

○それぞれ好きな遊びを楽しむ

##### 閉園時間

各家庭の保育必要量に応じて保育標準時間・保育短時間の認定を受け入園となります。

#### 3・4・5歳児

##### 開園時間

○随時登園

- ・先生や友達にあいさつする
- ・所持品の始末をする

○それぞれ好きな遊びを楽しむ

○片付け

- ・排泄
- 指導計画に基づく教育活動

指導計画に基づいた教育活動は、クラス全員で行ったり、グループで行ったりしながら、さまざまな経験や活動をしています。

- ・着替え
- 昼食 (給食)

- ・排泄
- ・手洗い、うがい
- ・当番活動

旬の素材を使って給食を作っています。

・食後、口をゆすぐ

○それぞれ好きな遊びを楽しむ

○午睡

- ・排泄

小学校入学に向けて、5歳児クラスは午睡時間を短くしたり、無くしたりしていきます。疲れたときや眠くなったときには、体を休めるようにしています。

○起床

- ・排泄
- おやつ
- ・食後、口をゆすぐ

○それぞれ好きな遊びを楽しむ

○随時降園

##### 延長保育

○それぞれ好きな遊びを楽しむ

##### 閉園時間

7:00~

8:30~

10:00~

11:00~

12:00~

13:00~

15:00~

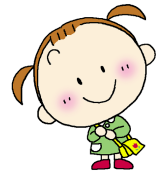
16:30~

19:00

時間帯は、年齢によって多少の差があります。特に0・1歳児は、月齢差・体調によって、一人一人の状態に応じた保育を行います。

## 4 幼稚園・認定こども園の一日の生活

たとえば、ある園の一日の生活の流れを紹介すると…



認定こども園	
7:30~	保育（保護者の就労・家庭の事情に応じて）
幼稚園・認定こども園	
8:50~	登園
9:00	<p>○登園時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生や友達にあいさつをする。</li> <li>帽子、かばんなどをロッカーにしまう。</li> <li>手洗い、うがいをする。</li> <li>当番活動をする。（出欠報告・飼育等）</li> </ul> <p>○指導計画に基づく教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各々、先生や友達と一緒に遊びに取り組む。（室内や園庭で）</li> <li>みんなで一緒に、楽しい活動に取り組む。</li> <li>片付ける。</li> </ul>
11:30~	<p>○昼食時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排泄、手洗い、うがいをする。</li> <li>当番は、机を拭く。</li> <li>あいさつをし、食事をする。</li> <li>歯を磨き、片付ける。</li> </ul>
12:45~	<p>○指導計画に基づく教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>午前中の遊びの続きをしたり、別の興味や関心のある遊びをしたりする。</li> <li>片付ける。</li> </ul>
13:30~	<p>○降園時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生の話の聞いたり、絵本や紙芝居を見たりする。</li> <li>みんなで歌ったり、ゲームをしたりする。</li> <li>今日一日の出来事について、話を聞いたり、話したりする。</li> </ul>
14:00	降園
認定こども園	
~18:30	保育（保護者の就労・家庭の事情に応じて）

### ◆登園時の活動

教員は幼児一人一人にあいさつをしたり、声をかけたりしながら、体調や心情面を見えています。また、身の回りのことが進んで行えるように指導します。

### ◆指導計画に基づく

#### 教育活動

幼児の成長発達に必要な経験ができるように保育室や園庭の環境が整えられています。体を動かす活動、自然と関わる活動、表現（リズム・造形・言葉）活動等があります。

活動には、個々に行う活動・グループで行う活動・学級全体で行う活動といろいろあります。

個やグループの活動は、一人一人の幼児が自分の興味の対象に思いきり熱中できる時間です。保育室や園庭で友達といろいろな遊びを展開する時間で、自発的な態度や友達と関わる力等を身に付け、豊かな心を養います。

学級全体での活動は、友達と一緒に活動する楽しさを味わい、社会性を育み、個性を発揮することなどを学んでいきます。

### ◆降園時の活動

帰りのひと時は、絵本や紙芝居を見たり、ゲームをしたり、歌を歌ったりして、みんなで一緒に何かをする楽しさを味わいます。また、今日一日の出来事を話したり、明日の予定を知らせたりしながら、明日への期待をもたせます。

### ◆時間

興味関心に基づき、自然な生活の流れを作り出します。年齢や時期・活動内容に応じて時間の区切りは変わります。

## 5 小学校の一日の生活



### A 小学校 1 年生の一日の例



一日の日程は、小学校によって多少異なっています。

## 6 関係機関

機関		内容
こども家庭センター	母子保健課	お子さんの健康や育児に関する事など、随時相談に応じます。
	こども家庭支援センター	お子さんは、よい家庭環境や恵まれた地域環境のもとで健やかに生まれ育つ権利を持っています。家庭児童相談室では、子どもを育てていくうえで様々な悩みや心配事について家庭相談員が相談に応じています。
こども発達センター		心身の発達に遅れや気がかりのあるお子さんが地域において自分らしく健やかに育ち、ご家族が安心して子育てできるように支援します。
教育センター		特別な教育的支援を要する園児の就学相談に応じます。
うらやすファミリー・サポート・センター		育児の援助を受けたい、行いたい人、両方とも希望する人が支えあいながら子育てを行う会員組織です。

浦安市子育てハンドブック 2025 参照

※ 保育園・幼稚園・認定こども園は、地域に開かれた子育て支援を行っています。

名称	施設	内容
子育てすこやか広場	市立幼稚園・認定こども園	未就学の親子で安心して遊べる場や保護者同士の交流の場として園を開放しています。
預かり保育	認定こども園	保育時間前後や長期休業中に保育が困難になった場合、お預かりします。
一時預かり	すまいるルーム (市立幼稚園)	預ける理由を問わず、短時間の保育を行います。
電話相談	保育園等	子育てに関する悩みなど電話で相談に応じます。
園庭開放	保育園等	園庭開放、行事への参加、保育体験など行います。
一時預かり	保育園等	就労や病気、私的な理由など一時的に保育が困難になった場合、お預かりします。
地域子育て支援センター	保育園等	親子が交流できる場や子育てに関する相談や情報提供をしています。

## 7 策定・改訂メンバー

### 幼保統一カリキュラム策定委員会のメンバー構成（平成21年9月）

		氏 名 ・ 所 属	備考
スーパーバイザー		秋田 喜代美 氏（東京大学大学院 教育学研究科教授）	
0～2歳 部会	アドバイザー	金田 利子 氏（白梅学園大学 子ども学部教授）	
	保育園関係者	小川 理枝子（入船保育園長）	副委員長・準備委員
		相川 芳江（猫実保育園長）	部長
		加藤 多津子（保育幼稚園課）	準備委員
		芦田 直子（日の出保育園保育士）	
		山岸 節子（高洲保育園保育士）	
		河口 智恵美（富岡保育園副園長）	
		早川 倫代（当代島保育園副園長）	
		平野 明美（保育幼稚園課）	準備委員
	幼稚園関係者	石井 ひろ子（若草幼稚園長）	委員長・準備委員
		落合 麻里（堀江幼稚園長）	
		大友 尚子（みなみ幼稚園主任教諭）	
		山本 真希子（美浜北幼稚園教諭）	
3～5歳 部会	アドバイザー	砂上 史子 氏（千葉大学教育学部准教授）	
	保育園関係者	泉澤 弥生（高洲保育園長）	準備委員
		大塚 久美子（入船保育園副園長）	副部長
		坂口 まさ子（保育幼稚園課）	
		松崎 薫（猫実保育園保育士）	
		三代川 紀子（東野保育園保育士）	
	幼稚園関係者	中里 恵美子（青葉幼稚園長）	部長・準備委員
		斉藤 悦子（見明川幼稚園主任教諭）	
		山口 美香（美浜南幼稚園教諭）	
		平野 麻美（富岡幼稚園教諭）	
		加納 千恵子（指導課指導主事）	準備委員
	幼保小連携部会	アドバイザー	中澤 潤 氏（千葉大学教育学部教授）
小学校関係者		高橋 光法（浦安小学校校長）	部長
		石村 博美（指導課主幹）	副部長
		山本 伸一（浦安小学校教務主任）	
		原 早苗（指導課指導主事）	
幼稚園関係者		石井 ひろ子（若草幼稚園長）	準備委員(0・2兼務)
		高梨 智子（青葉幼稚園主任）	準備委員(3・5兼務)
		加納 千恵子（指導課指導主事）	準備委員(3・5兼務)
保育園関係者		大塚 久美子（入船保育園副園長）	準備委員(3・5兼務)
		坂口 まさ子（保育幼稚園課）	準備委員(3・5兼務)
食育部会	アドバイザー	金田 利子 氏（白梅学園大学子ども学部教授）	
	保育園関係者	石川 孝子（猫実保育園栄養士）	
		小鍛冶 千恵子（東野保育園栄養士）	
		高野 友美（富岡保育園保育士）	
		橘 由美子（日の出保育園保育士）	
	幼稚園関係者	加藤 由嘉利（富岡幼稚園主任教諭）	
		指田 有子（美浜南幼稚園主任教諭）	
事務局	當銀 玲子（保育幼稚園課主幹）		
	小嶋 哲夫（保育幼稚園課係長）		

就学前「保育・教育」指針 改定委員会のメンバー構成（第1回：平成25年3月）

		氏 名 ・ 所 属		備考	
0 ～ 2 歳 部 会	アドバイザー		砂上 史子 氏（千葉大学教育学部准教授）		
	保育園 関係者	0歳児	後藤 薫	（富岡保育園長）	部会長
		〃	渡辺 貴美子	（入船保育園主任保育士）	
		1歳児	小林 令子	（高洲保育園副園長）	
		〃	大類 由美	（富岡保育園主任保育士）	
		2歳児	上澤 正子	（当代島保育園主任保育士）	
	〃	山野井 裕子	（日の出保育園主任保育士）		
	幼稚園 関係者	0歳児	宇田川 恵子	（堀江幼稚園教諭）	
		〃	野口 麻子	（北部幼稚園教諭）	
		1歳児	矢島 恵美子	（美浜南幼稚園主任教諭）	副部会長
〃		樋山 由紀子	（みなみ幼稚園教諭）		
2歳児		宇田川 利子	（青葉幼稚園園長）	委員長	
〃	湯川 真澄	（見明川幼稚園教諭）			
3 ～ 5 歳 部 会	アドバイザー		砂上 史子 氏（千葉大学教育学部准教授）		
	保育園 関係者	3歳児	小出 清美	（東野保育園長）	副委員長
		〃	板山 幸子	（高洲保育園主任保育士）	
		4歳児	佐藤 純子	（当代島保育園副園長）	副部会長
		〃	三枝 園香	（猫実保育園主任保育士）	
		5歳児	植草 佐知子	（猫実保育園主任保育士）	
	〃	堀江 言子	（入船保育園主任保育士）		
	幼稚園 関係者	3歳児	鶴岡 洋子	（舞浜幼稚園主任教諭）	部会長
		〃	構 友香	（美浜北幼稚園教諭）	
		4歳児	宮山 加奈子	（富岡幼稚園教諭）	
〃		門川 美穂子	（神明幼稚園教諭）		
5歳児		千葉 夏生	（入船南幼稚園教諭）		
〃	能登 里沙	（若草幼稚園教諭）			
幼 保 小 連 携 部 会	アドバイザー		中澤 潤 氏（千葉大学教育学部教授）		
	小学校関係者		石村 博美	（南小学校校長）	部会長
			三好 輝明	（高洲小学校教頭）	副部会長
			島村 淳一	（指導課指導主事）	
			加藤 由嘉利	（指導課指導主事）	
	幼稚園関係者		加納 千恵子	（日の出幼稚園園長）	
			川上 やよい	（明海幼稚園教諭）	
保育園関係者		浜木 利得子	（東野保育園主任保育士）		
		鈴木 佳代	（日の出保育園主任保育士）		
事務局		小嶋 哲夫	（保育幼稚園課副主幹）		
		大塚 久美子	（保育幼稚園課副主幹）		
		三代川 紀子	（保育幼稚園課主任保育士）		
		高梨 智子	（保育幼稚園課主査）		

就学前「保育・教育」指針 改訂委員会のメンバー構成（第2回：平成29年2月）

		氏 名 ・ 所 属		備考	
0 ～ 2 歳 部 会	アドバイザー		砂上 史子 氏（千葉大学教育学部准教授）		
	保育園関 係者	0歳児	芦田 直子	（高洲保育園副園長）	
		〃	阿部 春香	（当代島保育園主任保育士）	
		1歳児	小平 香千	（猫実保育園主任保育士）	
		〃	宇田川 真理子	（富岡保育園主任保育士）	
		2歳児	小川 理枝子	（富岡保育園長）	部会長
	幼稚園 こども園 関係者	〃	井上 裕子	（日の出保育園主任保育士）	
		0歳児	濱村 紀子	（見明川幼稚園長）	委員長
		〃	大澤 史佳	（日の出幼稚園教諭）	
		1歳児	指田 有子	（富岡幼稚園主任教諭）	副部会長
〃		鈴木 裕子	（堀江認定こども園教諭）		
〃	鈴木 雅世	（神明幼稚園教諭）			
〃	山口 友香	（美浜北認定こども園教諭）			
3 ～ 5 歳 部 会	アドバイザー		砂上 史子 氏（千葉大学教育学部准教授）		
	保育園関 係者	3歳児	杉山 清美	（入船保育園副園長）	副部会長
		〃	堀口 裕	（東野保育園主任保育士）	
		4歳児	猪俣 奈緒美	（東野保育園長）	副委員長
		〃	内野 いつみ	（当代島保育園主任保育士）	
		5歳児	小湊 真奈美	（猫実保育園主任保育士）	
	幼稚園 こども園 関係者	〃	本川 ひとみ	（高洲保育園主任保育士）	
		3歳児	大内 彩世	（入船南幼稚園教諭）	
		〃	加藤 小百合	（北部認定こども園教諭）	
		4歳児	橋本 美貴子	（青葉幼稚園教諭）	
〃		高橋 沙希	（若草認定こども園教諭）		
〃	5歳児	北原 こず江	（明海認定こども園長）	部会長	
〃	戸枝 有規子	（舞浜認定こども園教諭）			
幼 保 小 連 携 部 会	アドバイザー		中澤 潤 氏（千葉大学教育学部教授）		
	小学校関係者	西原 隆	（高洲小学校校長）	部会長	
		勝田 秀樹	（明海小学校教頭）	副部会長	
		川島 徹也	（明海小学校教諭）		
	保育園関係者	山崎 恭子	（入船保育園主任保育士）		
		虻川 節子	（日の出保育園主任保育士）		
	幼稚園・こども園関係者	後藤 さゆり	（みなみ認定こども園主任教諭）		
		戸松 美紀子	（美浜南認定こども園教諭）		
	行政職員	窪田 のり子	（教育政策課長補佐）		
		加藤 みさ子	（指導課教育指導係長）		
浅沼 美穂子		（指導課指導主事）			
事務局	相川 芳江	（保育幼稚園課副主幹）			
	石井 まゆみ	（保育幼稚園課副主幹）			
	佐藤 純子	（保育幼稚園課運営・指導係長）			

## 就学前「保育・教育」指針 改訂委員会作業部会メンバー構成（第3回：令和4年2月）

- ◆作業部会 部会長 古畑 ゆかり（舞浜認定こども園 園長）  
 作業部会 副部会長 加賀美 和枝（当代島保育園 園長）

		氏 名 ・ 所 属	
0 ～ 2 歳 部 会	アドバイザー	砂上 史子 氏（千葉大学教育学部教授）	
	0～2歳 部会長	大類 由美（日の出保育園 副園長）	
	0～2歳 副部会長	鈴木 紘子（入船南認定こども園 主任教諭）	
	保育園関 係者	0歳児	瀬川 槿子（入船保育園主任保育士）
		1歳児	小林 美也子（東野保育園主任保育士）
		2歳児	松崎 友美（当代島保育園保育士）
	幼稚園・ こども園 関係者	0歳児	池田 充里（美浜南認定こども園教諭）
		1歳児	杉原 優花（若草認定こども園教諭）
2歳児		清水澤 典子（明海認定こども園教諭）	
3 ～ 5 歳 部 会	アドバイザー	砂上 史子 氏（千葉大学教育学部教授）	
	3～5歳 部会長	保田 佳世子（堀江認定こども園 主任教諭）	
	3～5歳 副部会長	石井 康子（猫実保育園 副園長）	
	保育園関 係者	3歳児	大嶋 直子（高洲保育園主任保育士）
		4歳児	竹内 香奈江（東野保育園主任保育士）
		5歳児	窪田 早苗（富岡保育園主任保育士）
	幼稚園・ こども園 関係者	3歳児	大内 彩世（見明川認定こども園教諭）
		4歳児	森 京子（神明認定こども園教諭）
5歳児		大高 佑実（美浜北認定こども園教諭）	
幼 保 小 連 携 部 会	アドバイザー	中澤 潤 氏（植草学園大学学長）	
	幼保小連携 部会長	勝田 秀樹（南小学校 校長）	
	幼保小連携副部会長	阿部 雅子（明海小学校 教頭）	
	幼稚園・こども園関係者	湯川 真澄（北部認定こども園教諭）	
		駒崎 やよい（日の出幼稚園教諭）	
		蒲谷 早季（青葉幼稚園教諭）	
		渡部 きらら（みなみ認定こども園教諭）	
	保育園関係者	清水 由紀（猫実保育園主任保育士）	
		荻原 貴子（入船保育園主任保育士）	
		千葉あゆみ（日の出保育園主任保育士）	
		渡辺 千絵（高洲保育園主任保育士）	
	行政職員	山崎 由美（指導課教育指導係長）	
		戸頃 朗子（指導課指導主事）	
	担当園長	片倉 浩子（富岡幼稚園 園長）	
三代川 紀子（富岡保育園 園長）			
事務局	小湊 真奈美（保育幼稚園課副主幹）		
	高梨 智子（保育幼稚園課副主幹）		
	瀬庭 麻衣子（保育幼稚園課主任保育士）		

## 就学前「保育・教育」指針 改訂委員会メンバー構成 (第4回：令和8年2月)

◆作業部会 委員長 岡田 亜紀子 (みなみ認定こども園 園長)  
 作業部会 副委員長 高野 友美 (入船保育園 園長)

		氏 名 ・ 所 属	備考
保育教育課程部会	アドバイザー	松寄 洋子 氏 (明治学院大学心理学部教授)	
	保育園関係者	松村 由美子 (高洲保育園 副園長)	副部会長
		石堂 天 (当代島保育園保育士)	
		末永 ゆず香 (猫実保育園主任保育士)	
		小野寺 美樹 (高洲保育園主任保育士)	
	幼稚園関係者	森田 貴子 (明海認定こども園 園長)	部会長
早川 月 (若草認定こども園教諭)			
酒井 京香 (美浜南認定こども園教諭)			
事例作成部会	アドバイザー	松寄 洋子 氏 (明治学院大学心理学部教授)	
	保育園関係者	河野 智子 (富岡保育園 園長)	部会長
		羽田 裕子 (東野保育園主任保育士)	
		小森 亮子 (日の出保育園主任保育士)	
	幼稚園関係者	石川 美穂 (舞浜認定こども園主任教諭)	副部会長
		滋田 菜々子 (青葉幼稚園教諭)	
		高杉 夏生 (神明認定こども園教諭)	
	小学校関係者	猪又 梨花 (高洲小学校教諭)	
		吉田 小百合 (日の出南小学校)	
	私立こども園	須長 賀子 (渋谷教育学園浦安こども園 主幹保育教諭)	
園小連携部会	アドバイザー	砂上 史子 氏 (千葉大学教育学部教授)	
	小学校関係者	佐々木 俊郎 (見明川小学校 校長)	部会長
		中川 裕司 (南小学校 教頭)	副部会長
		渡邊 梨恵 (浦安小学校教諭)	
	幼稚園関係者	国谷 ゆう子 (見明川認定こども園主任教諭)	
		中桐 麻稀 (北部認定こども園教諭)	
		渡邊 佳織 (入船南認定こども園教諭)	
		伊吹 葵 (堀江認定こども園教諭)	
		鈴木 百花 (日の出幼稚園教諭)	
	行政職員	鈴木 菜穂 (教育総務部指導課教育指導係長)	
		亘理 恵美 (教育総務部指導課指導主事)	
	保育園関係者	瀬庭 麻衣子 (高洲保育園 副園長)	
		佐久間 利恵 (当代島保育園主任保育士)	
		海老原 千佳子 (入船保育園主任保育士)	
		野澤 奈未 (富岡保育園主任保育士)	
私立保育園	今村 悦子 (ふたば保育園主任保育士)		
事務局	大類 由美 (保育幼稚園課 副主幹)		
	宮山 加奈子 (保育幼稚園課 副主幹)		
	小林 晶 (保育幼稚園課主任保育士)		

## 索引

<b>【い】 1日の生活</b>			
保育園の一日の生活		109	
幼稚園・こども園の一日の生活		110	
小学校の一日の生活		111	
<b>【う】 浦安市の現状</b>		2	
<b>【か】 関係機関</b>		112	
<b>【く】 具体的な取り組み</b>			
0歳児		47～50	
(生活習慣・環境との関わり・人との関わり・運動)			
1歳児		51～54	
(生活習慣・環境との関わり・人との関わり・運動)			
2歳児		55～58	
(生活習慣・環境との関わり・人との関わり・運動)			
3歳児		59～63	
(生活習慣・環境との関わり・人との関わり			
・運動・感性と表現)			
4歳児		64～68	
(生活習慣・環境との関わり・人との関わり			
・運動・感性と表現)			
5歳児		69～73	
(生活習慣・環境との関わり・人との関わり			
・運動・感性と表現)			
園小のつながり事例		82～89	
<b>【け】 研修内容</b>		104	
研修の実施方法		105	
研修について		106	
<b>【こ】 子どもを取り巻く環境</b>		1	
<b>【し】 指針策定の目的</b>		3	
食育について		16	
<b>【そ】 育てたい子ども像</b>		6	
<b>育ちの連続性</b>			
育みたい資質・能力及び幼			
児期の終わりまでに育て			
ほしい姿		5	
発達の特徴と育ちの連続性		9	
<b>保育・教育課程</b>			
0歳児		19～23	
0～1歳児		24～25	
1歳児		26～27	
2歳児		28～31	
3歳児		32～36	
4歳児		37～41	
5歳児		42～46	
<b>【ち】 地域との連携について</b>		15	
<b>【つ】 つなぐ</b>			
子どもでつなぐ		77	
教職員でつなぐ		78	
カリキュラムでつなぐ		79	
保護者との連携でつなぐ		80	
<b>【と】 特別支援教育について</b>		17	
特別な配慮が必要な家庭への			
支援について		18	
<b>【ひ】 評価について</b>		108	
<b>【ほ】 保育・教育課程の実践</b>		13	
保育・教育課程の見方		14	
<b>【よ】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</b>			
育みたい資質・能力及び幼児期の			
終わりまでに育ってほしい姿		5	
幼児教育から小学校教育の			
「学び」のつながり		81～89	
<b>【れ】 連携</b>			
子どもの発達と学びをつなぐ			
園と小の連携		74	
浦安市の幼保小連携教育の			
考え方		75	
子どもの発達と学びをつなぐ			
「4つのポイント」		76	
幼児教育から小学校教育の			
「学び」のつながり		81	
幼児教育と小学校教育の			
つながりと違い		90	
5歳児の学びのカリキュラム			
・スタートカリキュラム		94	
架け橋期のカリキュラム		102	

## あとがき

浦安市就学前「保育・教育」指針は、平成21年に【いきいき☆浦安っ子】と策定され、平成25年、平成29年、令和3年と改訂されてきました。そして今年度、4回目の改訂を迎え、この1年様々な方と共に、検討と作成を進めてまいりました。

昨年度より始まった就学前・教育指針改訂に係る事前検討会では、【いきいき☆浦安っ子】の原点である、「浦安市のすべての子どもたちに、質の高い保育・教育を」というねらいをしっかりと理解し、改訂における必要な内容をじっくりと検討してきました。現在、地域のコミュニティーを生かした運営がますます必要となり、架け橋期の充実や幼保小の連携の重要性を念頭に、検討会で改訂のポイントを話し合いました。また、幼児の実態や社会環境は刻々と変化していくため、それらに応じた保育・教育課程の内容の見直し等も検討事項としました。

今年度、改訂委員会メンバーに、小学校や私立園からの委員が加わったことが話し合いの充実につながり、様々な視点からの話し合いがなされました。関係機関の枠を超えた者同士が、試行錯誤しながら話し合うということで、保育や教育の重要性を互いが認識し、互いの現状を知る貴重な場となりました。新たに始めるということとはとても大変な作業でありましたが、話し合いの積み重ねが着実に形となり、皆が目指す方向が見えてきました。委員の一人一人が質の高い保育・教育を目指し、検討や作成に携わってきた表れだと思います。

今後、幼・保・小がつながった貴重な取り組みをそれぞれの場で引継ぎ、【いきいき☆浦安っ子】活用を十分に周知していく役目があると考えています。

最後になりましたが、多岐にわたりご指導を賜りましたアドバイザーの明治学院大学心理学部教授 松寄洋子先生、千葉大学教育学部教授 砂上史子先生に、この場をおかりしまして、深く感謝申し上げます。

指針改訂委員会作業部会委員長 岡田 亜紀子

改訂 浦安市就学前「保育・教育」指針 「いきいき☆浦安っ子」

発行年月 令和8年（2026年）2月  
発行 浦安市  
編集 浦安市健康こども部保育幼稚園課  
住所 〒279-8501  
浦安市猫実1-1-1  
電話 047-351-1111（代表）

浦安市就学前「保育・教育」指針

## 改訂 いきいき☆浦安っ子

「乳児・幼児期にふさわしい生活の展開と

学びの芽を育み、そして就学へ」



令和8年2月 浦安市